

- 主軸方向 N - 8° - W  
 柱穴 堀り方は平面形が隅丸方形で、長軸60~80cm、短軸50~60cm、確認面からの深さは26~44cmを測る。E B 7 では礎板の痕跡が底面で検出された。  
 出土遺物 遺物は出土していない。

## S B 5 (第113図)

- 規模 A・B区で検出され、S B 4 の南に位置する。南側が調査区外となるため、全体の規模は不明であるが、梁行4.1m、桁行5.1m以上を測る2間×3間以上の南北棟の建物跡で、柱間は梁行が2.0~2.1m、桁行が北から3.0・2.1mを測る。

- 主軸方向 N - 7° - W  
 柱穴 堀り方は平面形が方形や円形で、径40~55cmを測る。確認面からの深さは36~42cmを測る。  
 出土遺物 遺物は出土していない。

## S B 6 (第114図)

- 規模 調査区西半部に位置する。梁行3.1m、桁行4.2mを測る2×1間規模の南北棟の建物跡で、柱間は梁行が1.4~1.7m、桁行が4.2mを測る。

- 主軸方向 N - 11° - W  
 柱穴 堀り方は平面形が円形で、径30~35cmを測る。確認面からの深さは10~30cmを測る。  
 出土遺物 遺物は出土していない。

## S B 7 (第115図)

- 規模 S B 6 の西に位置し、S A 30と重複関係にあるが、遺構の直接の切り合いがないため先後関係は不明である。梁行6.1m、桁行6.4mを測る2×3間の母屋に、西面に廂が付く東西棟の建物跡で、柱間は梁行が1.8~2.2m、桁行が2.2~2.3mを測る。

- 主軸方向 N - 5° - W  
 柱穴 堀り方は母屋部分の柱穴の平面形が隅丸方形や長方形で、長軸50~150cm、短軸40~60cmを測る。確認面からの深さは28~52cmを測る。廂部分の柱穴の平面形は円形を呈し、径30cm前後、確認面からの深さは26~38cmを測る。

- 出土遺物 柱穴覆土から、内面が黒色処理される土師器坏片が出土した。

## S B 8 (第116~120図)

- 規模 S B 7 の北西に位置し、S B 10を切っている。南北6.5m、東西2.6m以上を測る3×1間以上の建物跡で、柱間は南北が2.1~2.3m、東西が2.6mを測る。

- 主軸方向 N - 0°  
 柱穴 堀り方は平面形が隅丸方形で、長軸70~120cm、短軸60~95cmを測る。確認面からの深さは38~74cmを測る。E B 1~E B 5 で柱根が遺存していた。木柱は1本の材について分割して使用されており、直径は16~22cmを測る。

- 出土遺物 柱穴覆土から、土師器坏(117-1)、須恵器甕(117-2、3)が出土した。117-1は非口クロ成形の坏で、底部は平底、体部外面はケズリ、内面はミガキ、黒色処理される。その他、図化していないが須恵器坏、土師器甕が出土している。

重桿番号	層位	土色	土質	備考
SB4EB1	1	10YR2/2 黒褐色	粘質土	地山段・同ブロックをやや多く含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘質土	地山段・同ブロックを少量含む。やや暗い色調。
	3	10YR4/6 浅褐色	粘質土	10YR2/2黒褐色粘質土・同ブロックを中程度含む。
	4	10YR2/2 黒褐色	粘質土	地山段・同ブロックを少量含む。柱頭部の一部分か。
SB4EB2	1	10YR2/2 黒褐色	粘質土	地山段・同ブロックを多く含む。より地山の粒子が小さい。
	2			EB1F1と同一。小礫をやや多く含む。
	3			EB1F2と同一。
	4	10YR4/6 褐色	粘質土	小礫・砂礫までり。10YR2/2黒褐色粘質土粒を少量含む。
SB4EB3	5	10YR2/1 黒色	粘質土	地山段 (2~6mm大) を少量含む。
	1	10YR2/2 黒褐色	粘質土	地山段 (2~5mm大) を少量含む。柱頭部。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘質土	地山段・同ブロックを中程度含む。
	3	10YR4/6 褐色	細砂	粘質土と細砂・小礫・砂礫のまじり。10YR2/2黒褐色粘質土粒・同ブロックを少量含む。
SB4EB4	4			EB1F2と同一。砂礫・小礫をやや多く含む。
	1	10YR4/6 黒色	土	10YR2/1黒褐色粘質土粒を少量含む。砂礫・小礫をやや多く含む。
	2	10YR2/1 黒色	粘質土	砂礫・小礫をやや多く含む。
	3	10YR2/1 黒色	粘質土	地山段・同ブロックを少量含む。砂礫・小礫のまじりが少ない。
SB4EB5	4	10YR2/1 黒色	粘質土	柱頭部。
	1			EB1F2と同一。砂礫・小礫をやや多く含む。
	2			10YR2/1黒褐色粘質土粒 (2~4mm大) を中程度含む。砂礫・小礫をやや多く含む。
	3	10YR4/6 褐色	粘質土	10YR2/2黒褐色粘質土粒 (2~4mm大) を少量含む。
SB4EB6	4	10YR4/6 褐色	粘質土	EB4F3と同一。
	1			砂礫・小礫をやや多く含む。
	2			10YR2/1黒褐色粘質土粒 (2~4mm大) を中程度含む。砂礫・小礫をやや多く含む。
	3	10YR4/6 褐色	粘質土	10YR2/2黒褐色粘質土粒 (2~4mm大) を少量含む。
SB4EB7	4			砂礫・小礫をやや多い。
	1	10YR2/1 黒色	粘質土	地山段・同ブロックを少量含む。砂礫・小礫をやや多く含む。
	2	10YR2/1 黒色	粘質土	砂礫・小礫を含む。
	3	10YR2/1 黑色	粘質土	2より砂礫・小礫がやや多い。
SB4EB8	4	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段・同ブロックを中程度含む。砂礫・小礫をやや多く含む。
	5	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段・同ブロックを少量含む。砂礫・小礫をやや多く含む。
	6	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段・同ブロックを少量含む。
	1	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段・同ブロックを少量含む。柱抜き取り痕。
SB4EB9	2	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段・同ブロックを中程度含む。砂礫・小礫をやや多く含む。柱抜き取り痕。
	3	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段・同ブロックを少量含む。
	4	10YR4/6 褐色	粘質土	地山段・同ブロックを少量含む。
	1	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段・同ブロックを多量に含む。
SB5EB1	2	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段 (2~6mm大) を少量含む。
	3	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段・同ブロックを中程度含む。
	1	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段・同ブロックを少量含む。
	2	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段・同ブロックを中程度含む。
SB5EB2	3	10YR4/6 浅褐色	粘質土	10YR2/1黒褐色粘質土粒・同ブロックをやや多く含む。
	1	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段・同ブロックを中程度含む。
	2	10YR2/1 黑色	粘質土	地山段・同ブロックを中程度含む。
	3	10YR4/6 褐色	粘質土	EB1F3と同一。
SB5EB3	1			EB1F2と同一。
	2	10YR4/6 褐色	粘質土	10YR2/1黒褐色粘質土粒・同ブロックを中程度含む。
	3			EB1F3と同一。

## S B 10 (第116・120図)

規模 S B 7 の北西、S B 9 の北に位置し、S B 8 に切られる。南北5.4m、東西2.1m以上を測る3×1間以上の建物跡で、柱間は南北が1.7~2.1m、東西が2.1mを測る。

主軸方向 N - 0°

柱穴 掘り方は平面形が隅丸方形で、長径60~70cmを測る。確認面からの深さは34~60cmである。E B 4 で柱根が遺存し、木柱の直径は約18cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

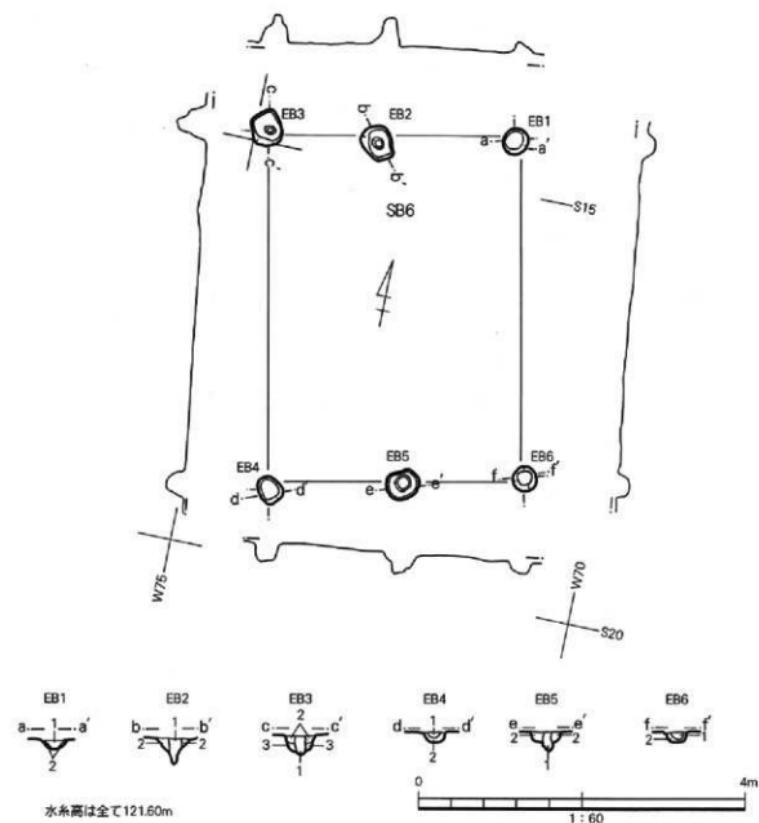
## S B 11 (第121図)

規模 S B 1 の南東に位置する。梁行3.6m、桁行3.9mを測る2×2間規模の東西棟の建物跡で、柱間は梁行が1.7~1.9m、桁行が北面で東から1.9・2.0mを測る。

主軸方向 N - 0°

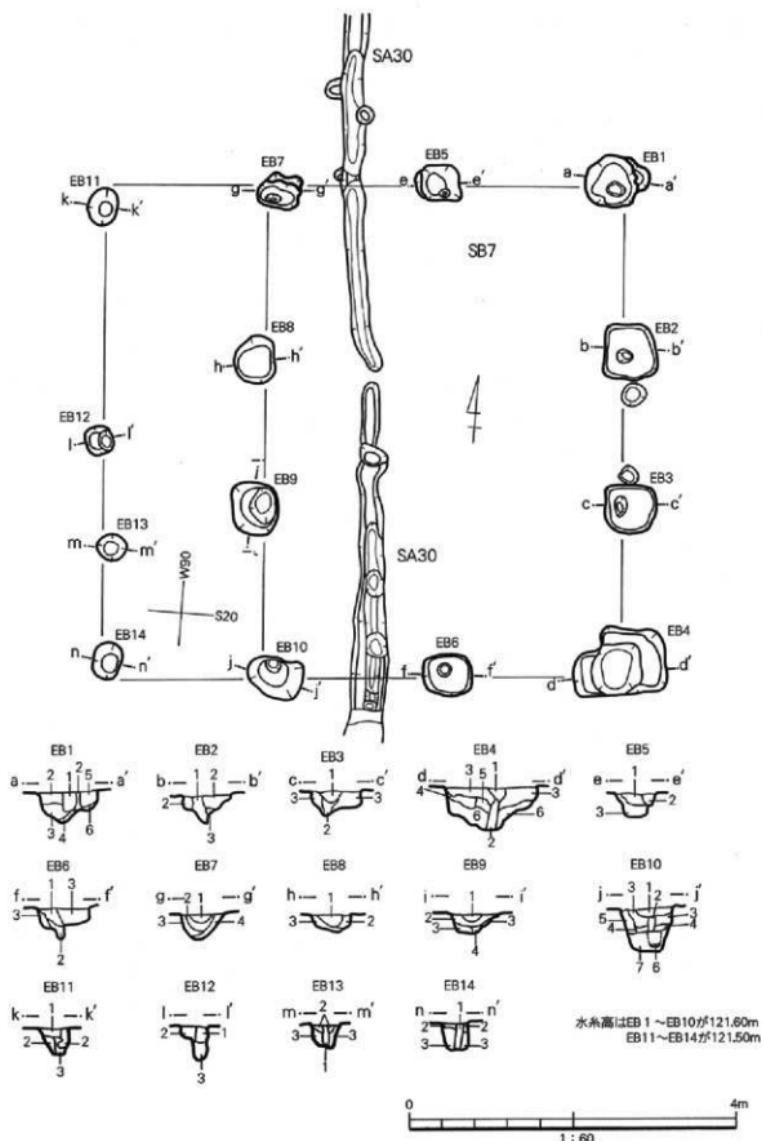
柱穴 掘り方は平面形が方形や梢円形で、径40~60cmを測る。確認面からの深さは35~48cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。



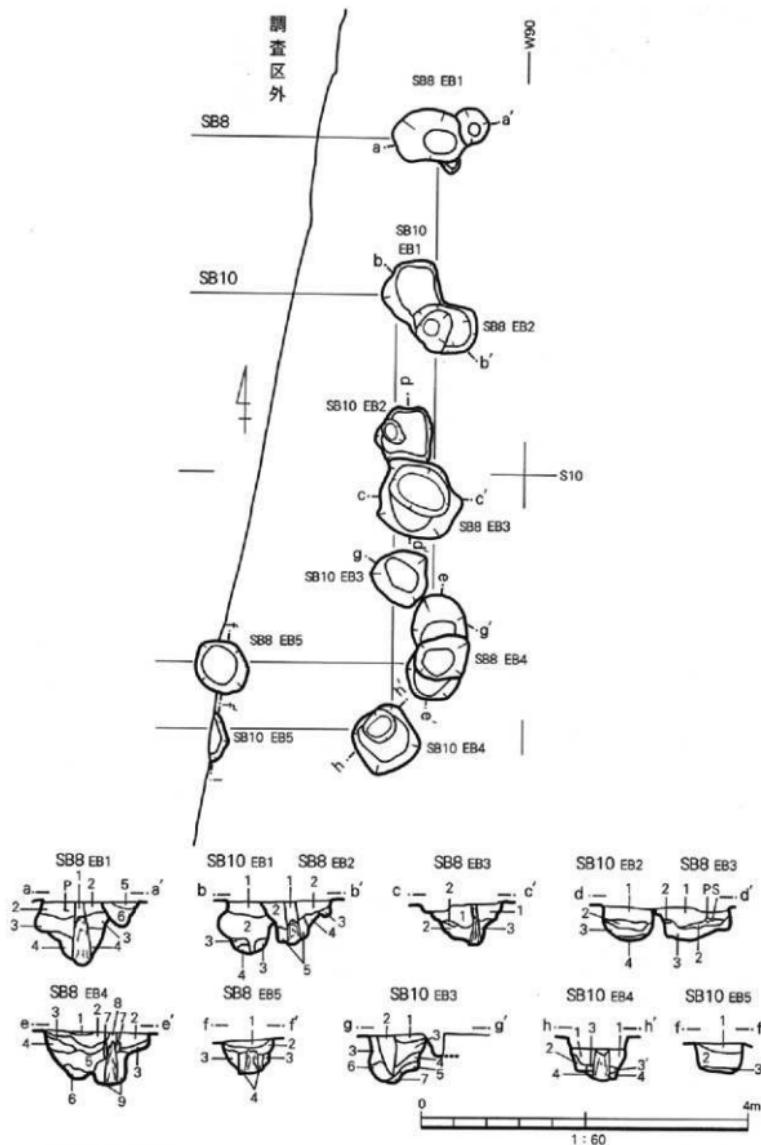
第114図 吉原Ⅲ遺跡SB6掘立柱建物跡

遺構番号	用位	土色	土質	備考
SB6EB1	1	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒を少額含む。炭化粒を少量含む。
	2	10YR4/6 褐色	粘質土	10YR2/1黒褐色粘質土粒(2~6mm大)を中程度含む。小礫・砂礫を含む。
SB6EB2	1	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックを中程度含む。柱痕跡。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘質土	地山粒・同ブロックを多く含む。
SB6EB3	1			柱痕跡。
	2	10YR4/6 褐色	粘質土	10YR2/2黒褐色粘質土粒・同ブロックをやや多く含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	粘質土	地山粒・同ブロックを中程度含む。
SB6EB4	1	10YR2/2 黑褐色	粘質土	比較的均一
	2	10YR2/1 黑色	粘質土	地山粒・同ブロックを少量含む。
SB6EB5	1	10YR2/1 黑色	粘質土	EB2F1と同一。
	2			EB2F2と同一。
SB6EB6	1			EB4F1と同一。小礫を含む。
	2			EB1F2と同一。

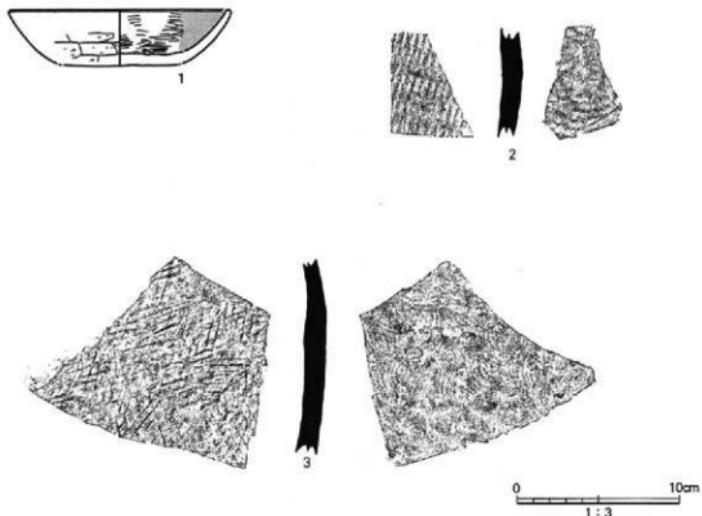


第115図 吉原Ⅲ遺跡SB7掘立柱建物跡

遺構番号	層位	土 色	土質	備 考
SB7EB1	1	10YR2/1 黒色	砂質土	10YR6/3にぶい黄褐色砂質粘土(地山土)のブロック( $\phi=1\sim3\text{ cm}$ )をまだらに含む。
	2			1と同じ。ただし、地山土のブロックは $\phi=3\sim5\text{ cm}$
	3			2と同じ。ただし、地山土の割合が少ない。
	4			3に堆山砂がブロック状にまじる。
	5	10YR2/1 黒色	砂質土	均一。
	6	10YR3 /1 黑褐色	砂質土	5に地山土のまさり。
SB7EB2	1	10YR2/1 黒色	砂質土	粘性少々あり。地山土の粒( $\phi=0.5\sim1\text{ cm}$ )を少々含む。
	2	10YR2/1 黒色	砂質土	地山土のブロック( $\phi=2\sim5\text{ cm}$ )がまだらにまざる。
	3	10YR1.7/1 黒色	シルト質土	均一。
SB7EB3	1	10YR2/1 黒色	砂質土	均一。ただし、地山土のブロック( $\phi=1\text{ cm}$ )が一部にまじる。
	2	10YR3 /1 黑褐色	砂質土	地山土の粒( $\phi=0.5\sim0.8\text{ cm}$ )が均一にまじる。
	3	10YR2/1 黒色	砂質土	地山土のブロック( $\phi=8\text{ cm}$ )がまだらにまじる。
SB7EB4	1	10YR3 /1 黑褐色	砂質土	地山土のブロック(10YR4/2、 $\phi=3\text{ cm}$ )が少々まじる。
	2	10YR2/1 黒色	シルト質土	均一。
	3	10YR2/1 黒色	砂質土	地山土のブロック( $\phi=5\sim10\text{ cm}$ )がまだらにまじる。
	4	10YR2/1 黒色	シルト質土	均一。一部、地山土がまじる。
	5			6とほぼ同じ。ただし、10YR2/1砂質土の割合が多い。
	6			地山土のブロック( $\phi=5\sim15\text{ cm}$ )に、10YR2/1砂質土がまじる。
SB7EB5	1	10YR2/1 黒色	砂質土	均一。地山土(10YR4/2)が、少々まじる。
	2	10YR3/2 黑褐色	砂質土	地山土と、10YR2/1砂質土のまさり。
	3			2とほぼ同じ。ただし、10YR2/1砂質土の割合が多い。
SB7EB6	1	10YR2/1 黒色	砂質土	均一。
	2			1に、地山土がブロック状( $\phi=5\sim8\text{ cm}$ )にまじる。
	3	10YR2/1 黒色	砂質土	地山土のブロック( $\phi=3\sim8\text{ cm}$ )がまだらにまじる。
SB7EB7	1	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックをやや多く含む。
	2	10YR2/1 黑色	粘質土	地山粒(2~3mm大)をわずかに含む。
	3	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックを少々含む。
	4	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックを中程度含む。小礫・砂礫を含む。
SB7EB8	1			EB7F1と同一。
	2	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックを多く含む。
	3			EB7F4と同一。
SB7EB9	1	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックを中程度含む。
	2	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロック(大)を多量含む。
	3	10YR4/6 淡褐色	粘質土	10YR2/1黑色粘質土粒・同ブロックを中程度含む。砂礫・小礫を含む。
	4	10YR2/1 黑色	粘質土	地山粒・同ブロックをやや多く含む。
SB7EB10	1	10YR4/6 淡褐色	粘質土	10YR2/1黑色粘質土粒・同ブロックを中程度含む。
	2	10YR2/1 黑色	粘質土	地山粒・同ブロックを中程度含む。(柱痕跡)。
	3	10YR2/1 黑色	粘質土	地山粒・同ブロックをやや多く含む。
	4	10YR4/6 淡褐色	粘質土	10YR2/1黑色粘質土粒・同ブロックを少量含む。
	5	10YR2/1 黑色	粘質土	地山粒・同ブロックを少量含む。
	6	10YR2/1 黑色	粘質土	均一な層。柱痕跡。
	7	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘質土	10YR2/1黑色粘質土粒・同ブロックを少量含む。酸化鉄粒を少量含む。
SB7EB11	1	10YR2/1 黑色	土	地山粒・同ブロックを中程度含む。砂礫・小礫を中程度含む。
	2	10YR4/6 淡褐色	粘質土	10YR2/1土粒・同ブロックをやや多く含む。
	3	10YR2/1 黑色	粘質土	比較的均一な層。
SB7EB12	1	10YR2/1 黑色	土	地山粒・同ブロックを少量含む。
	2	10YR2/1 黑色	土	地山粒・同ブロックを多く含む。砂礫・小礫をやや多く含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘質土	10YR2/1粘質土粒・同ブロックを中程度含む。酸化鉄粒を含む。
SB7EB13	1	10YR2/1 黑色	粘質土	地山粒(2~3mm大)を少量含む。炭化粒を少量含む。
	2	10YR2/2 黑褐色	粘質土	地山粒・同ブロックを中程度含む。
	3	10YR4/6 淡褐色	粘質土	10YR2/1粘質土粒・同ブロックを少量含む。砂礫・小礫をやや多く含む。
SB7EB14	1	10YR2/2 黑褐色	粘質土	堆山粒を少量含む。柱痕跡。
	2	10YR2/1 黑色	土	地山粒・同ブロックを中程度含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	粘質土	10YR2/1粘質土粒・同ブロックをやや多く含む。

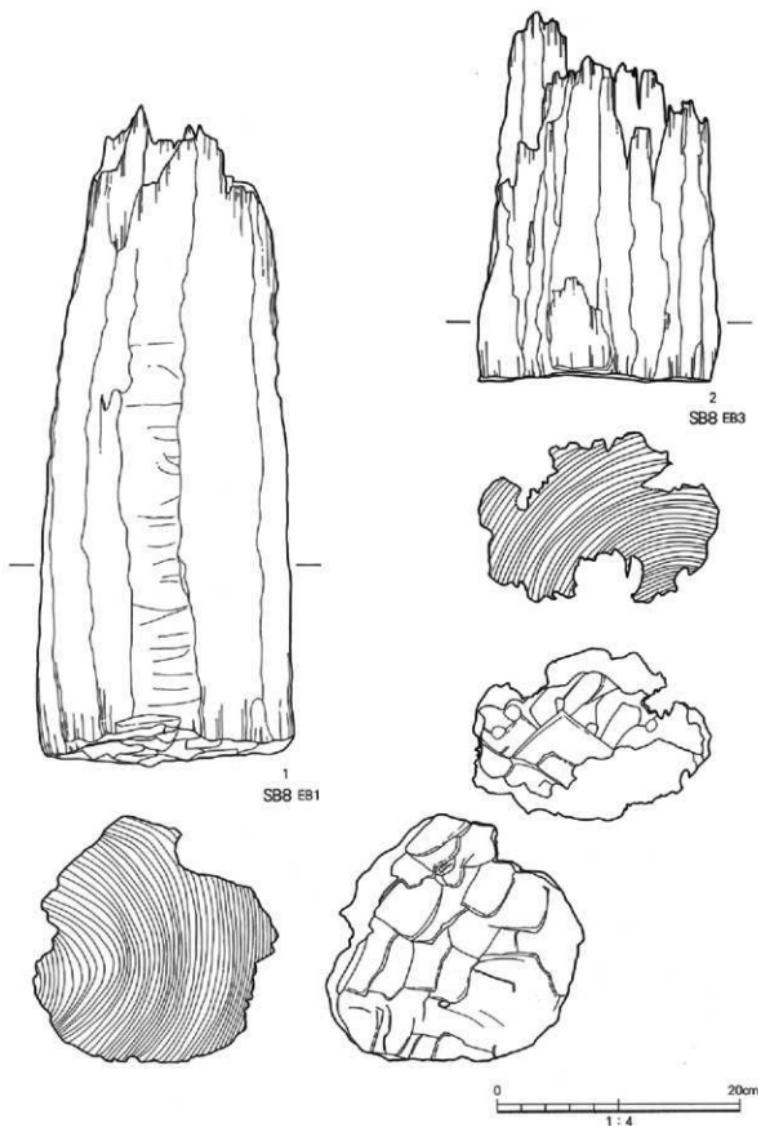


第116図 吉原Ⅲ遺跡SB8・10櫛立柱建物跡

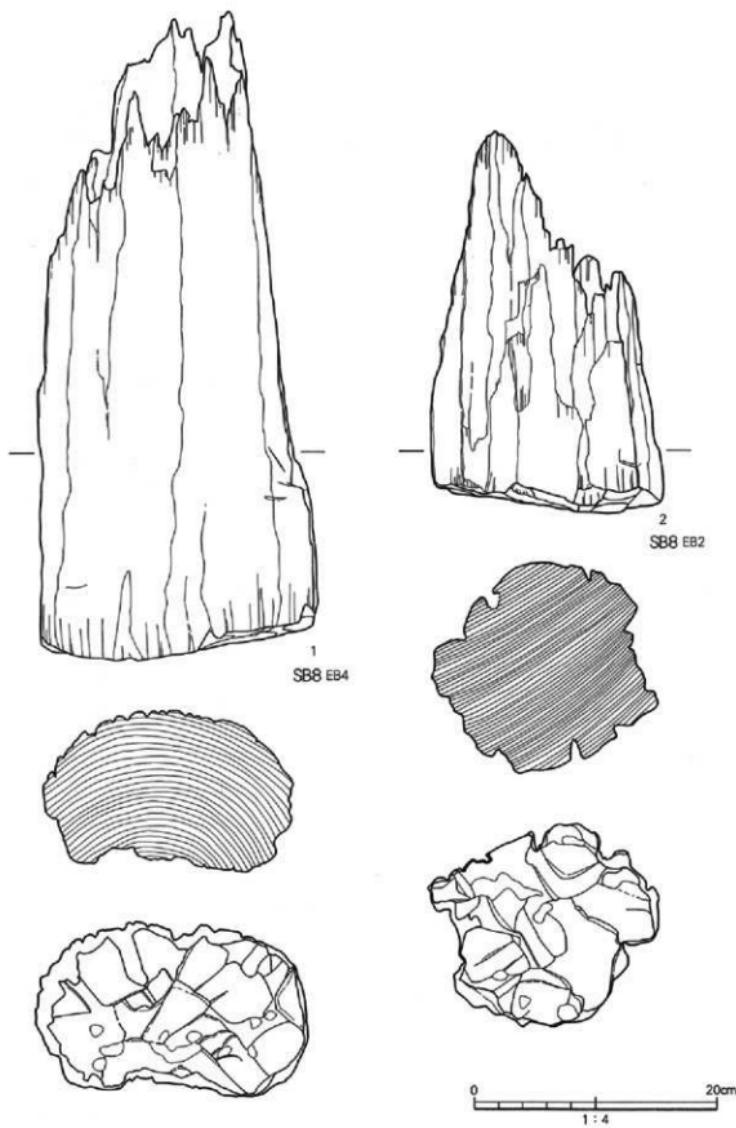


第117図 吉原Ⅲ遺跡SB8出土土器

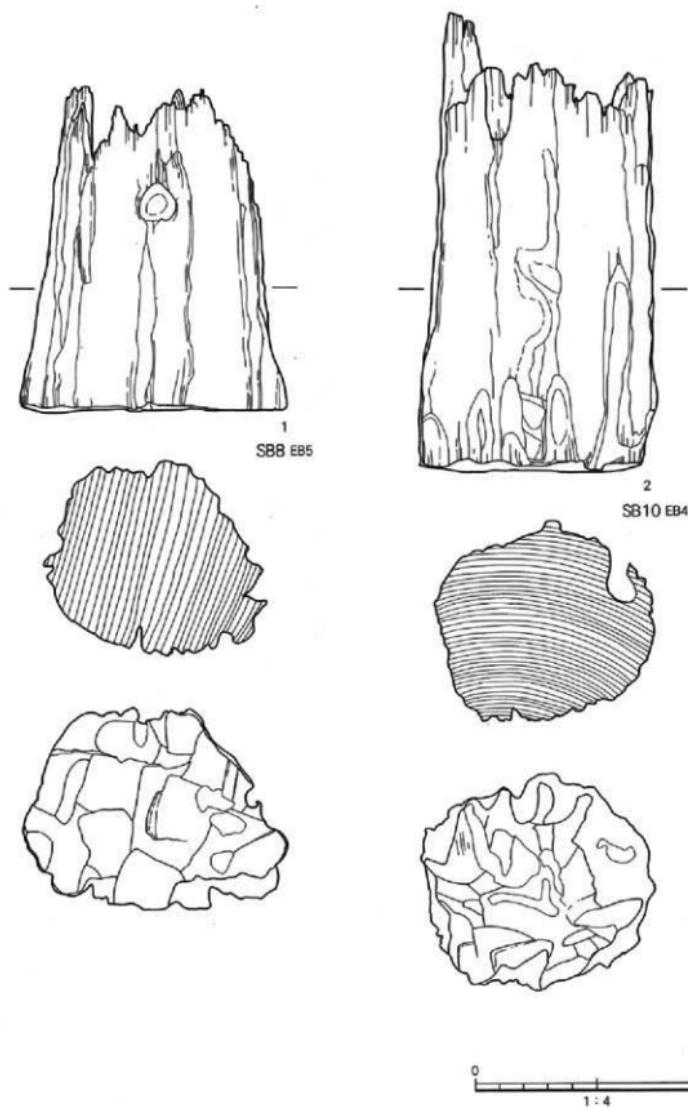
遺跡番号	層	土	色	土	質	圖	考
SB8EB1	1	10YR2/1	褐色	粘質土	細粒 / 粘土質砂質土 / 黒褐色 / ブロックを少量含む。	1	
	2	10YR2/1	褐色	土	砂質土		
	3	10YR2/1	褐色	土	砂質土		
	4	10YR4/2	灰褐色	砂質土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黒褐色 / ブロックを多く含む。EB8EB1と同一層。	2	
	5	10YR2/1	褐色	土	砂質土 / ブロックを少量含む。グライ化している。砂質・小礫を少量含む。	3	
	6	10YR4/6	褐色	土	10YR2/1/土質 / 黑褐色 / ブロックをやや多く含む。砂質・小礫を少量含む。	4	
SB8EB2	1	10YR2/1	褐色	粘質土	細粒 / 砂質土 / ブロックを多く含む。砂質・小礫を少量含む。	1	
	2	10YR2/1	褐色	土	砂質土 / 土 / mm大 / 少量含む。	2	
	3	10YR2/1	褐色	土	細粒 / 黑褐色 / ブロックを多く含む。	3	
	4	10YR2/6	褐色	粘質土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黒褐色 / ブロックを多く含む。	4	
SB8EB3	1	10YR2/1	褐色	粘質土	細粒 / 砂質土 / ブロック / 黒褐色 / ブロックを多く含む。	1	
	2	10YR4/2	灰褐色	砂質土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックを少量含む。小礫・砂質を少量含む。	2	
	3	10YR3/2	暗褐色	粘質土	砂質を多く含む。10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックを少量含む。砂山・同ブロックを中程度含む。	3	
	4	10YR2/1	褐色	土	砂山 / 同ブロックを多く含む。砂質・小礫を少量含む。	4	
SB8EB4	1	10YR2/1	褐色	土	砂山 / 同ブロックを多く含む。	1	
	2	10YR2/1	褐色	土	砂山 / 同ブロックを多く含む。	2	
	3	10YR4/6	褐色	粘質土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックを中程度含む。	3	
	4	10YR2/2	褐色	粘質土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックを少量含む。	4	
SB8EB5	1	10YR2/1	褐色	土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックを少量含む。	1	
	2	10YR2/1	褐色	粘質土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックを少量含む。	2	
	3	10YR4/4	褐色	粘質土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックを少量含む。	3	グライ化したもの。
	4	10YR2/1	褐色	土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックを少量含む。	4	
SE10EB1	1	10YR2/1	褐色	粘質土	砂質を少く含む。砂質・小礫を少量含む。	1	
	2	10YR2/1	褐色	粘質土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックを中程度含む。	2	
	3	に少し黄褐色	褐色	粘質土	砂質を多く含む。砂質・小礫を含む。巨礫を削除するためか。	3	
	4	10YR2/1	褐色	粘質土	砂質を削除した。	4	
SE10EB2	1	10YR2/1	褐色	粘質土	砂質 / 砂山 / 砂質を含む。砂質まじり。柱根の周囲はグライ化している。	1	
	2	10YR2/1	褐色	粘質土	砂質 / 同ブロックを多く含む。砂質まじり。柱根の周囲はグライ化している。	2	
	3	10YR2/1	褐色	粘質土	砂質 / 同ブロックを多く含む。砂質まじり。柱根の周囲はグライ化している。	3	
	4	10YR2/1	褐色	粘質土	砂質を多く含む。砂質 / 砂山 / 砂質を含む。柱根の周囲はグライ化している。	4	
SB10EB3	1	10YR2/1	褐色	粘質土	砂質 / 砂山 / 砂質を含む。柱根の周囲はグライ化している。	1	
	2	10YR2/1	褐色	粘質土	砂質 / 同ブロックを多く含む。EB4EB1と同様。	2	
	3	10YR2/1	褐色	粘質土	砂質 / 同ブロックを多く含む。EB4EB1と同様。	3	
	4	10YR2/1	褐色	粘質土	砂質 / 同ブロックを多く含む。EB4EB1と同様。	4	
SB10EB4	1	10YR2/1	褐色	粘質土	砂質を少く含む。EB4EB1と同様。	1	
	2	10YR5/4	に少し黄褐色	粘質土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックを中程度含む。	2	
	3	10YR2/1	褐色	粘質土	砂質を少く含む。	3	グライ化したもの。
	4	10YR5/3	に少し黄褐色	粘質シルト	10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックを中程度含む。	4	
SB10EB5	1	10YR2/1	褐色	粘質土	金属性 / フィスのコクリートの基礎の下の野原。	1	
	2	10YR2/1	褐色	粘質土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックをわずかに含む。	2	
	3	に少し黄褐色	褐色	粘質土	10YR2/1/褐色粘質土 / 黑褐色 / ブロックをわずかに含む。	3	



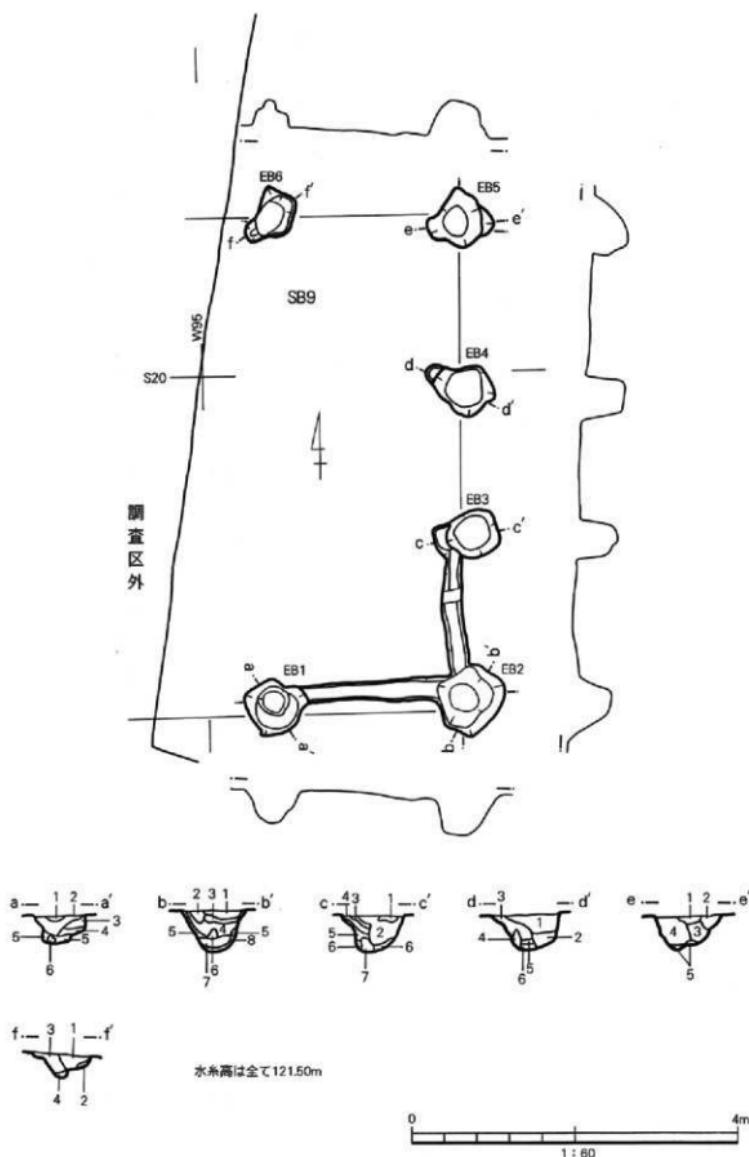
第118図 吉原Ⅲ遺跡SB8出土木柱（1）



第119図 吉原Ⅲ遺跡SB8出土木柱（2）



第120図 吉原Ⅲ遺跡SB8・10出土木柱

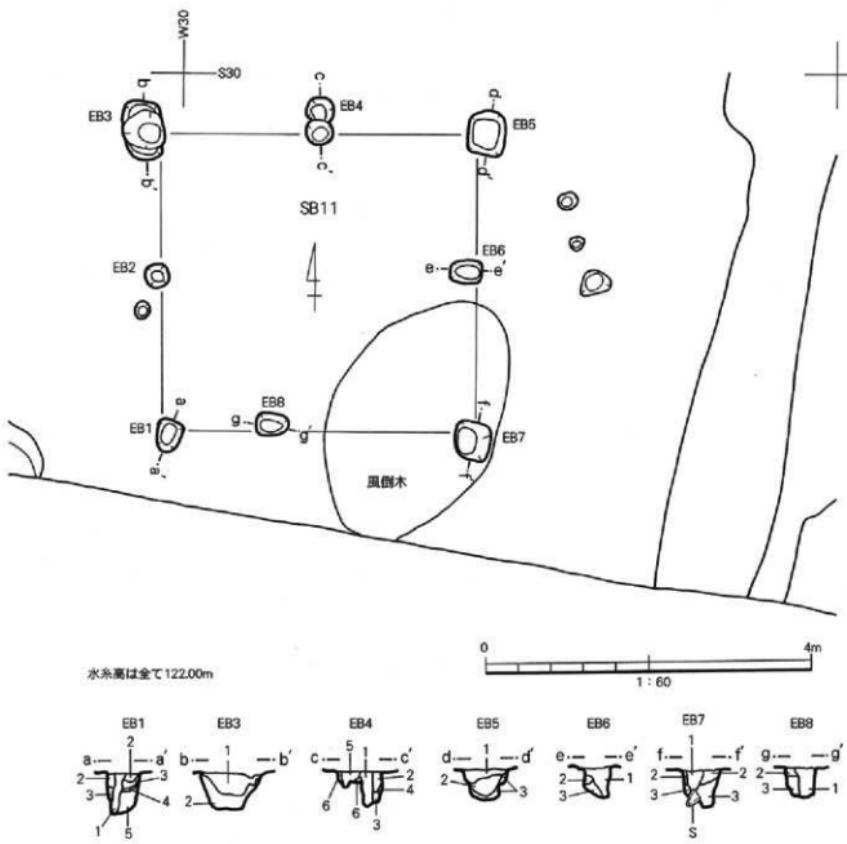


第121図 吉原Ⅲ遺跡SB9掘立柱建物跡

遺構番号	層位	土 色	土 質	備 考
SB9EB1	1	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックを多く含む。小礫・砂礫をやや多く含む。
	2	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒を少量含む。炭化粒を少量含む。
	3	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒を少量含む。
	4	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒を少量含む。やや暗い色調。
	5	10YR4/6 海色	粘質土	砂礫・小礫をやや多く含む。10YR2/1黒色粘質土粒を少量含む。
	6	10YR2/1 黒色	粘質土	比較的均一。
SB9EB2	1	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒を少量含む。
	2	10YR4/6 海色	粘質土	10YR2/1黒色粘質土粒・同ブロックを中程度含む。
	3	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックを多量に含む。
	4	10YR2/1 黒色	粘質土	比較的均一な層。
	5	10YR5/4 暗褐色	粘質土	10YR2/1黒色粘質土粒を少量含む。
	6	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘質土	10YR2/1黒色粘質土粒・同ブロックを中程度含む。
	7	10YR2/1 黒色	粘質土	4よりやや暗い色調・比較的均一な層。
	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質土	砂礫・小礫を含む。10YR2/1黒色粘質土粒・同ブロックを中程度含む。
SB9EB3	1			EB2F2と同一。
	2			EB2F2と同一。
	3	10YR4/6 海色	粘質土	10YR2/1黒色粘質土粒・同ブロックを中程度含む。
	4	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒をわずかに含む。
	5	10YR2/1 黒色	粘質土	炭化粒を少量含む。地山粒・同ブロックを少量含む。
	6	10YR4/6 海色	粘質土	砂礫・小礫まじり。10YR2/1黒色粘質土粒・同ブロックを中程度含む。
	7	10YR2/1 黒色	粘質土	比較的均一。柱痕跡。
SB9EB4	1			EB2F4と同一。
	2			EB2F7と同一。
	3	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックを多く含む。
	4	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒 (2~4mm大) を少量含む。
	5	10YR2/1 黒色	粘質土	粘質土を少量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質土	砂礫まじり。10YR2/1黒色粘質土粒を少量含む。
SB9EB5	1			EB2F2と同一。
	2	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックを少量含む。
	3	10YR2/1 黒色	粘質土	比較的均一な層。
	4	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロック・10YR2/3黒褐色粘質土ブロックを中程度含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質土	EB4F6と同一。
SB9EB6	1			EB2F4と同一。
	2	10YR4/6 海色	粘質土	10YR2/1黒色粘質土粒 (2~6mm大) を少量含む。
	3	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックを少量含む。
	4	10YR2/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックを3よりやや多く含む。

表11 吉原Ⅲ遺跡掘立柱建物跡計測表

構造番号	番 号	方 向	規 模	規 模 (m)		柱間寸法 (m)		柱穴の深さ (cm)	備 考
				乗 行	桁 行	乗 行	桁 行		
108	SB 1	N - 7° - W	2×1	3.4	3.7	1.6~1.7	3.7	18~30	
109	SB 2	N - 6° - W	2×4	7	8.6	2.6~2.7	2.0~2.2	16~56	東面に廻
111	SB 3	N - 7° - E	2×2	2.4	2.5	1.2	1.2~1.3	20~48	鉛柱
113	SB 4	N - 8° - W	2×3	4.6	5.7以上	2.1~2.5	1.8~2.0	26~44	
113	SB 5	N - 7° - W	2×3	4.1	5.1	2.0~2.1	2.1~3.0	36~42	
114	SB 6	N - 11° - W	2×1	3.1	4.2	1.4~1.8	4.2	10~30	
115	SB 7	N - 5° - W	2×3	6.1	6.4	2.2~2.3	1.9~2.1	28~52	西面に廻
116	SB 8	N - 0° -	1×3	2.6以上	6.5	2.6	2.1~2.3	38~74	
121	SB 9	N - 0° -	1×3	2.4以上	6.1	2.2~2.4	1.8~2.0	28~50	
116	SB 10	N - 0° -	1×3	2.1以上	5.4	2.1	1.7~2.1	34~60	
122	SB 11	N - 0° -	2×2	3.6	3.9	1.7~1.9	1.9~2.0	35~48	



第122図 吉原Ⅲ遺跡SB11掘立柱建物跡

遺跡番号	層位	土色	土質	備考
SB11	1	10YR2/1 黒色	粘質土	小礫を含む。
	2	10YR2/1 深色	粘質土	10YR4/6褐色粘質土粒・同ブロックを中程度含む。小礫を含む。
	3	10YR4/6 深色	粘質土	10YR4/6褐色粘質土粒を少度含む。小礫を含む。
	4	10YR2/1 黑色	粘質土	比較的均一。
	5	10YR5/4 にがい黄褐色	粘質土	10YR2/1黒色粘質土粒を少度含む。小礫を含む。
EB1	1	10YR2/1 黑色	土	10YR4/6褐色粘質土ブロックを多く含む。
	2	10YR4/6 深褐色	粘質土	10YR4/6褐色粘質土ブロックを中程度含む。小礫を含む。
EB3	1	10YR2/1 黑色	土	10YR4/6褐色粘質土ブロックを多く含む。
	2	10YR4/6 深褐色	粘質土	10YR4/6褐色粘質土ブロックを中程度含む。小礫を含む。
EB4	1	10YR2/2 黒褐色	粘質土	小礫を少度含む。
	2	10YR2/2 深褐色	粘質土	10YR2/2深褐色粘質土粒・同ブロックを中程度含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	粘質土	10YR2/2深褐色粘質土粒を少度含む。
	4	10YR2/1 黑色	粘質土	比較的均一。
	5	10YR2/1 黑色	粘質土	小礫を少度含む。
	6	10YR4/6 深色	土	10YR2/2黒色粘質土ブロックを中程度含む。

遺跡番号	層位	土色	土質	備考
EB5	1	10YR2/1 黒色	土	地山の「阿波ロック」を多く含む。
	2	10YR2/1 黒色	粘質土	地山の「阿波ロック」をより多く含む。
	3	10YR5/4 にがい黄褐色	粘質土	10YR2/1黒色粘質土粒・同ブロックを中程度含む。
EB6	1	10YR2/1 黒色	粘質土	地山の「阿波ロック」を中程度含む。
	2	10YR4/4 暗色	粘質土	10YR2/1黒色粘質土粒を少度含む。
	3	10YR4/4 暗色	粘質土	10YR2/1黒色粘質土を斑状に多く含む。
EB7	1	10YR2/1 黒色	粘質土	小礫を少度含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘質土	10YR2/1黒色粘質土を含む。
	3	10YR4/6 黄褐色	粘質土	心地にない白色小礫を少度含む。
EB8	1	10YR2/2 黑褐色	粘質土	化粧土・小礫をやや多く含む。
	2	10YR2/2 黑褐色	粘質土	小礫を多く含む。
	3	10YR2/2 黑褐色	粘質土	小礫を多く含む。

## (2) 杭列跡

本遺跡において杭列と考えられる遺構が検出された。以下に概述する。

### S A 30 (第123図)

**規模** 調査区西半部に位置し、北側を S D 36・37に切られる。南部で西に屈曲し、10mより以西は調査区外となるため、全体の規模は不明である。

掘り方の幅は約20~45cm、長さは検出長で21m(南北)、確認面からの深さは15~20cmを測る。検出面より10~15cmほど掘り下げた段階で、直径10cm前後の円形の杭跡が検出された。杭跡の間隔は不規則で、南東隅の一部には幅10cm前後、厚さ2.5cm弱の板材状の痕跡も検出された。板材状の痕跡と円形の杭跡は互いに切り合いなどではなく、同時期に存在したものと考えられる。

土層断面及び床面に検出された杭痕跡の観察では、杭痕跡の周囲に掘り方が確認されなかつたため、杭は打ち込まれたものと考えられる。

**主軸方向** N - 4° - W

**出土遺物** 覆土上層より、須恵器高台坏(123-1)が出土した。底部切離しあは回転糸切である。その他、固化していないが、内面が黒色処理される土師器坏、土師器甕が出土している。

## (3) 土坑

本遺跡で、土坑として登録した遺構は10基を超える。全て奈良~平安時代に帰属する。以下に主なものについて個別に概述する。

### S K 14 (第124・125図)

**規模** 調査区東端部に位置する。平面形が楕円形を呈し、長径2.0m、短径1.3mを測り、確認面からの深さは約50cmである。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は2層からなり、黒褐色土を基調とする。

**出土遺物** 須恵器・土師器・赤焼土器などの遺物が多く出土している。

須恵器では蓋・坏・甕が出土している。蓋(124-1)は天井部が平坦になる形態のもので、体部外面がヘラケズリ調整される。坏(124-2~6)は底部切離しが全て回転糸切のものである。甕(125-7)は外面に平行タタキ、内面に無文のアテがなされている。

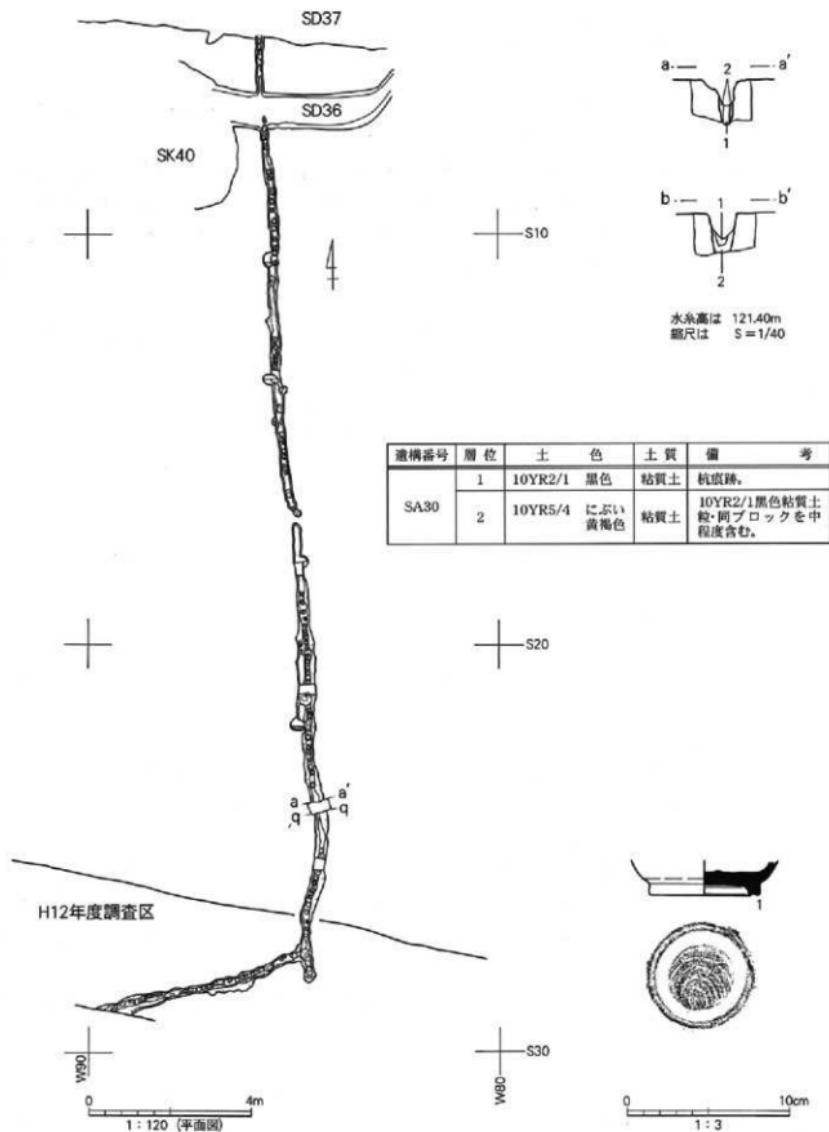
土師器では鉢・甕が出土している。鉢(125-8)は内面が黒色処理される。甕(125-9~13、15)は9、10が小型の甕、11~13、15は長胴形になる大型の甕で、両者とも口縁部はナデ、体部外面は縦方向、内面は横方向のハケメ調整が施される。底部には木葉痕が認められる。

赤焼土器では甕(125-14)が出土した。底部を欠損するが、口縁部がくの字に外反する器形である。

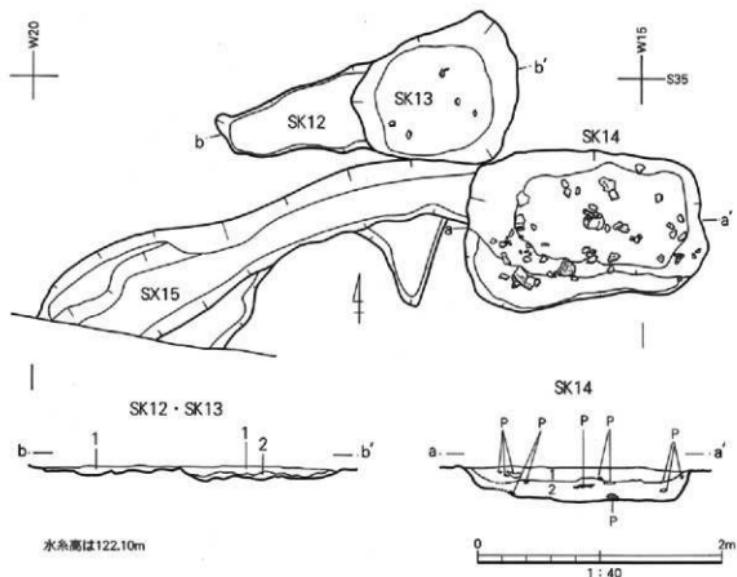
### S K 28 (第126図)

**規模** 調査区中央部に位置し、S D 24を切っている。平面形が楕円形を呈し、長径1.9m、短径1.2mを測る。確認面からの深さは45cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は凹凸がある。

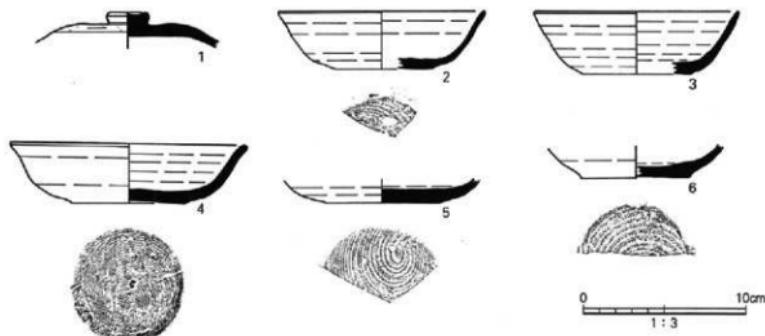
**出土遺物** 覆土上層から、須恵器・土師器などの土器が出土した。S D 24出土土器片との接合も確認された。



第123図 吉原Ⅲ遺跡SA30杭列・出土土器



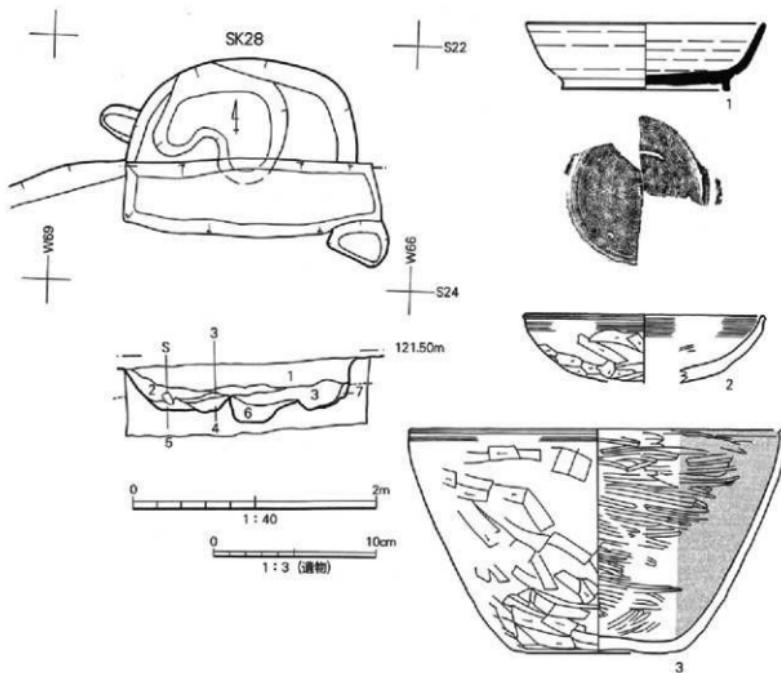
遺構番号	層位	土色	土質	備考
SK12	1	10YR4/6 黒褐色	土	10YR2/2黒褐色土を斑状に含む。
SK13	1	10YR2/2 黒褐色	土	10YR4/6褐色土粒・同ブロックを中程度含む。
	2	10YR4/6 梅色	土	10YR2/2黒褐色土を斑状に中程度含む。
SK14	1	10YR2/2 黒褐色	土	10YR5/4にぶい黄褐色粘質土粒・同ブロックを中程度含む。燒土粒・土器片・炭化粒を多く含む。
	2	10YR2/1 黒色	粘質土	10YR5/4にぶい黄褐色粘質土粒を少量含む。炭化粒(1~5mm大)を1より多く含む。



第124図 吉原Ⅲ遺跡SK14土坑・出土土器 (1)



第125図 吉原Ⅲ遺跡SK14出土土器（2）



第126図 吉原Ⅲ遺跡SK28土坑・出土土器

遺構番号	層位	土色	土質	備考
SK28	1	10YR2/1 黒色	土	地山小ブロック状混入有。黒褐色砂粒のブロック状混入有。
	2	10YR2/1 黒色	土	地山小ブロックが少量混入。1層に比べて混入物が少ない。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質土	
	4	10YR3/1 黑褐色	砂質土	黒褐色土中に地山砂粒のブロック状混入物が多い。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	土質砂	地山砂粒が多量に混入。
	6	10YR2/1 黒色	砂質土	黒褐色土の小ブロックが少量混入。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	土質砂	地山砂粒多量混入。

底部がヘラケズリ調整される須恵器高台坏（126-1）、土師器坏（126-2）、鉢（126-3）などが出土している。2は非ロクロ成形の坏で、体部外面がケズリ調整され、内面は黒色処理されない。底部を欠損しているが、丸底になるものと思われる。3は非ロクロ成形の、内面が黒色処理される土師器の鉢である。

## SK29（第127・128図）

**規模** 調査区中央部に位置し、西側が排水管埋設のため未調査である。平面形は不整な橢円形を呈するを考えられ、径は検出長で東西3.3m、南北2.9mを測る。確認面からの深さは40cm前後である。

**出土遺物** 覆土上～中層から須恵器・土師器などの土器が多く出土した。SD24出土の土器片との接合も確認された。

須恵器では、坏（128-1、4）・高台坏（128-2、3、5～7）・壺（128-8）が出土している。1は底部切離しがヘラ切、4は底部が回転ヘラケズリ調整される。高台坏では、2～4は底部がヘラ切、6、7は回転ヘラケズリやナデなどの調整がなされている。8は小型の短頸壺である。

土師器では坏・鉢が出土している。坏は非ロクロ成形で、有段丸底のものと平底の二つに大別できる。平底は丸底風の器形になるもの（11）もあり、器高によりさらに細分化される。9は有段丸底の内面が黒色処理されない小型の坏である。10～18は内面が黒色処理される坏で、体部から口縁部にかけて内湾するものが大半であるが、口縁部が外反するもの（14）も認められる。19は鉢の口縁部で、SK29からも同様の土器片が出土している。

## SK39（第129・130図）

**規模** SB8の東、SK40の北に位置する。平面形は円形を呈し、長径2.4m、短径2.2mを測り、確認面からの深さは約34cmである。壁の立ち上がりは緩やかで、中央部がさらに一段掘り込まれている。覆土には炭化物が多く含まれていた。

**出土遺物** 須恵器坏・高台坏が出土した。130-1は底部切離しが糸切、130-2は底部切離しがヘラ切の高台坏である。

## SK40（第129・130図）

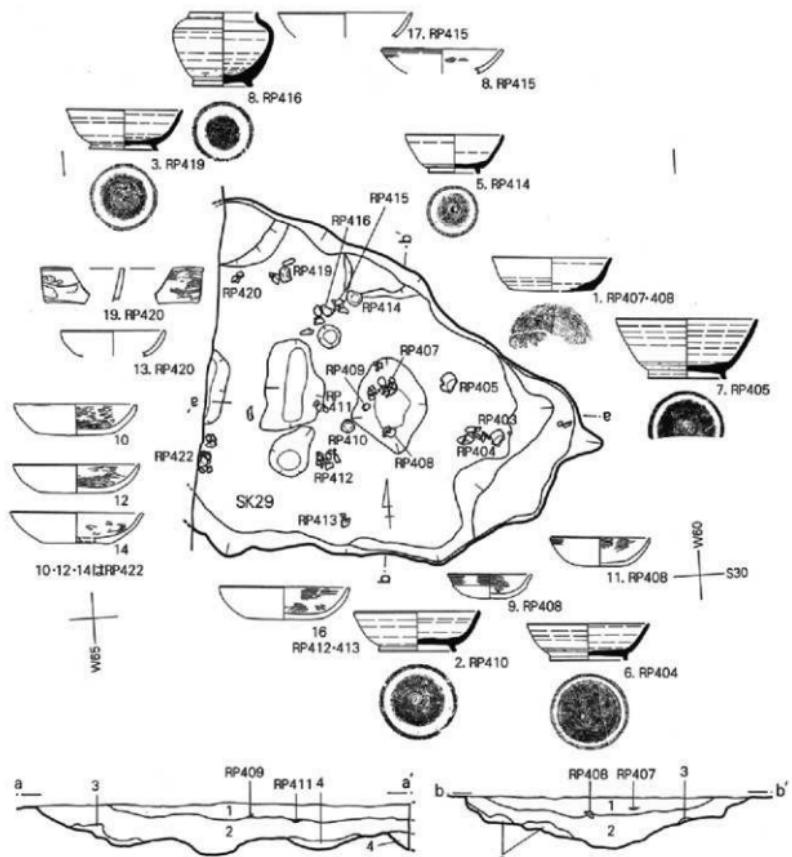
**規模** SK39の南、SK41の北に位置する。SK41、SD36に切られている。平面形は円形を呈し、径3.5m、確認面からの深さは約20cmを測る。

**出土遺物** 覆土上層から礫や炭化物と共に土器片が多く出土した。130-3～7は須恵器坏で、底部の切離しがヘラ切と糸切が混在する。7の底部にはヘラ記号「×」がなされている。130-8・10・11は須恵器壺である。11は壺の口縁部で、頸部に波状櫛描文が施される。130-9は土師器壺である。

## SK41（第129・131図）

**規模** SK40の南に位置し、同遺構を切っている。平面形は橢円形を呈し、長径1.7m、短径1.2mを測り、確認面からの深さは約30cmである。

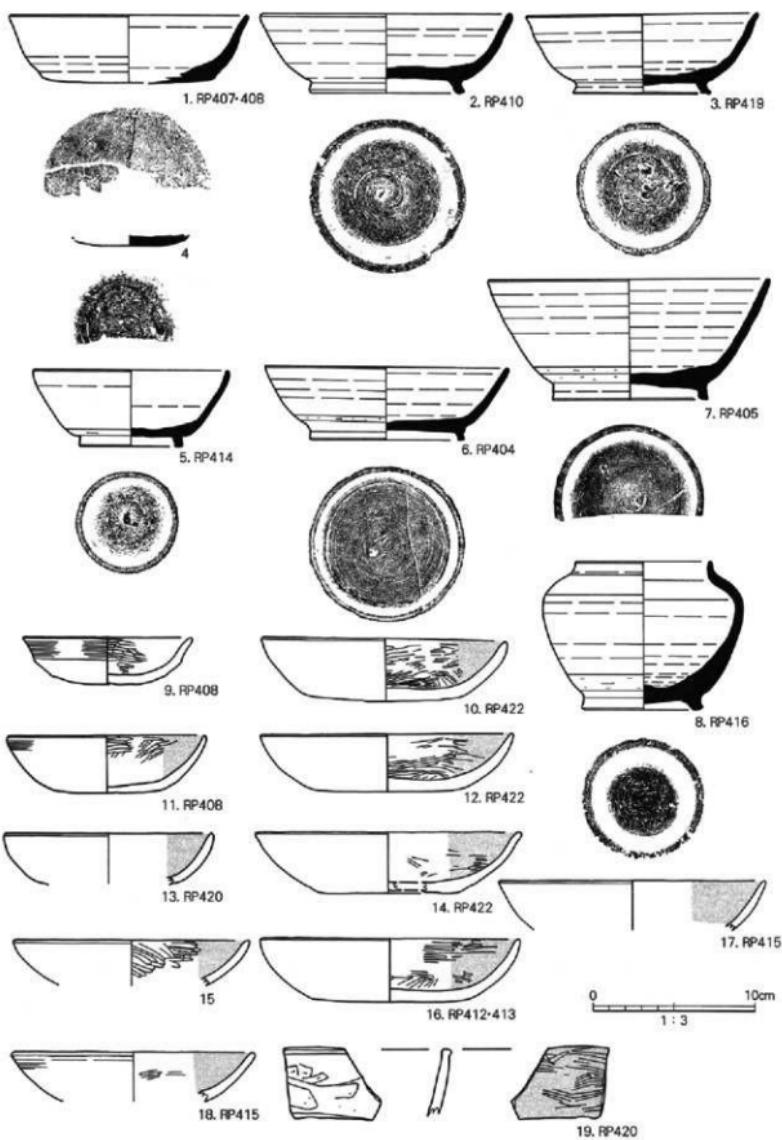
**出土遺物** 覆土上層から須恵器壺・土師器鉢が出土した。壺（131-1～5）は外面が平行タタキ、内面が同心円状のアテが施されるものが大半であるが、1は外面が格子目状のタタキである。6は土師器の鉢口縁部で、口縁部がナデ、体部がハケメ調整され、内面はミガキ、黒色処理される。



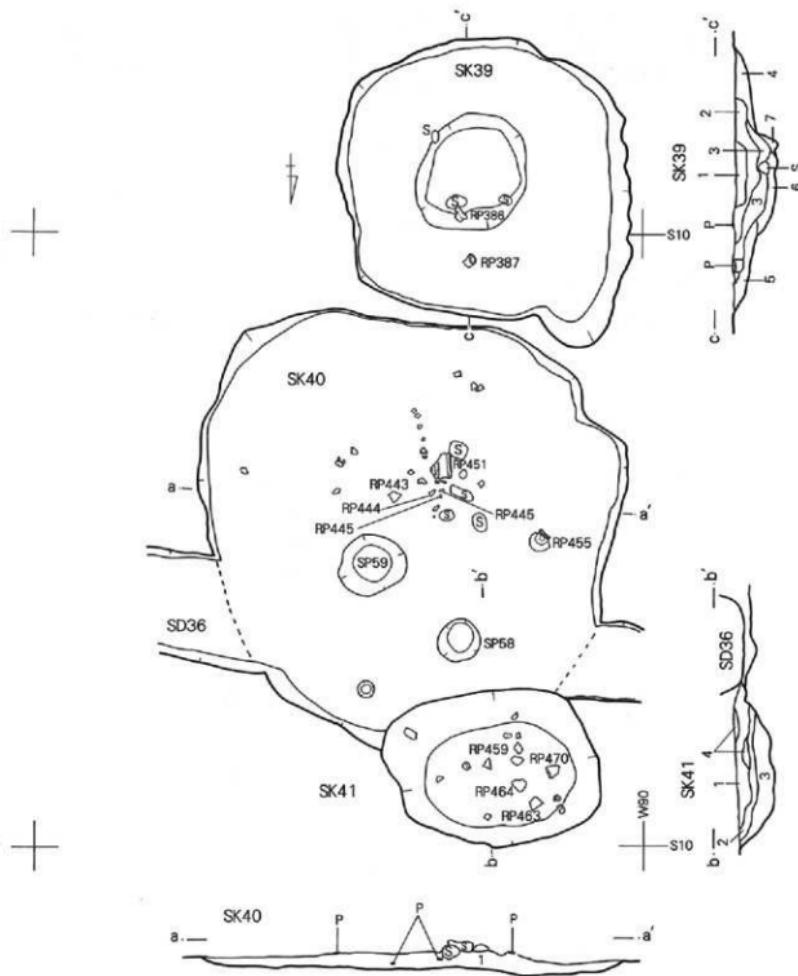
水系高は121.80m

遺構番号	層位	土色	土質	備考
SK29	1	10YR2/1 黒色	土	砂礫・小礫をやや多く含む。土器片を含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	土	砂礫・小礫を1と同程度含む。10YR4/3にぶい黄褐色微砂を少量含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	粘質土	地山を斑状に中程度含む。
	4	10YR2/2 黒褐色	土	砂礫まじり。地山粒(3~5mm大)を少量含む。

第127図 吉原Ⅲ遺跡SK29土坑



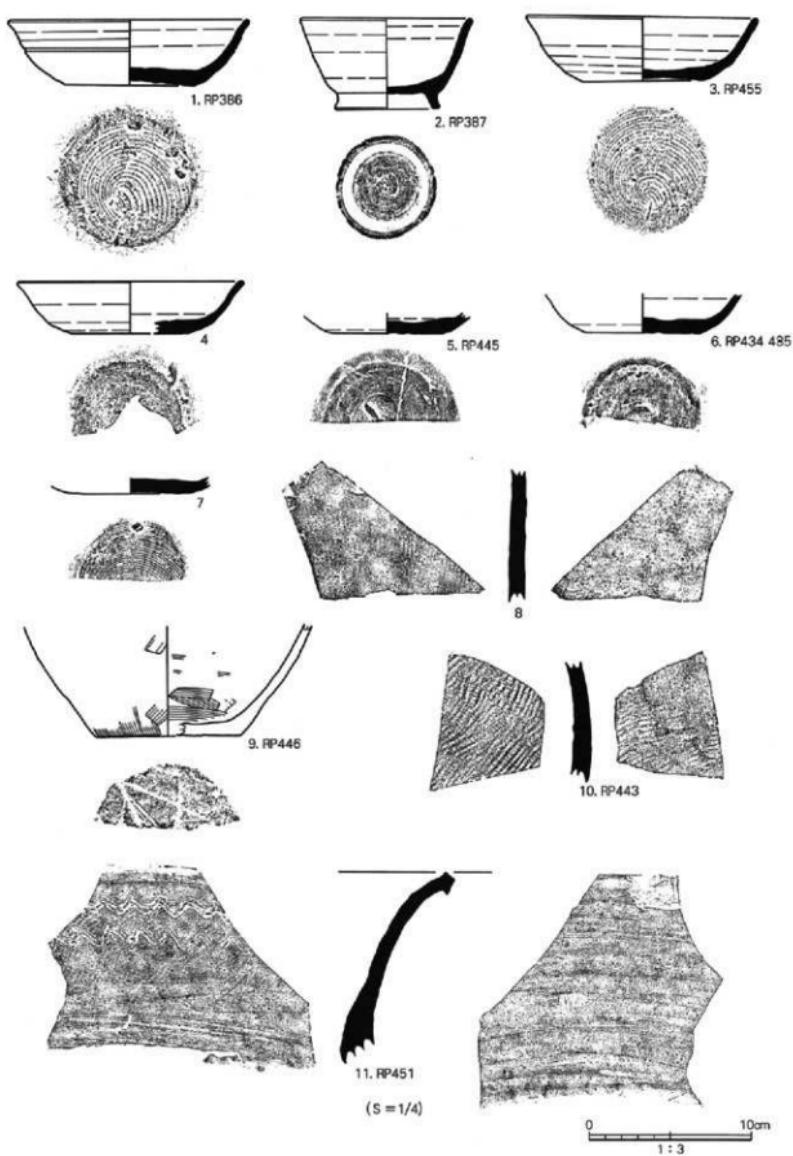
第128図 吉原Ⅲ遺跡SK29出土土器



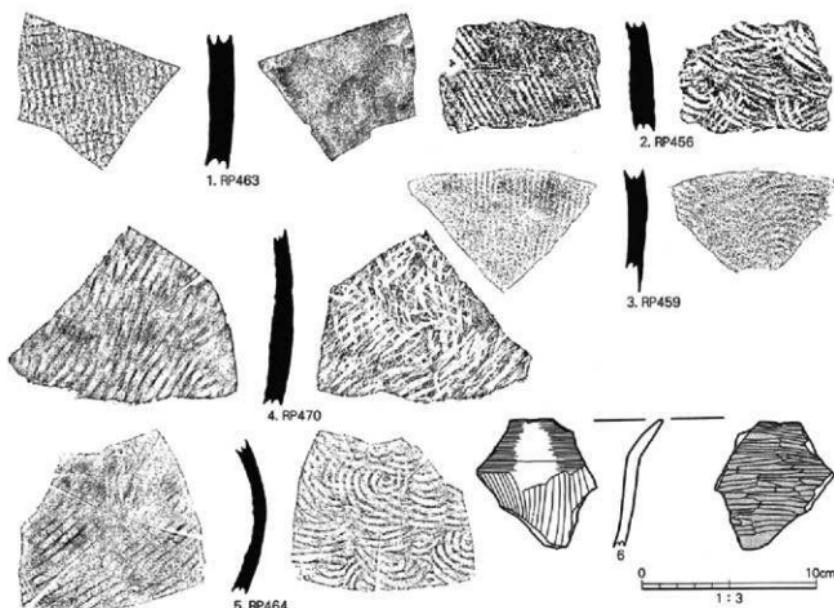
水糸高は全て 121.60m

0 1 : 40 2m

第129図 吉原Ⅲ遺跡SK39・40・41土坑



第130図 吉原Ⅲ遺跡SK39・40出土土器



第131図 吉原Ⅲ遺跡SK41出土土器

造構番号	層位	土色	土質	備考
SK39	1	10YR3/2 黒褐色	砂質土	地山砂粒多量混入。10YR5/6黄褐色粘質土小ブロック少量混入。
	2	10YR3/1 黒褐色	土	地山砂粒多量混入。10YR5/6黄褐色粘質土小ブロック多量混入。
	3	10YR2/1 黒色	土	地山砂粒少量化入。中央部分の若干掘り下げている部分への堆積土となる。
	4	10YR2/2 黒褐色	土	地山砂粒多量混入。10YR5/6黄褐色粘質土小ブロック多量混入。
	5	10YR2/1 黒色	土	地山砂粒多量混入。10YR5/6黄褐色粘質土小ブロック少量混入。
	6	10YR3/1 黒褐色	粘質土	10YR5/6黄褐色粘質土小ブロック多量混入。
	7	10YR2/2 黒褐色	土	10YR5/6黄褐色粘質土小ブロック多量混入。10YR4/4褐色砂小ブロック少量混入。
SK40	1	10YR2/1 黒色	土	10YR5/6黄褐色粘質土ブロックの混入多い。
SK41	1	10YR3/1 黒褐色	砂質土	地山砂粒を多量に含む。又、10YR5/6黄褐色粘質土と10YR3/3暗褐色粘質土の小ブロック状混入少量あり。
	2	10YR2/1 黒色	土	地山砂粒を少量含む。又、10YR5/6粘質土小ブロック状混入も少量あり。
	3	10YR3/3 嗅褐色	砂質土	地山砂粒の中に地山由來の粘質土ブロックの他、F1層、2層と同じ黒褐色土のブロック状混入が多量にある。また、3~5mmの小礫の混入が多い。
	4	10YR5/6 黄褐色	粘質土	

## (4) 溝跡

調査で溝跡は大小含めて5条検出されている。以下に主なものについて個別に概述する。

## S D 24 (第132~140図)

**規模** A、B区において北東から南西に伸びる溝跡が検出された。中央で一度途切れるが、北東部は溝幅1.6~2m、確認面からの深さが10~15cm前後を測る。

溝は南西に向かって傾斜しており、幅はそれに伴い3.6~7mへと広がり、確認面からの深さも5cm未満と徐々に浅くなる様相を呈する。また、平面形も南西にかけて幅が広がると共に、不定形になる。

覆土は砂礫を含んだ黒褐色土を基調とし、遺物を多く含んでいる。基本的に2層からなり、砂、砂礫を含んだ黒褐色土で構成される。溝幅も一定せず、凹凸のある底面の形状、覆土の状況からは、人為的に構築された遺構ではなく、自然の小河川であると考えられる。

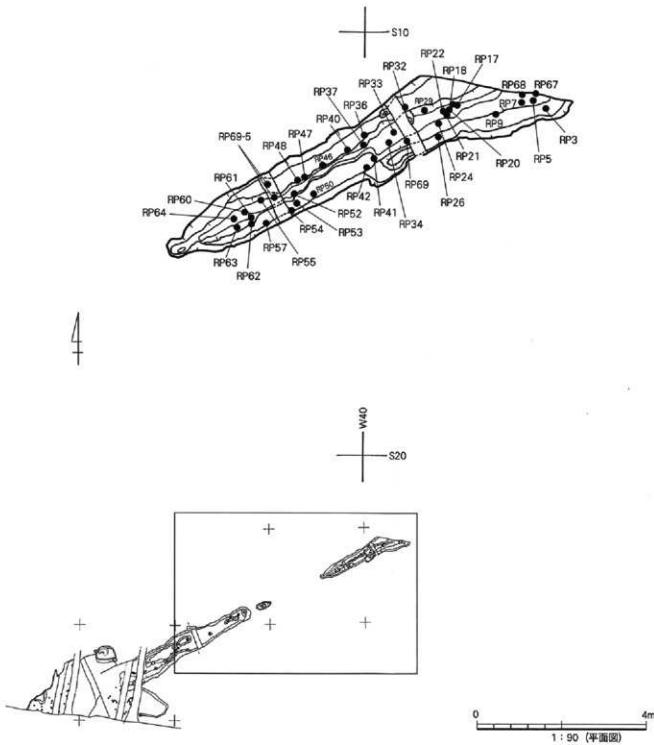
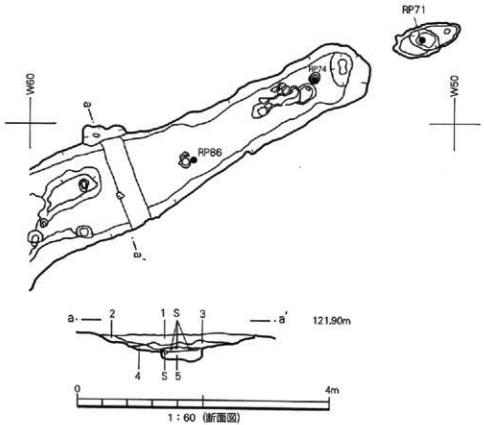
**出土遺物** 覆土上層より多量の遺物が出土した。土器が大半であるが、焼けた痕跡のある川原石なども出土している。主に土器について図化し、掲載した。以下、種別ごとに概術する。

須恵器では蓋・壺・高台壺・壺・甕が出土している。134-1~5は蓋で、天井部が平坦になるもの(1、4)と、丸みをもつものの(2、5)が出土している。134-6は壺の口縁部で、口縁部に打ち欠きが認められ、付近にスヌが付着している。須恵器壺は底部切離しがヘラ切と糸切が混在し、糸切がやや多い。134-8~19は底部切離しがヘラ切の壺である。10、19は底部にヘラ記号「×」が認められる。また13は字種不明であるが、墨書が底部に確認された。135-20、21は底部切離しが静止糸切の壺である。135-22~35、136-36~40は底部切離しが回転糸切の壺である。糸切後、回転ヘラケズリ調整されるもの(22)や底部にヘラ記号「×」がなされるもの(23、26、29、36)、底部に墨書されるもの(27)などがある。136-41~45は高台壺で、底部の切離しは糸切とヘラ切が混在する。136-46~48は壺で、46は小型の壺の底部で外面がケズリ調整されている。47、48は短頸壺の口縁部になると思われる。136-49~53、137-54~63、138-64~69は甕である。49~51はロクロ成形で、内外面がカキ目調整される。その他は大型の甕で、外面が平行タタキ、格子目状タタキ、内面に同心円状アテ、無文アテなどが施されている。

土師器では、非ロクロ成形とロクロ成形に大別できるが、非ロクロ成形のものが大半である。器種は壺・鉢・甕が出土している。138-70~77、139-78~97は壺で、70~77は内面が黒色処理されないものである。有段丸底になるもの(75、77)と平底になるもの(72、73)が認められ、有段丸底の段は不明瞭で、形骸化している。78~97は内面が黒色処理される壺で、有段丸底になるもの(91、97)と平底になるもの(78~81、83、84、86、87など)が認められる。79はロクロ成形の壺である。平底の壺でも、器高により大きく二つに細分化される。139-98は鉢で、口縁部はナデ、体部がケズリ調整、内面がミガキ、黒色処理される。140-99~107は非ロクロ成形の甕で、小型のものと大型のものが認められる。底部は平底で、木葉痕が確認される。

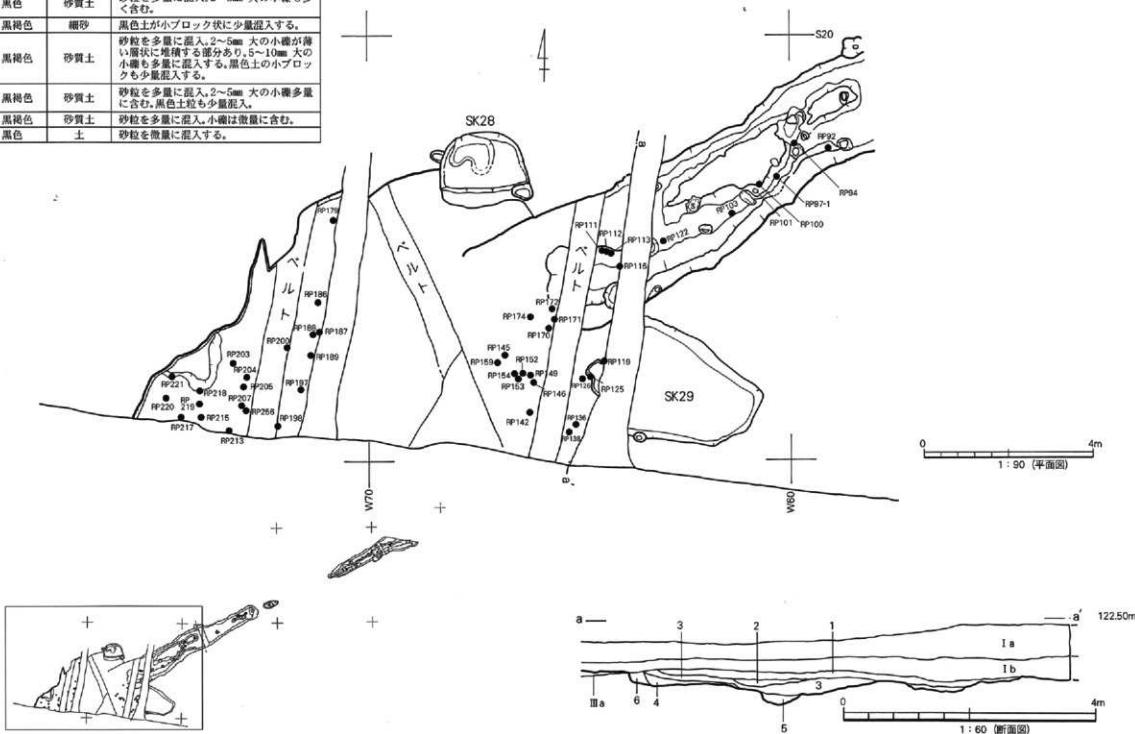
赤焼土器は須恵器・土師器に比べ、量的には僅少である。甕(140-108、109)が出土している。いずれも頸部がくの字に外反し、口縁端部がつまみ出されるものである。

遺構番号	層位	土色	土質	備考
SD24	1	10YR2/1 黒色	細砂	地山砂粒がブロック状に混入する。
a-a'	2	10YR2/1 黒色	土	地山砂粒がブロック状に混入する。
	3	10YR2/1 黒色	砂質土	地山砂粒がブロック状に混入する。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質土	3~5mm 大の小礫や多く含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	砂質土	地山砂粒が少量混入する。

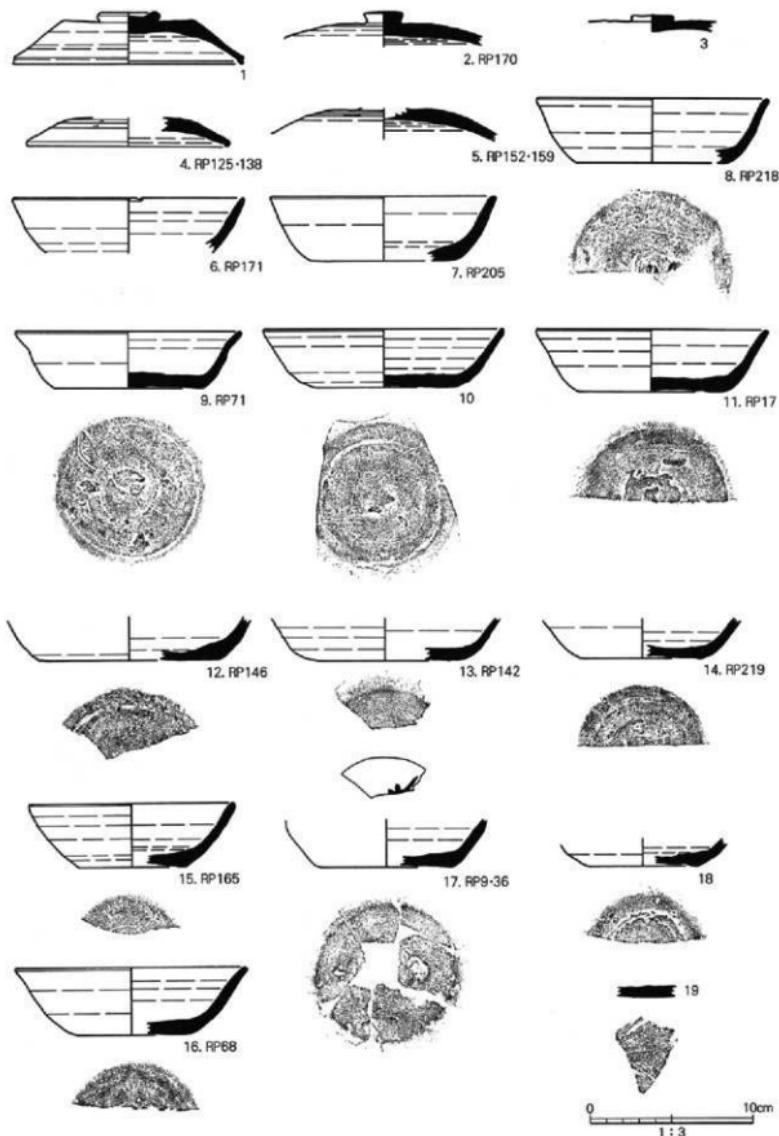


第132図 吉原Ⅲ遺跡SD24溝跡（1）

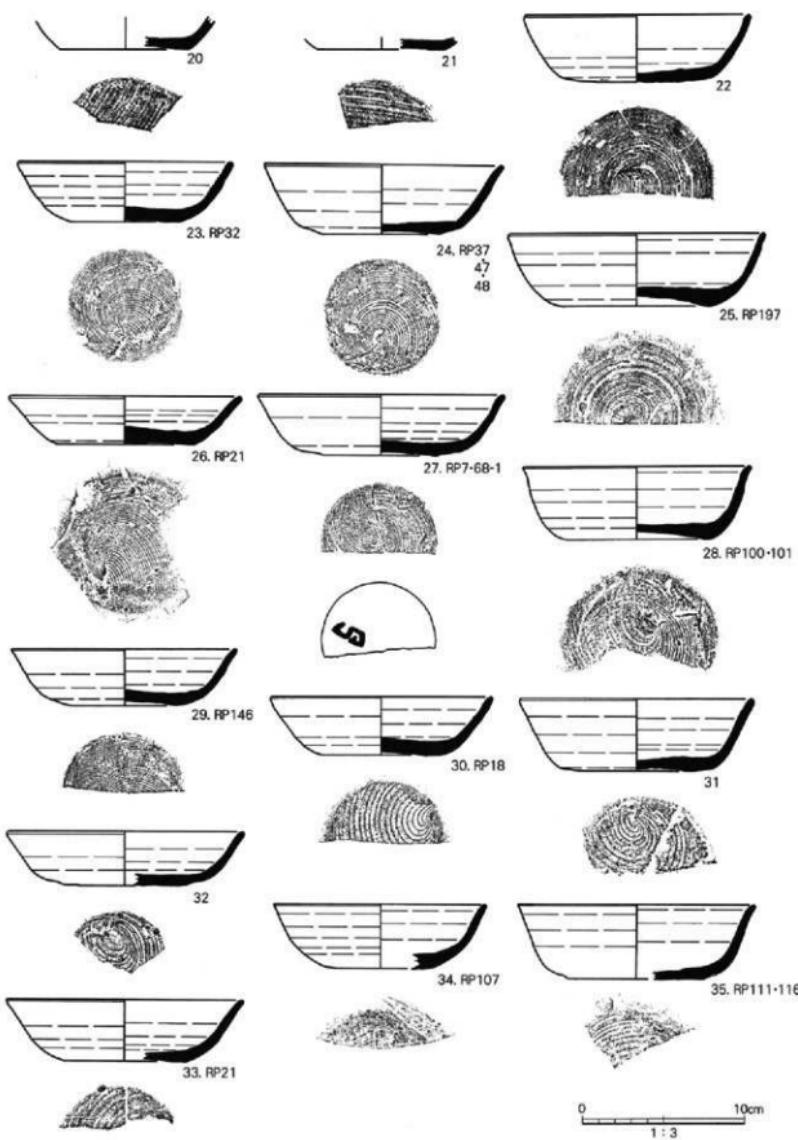
連続番号	解 位	土 色	土 質	備 考
	1 a	砂礫層		水田を埋め立てた土。盛土。
	1 b	10YR2/1 黒色	粘質シルト	旧耕作土
	III a	10YR5/6 黄褐色	粘質土	地山
SD24 b-b'	1	10YR2/1 黒色	砂質土	砂粒を多量に混入。2~5mm 大の小礫も少く含む。
	2	10YR3/1 黑褐色	細砂	黒色土が小ブロック状に少量混入する。
	3	10YR3/2 黑褐色	砂質土	砂粒を多量に混入。2~5mm 大の小礫が薄い脈状に堆積する部分あり。5~10mm 大の小礫も多量に混入する。黒色土の小ブロックも少く散在する。
	4	10YR3/2 黑褐色	砂質土	砂粒を多量に混入。2~5mm 大の小礫多量に含む。黒色土粒を少量混入。
	5	10YR2/2 黑褐色	砂質土	砂粒を多量に混入。小礫は微量に含む。
	6	10YR2/1 黑色	土	砂粒を微量に混入する。



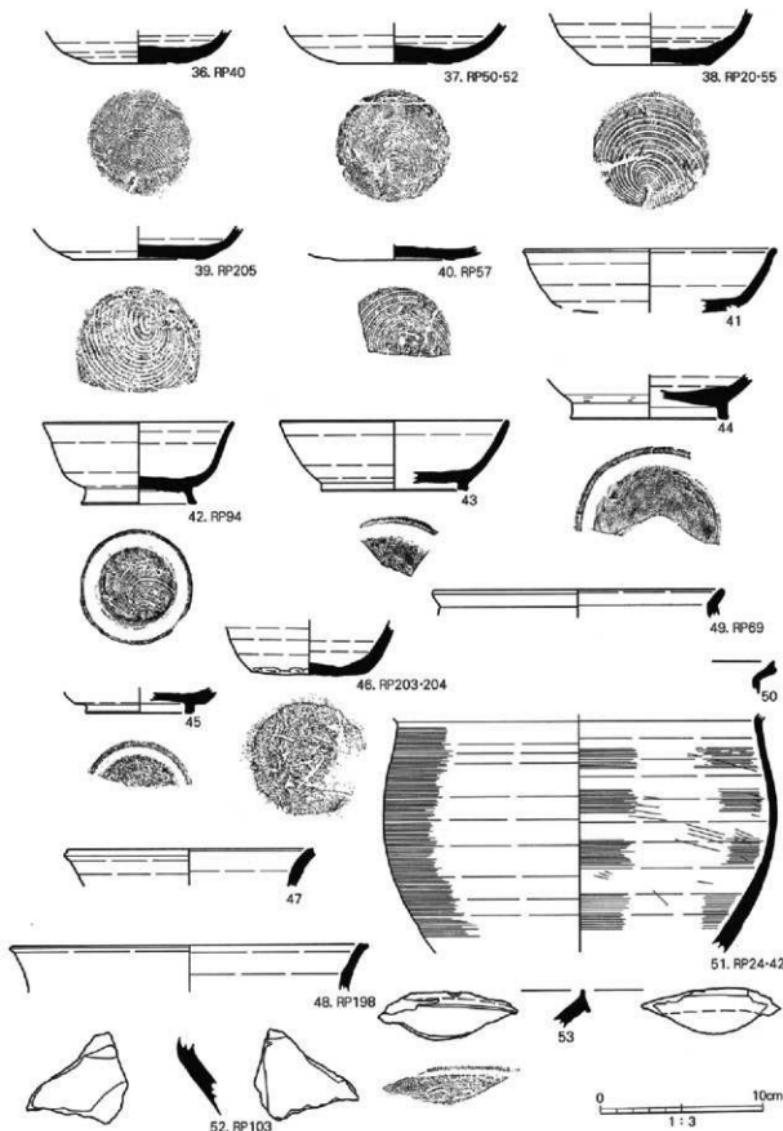
第133図 吉原Ⅲ遺跡SD24溝跡（2）



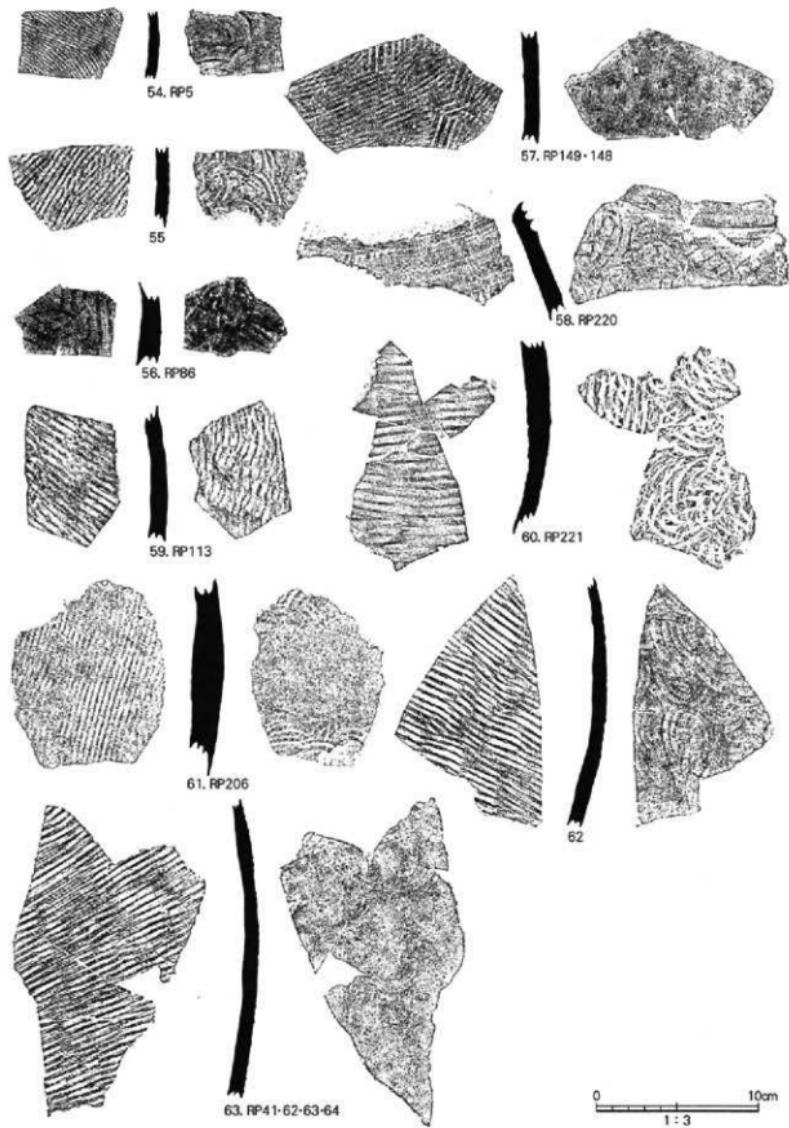
第134図 吉原Ⅲ遺跡SD24出土土器（1）



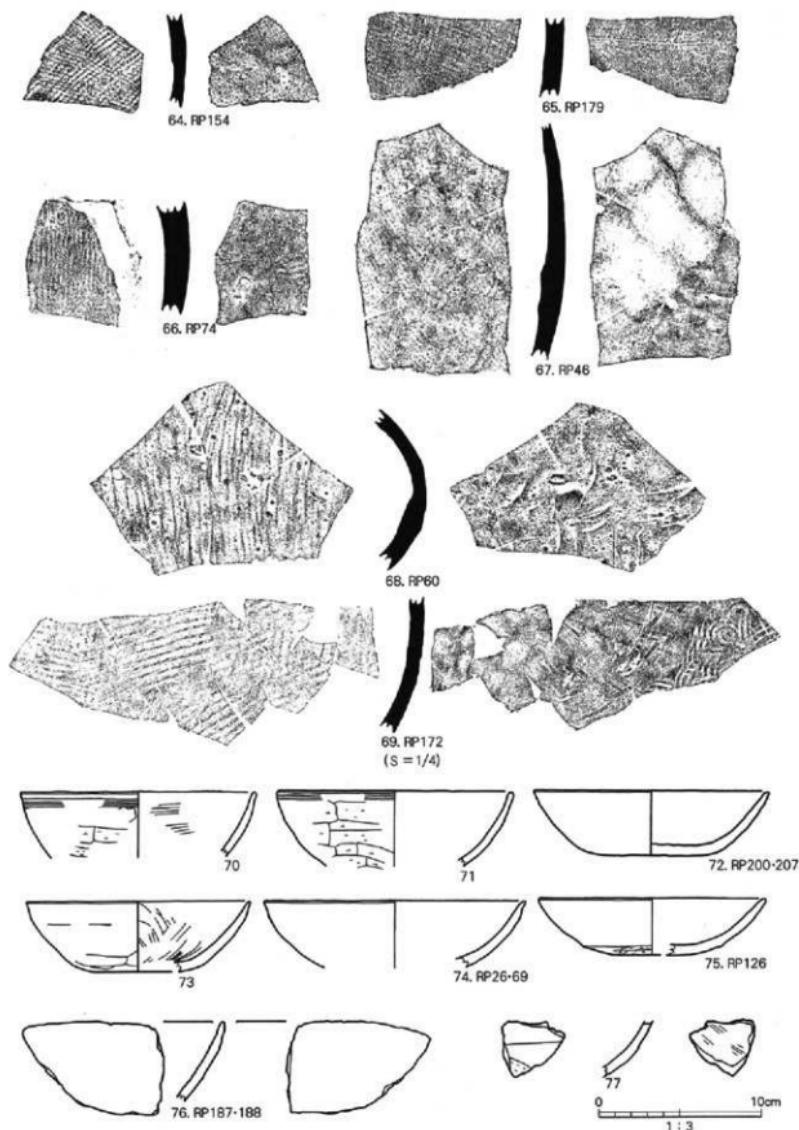
第135図 吉原Ⅲ遺跡SD24出土土器（2）



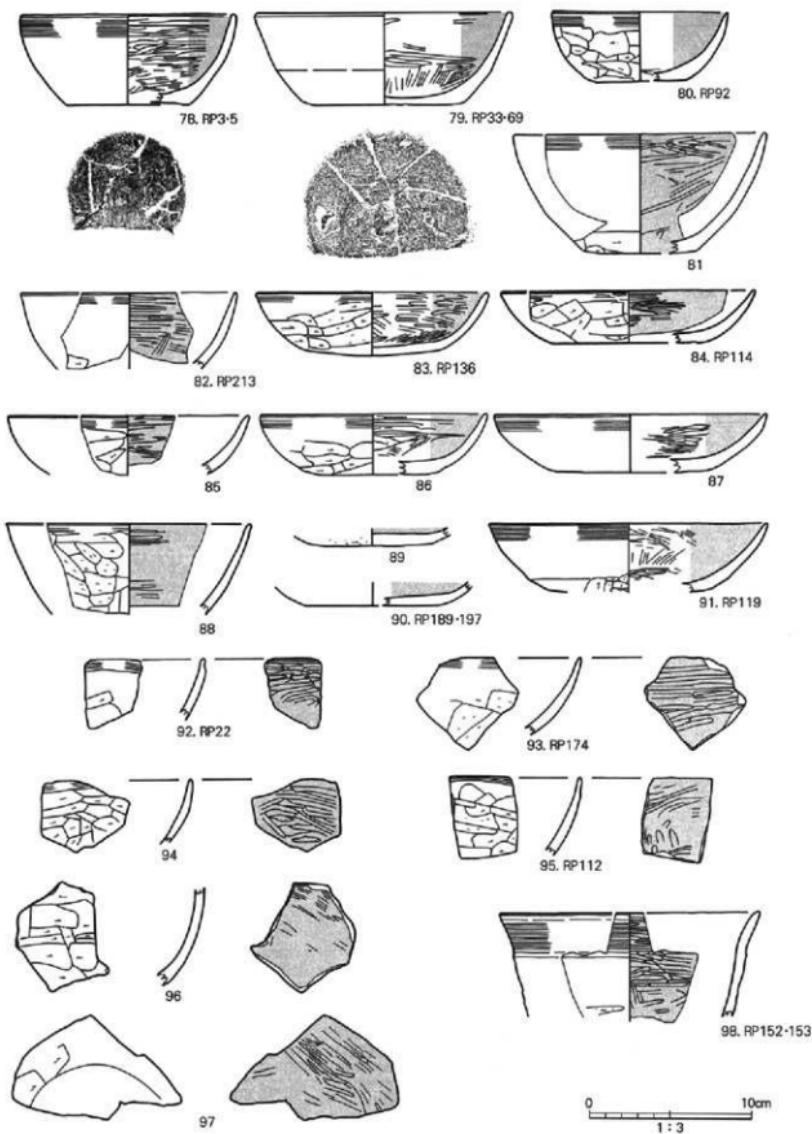
第136図 吉原Ⅲ遺跡SD24出土土器（3）



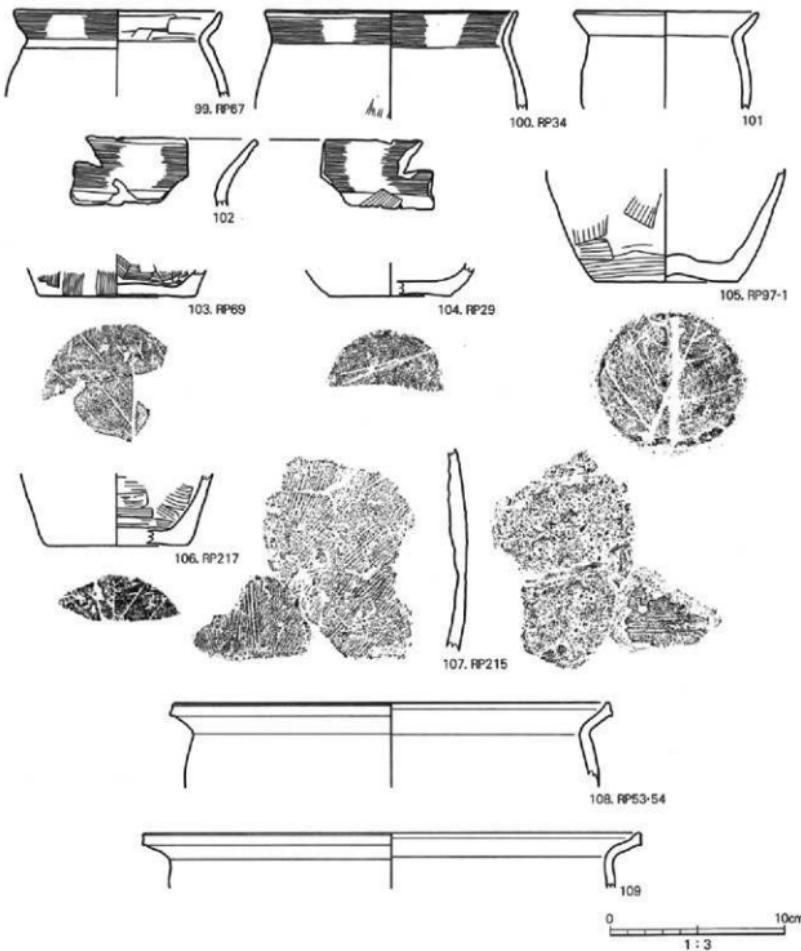
第137図 吉原Ⅲ遺跡SD24出土土器（4）



第138図 吉原Ⅲ遺跡SD24出土土器（5）



第139図 吉原Ⅲ遺跡SD24出土土器（6）



第140図 吉原Ⅲ遺跡SD24出土土器（7）

本調査区において近世以降の溝跡が検出された。以下に概述する。

#### S D 37 (第141・142図)

**規模** 調査区北西部に位置し、東西に伸びる溝跡である。奈良～平安時代の土坑である S K 43を切っている。北側及び西側は調査区外となるため全体の規模は不明であるが、幅1.6～2.0m、確認面からの深さは30cm前後を測る。長さは検出長で約12mである。南東部に板材及び杭列が確認され、護岸をしたものと判断される。砂、砂礫を含む覆土の状況から、ある程度の水流を持った溝で、用水路などの機能が考えられる。

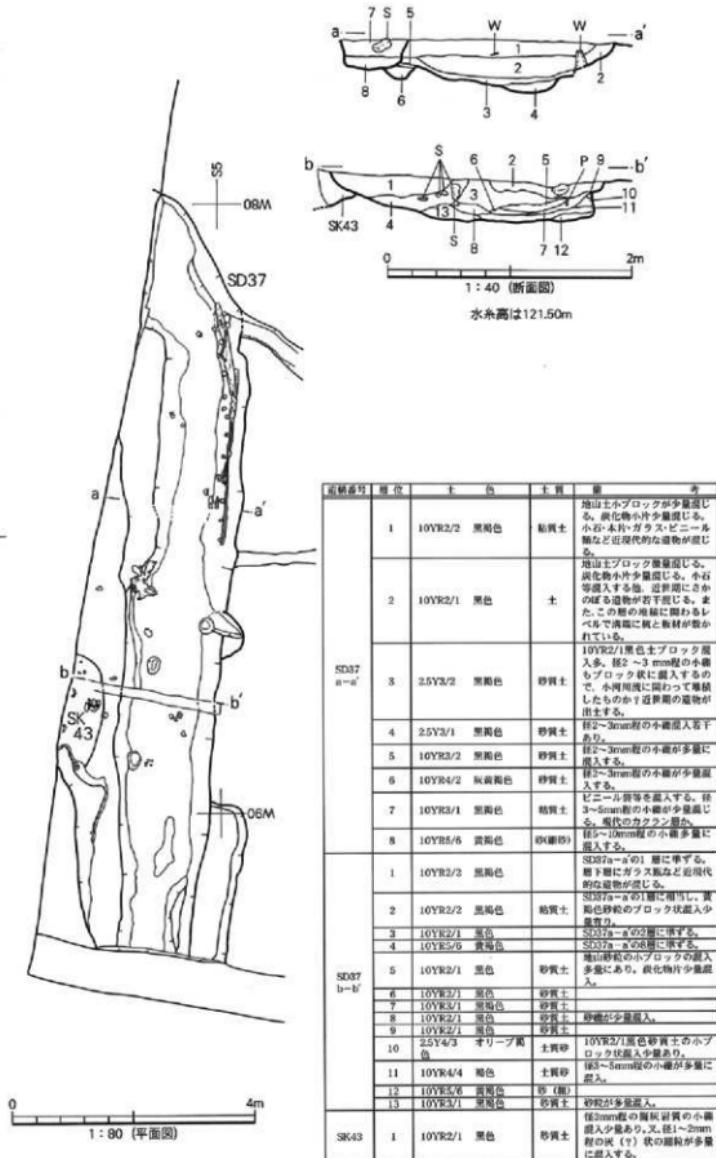
**出土遺物** 覆土から古代～近・現代の遺物が多く出土した。そのうち、主に古代～近世までの遺物について図化し、掲載した。

142-1～3、5は須恵器壺である。1、3は内面にハケメ調整が施される。142-4は土師器壺の底部で、木葉痕が確認される。142-6は壺の体部片で、外面が平行タタキ、内面が同心円状のアテが施される。142-7は肥前系陶器の皿である。内面に砂目の痕跡が認められる。142-8～12、17は磁器である。8は内面に五弁花が描かれる。9は景德鎮系磁器の皿、10～12は肥前系磁器の碗・皿である。10、11は草花文、12は二重網目文が描かれる。142-13、14は平瓦片で、いずれも黒瓦である。142-15は九州系の壺で、叩き成形されている。142-18は砥石で砥面は1面である。

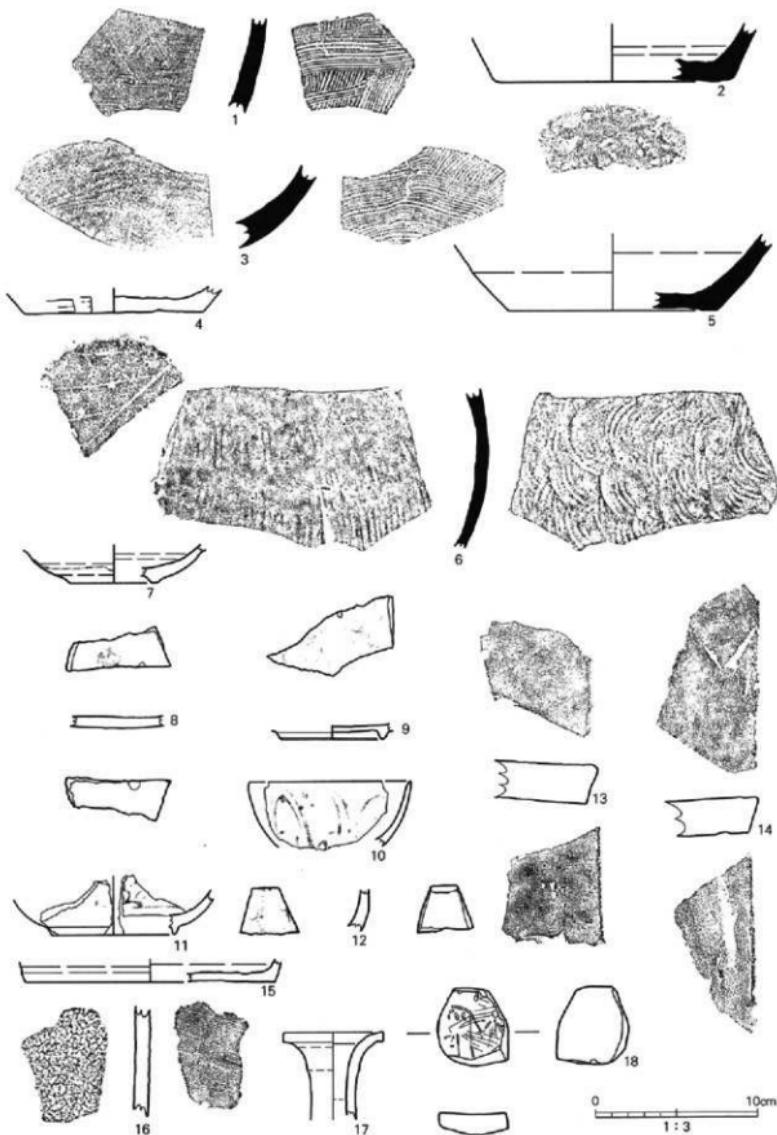
#### (5) その他の出土遺物 (143図)

1次調査で出土した遺物のうち、平面図の掲載していない遺構、またはグリッド、表土から出土し、図化した遺物について以下に概述する。

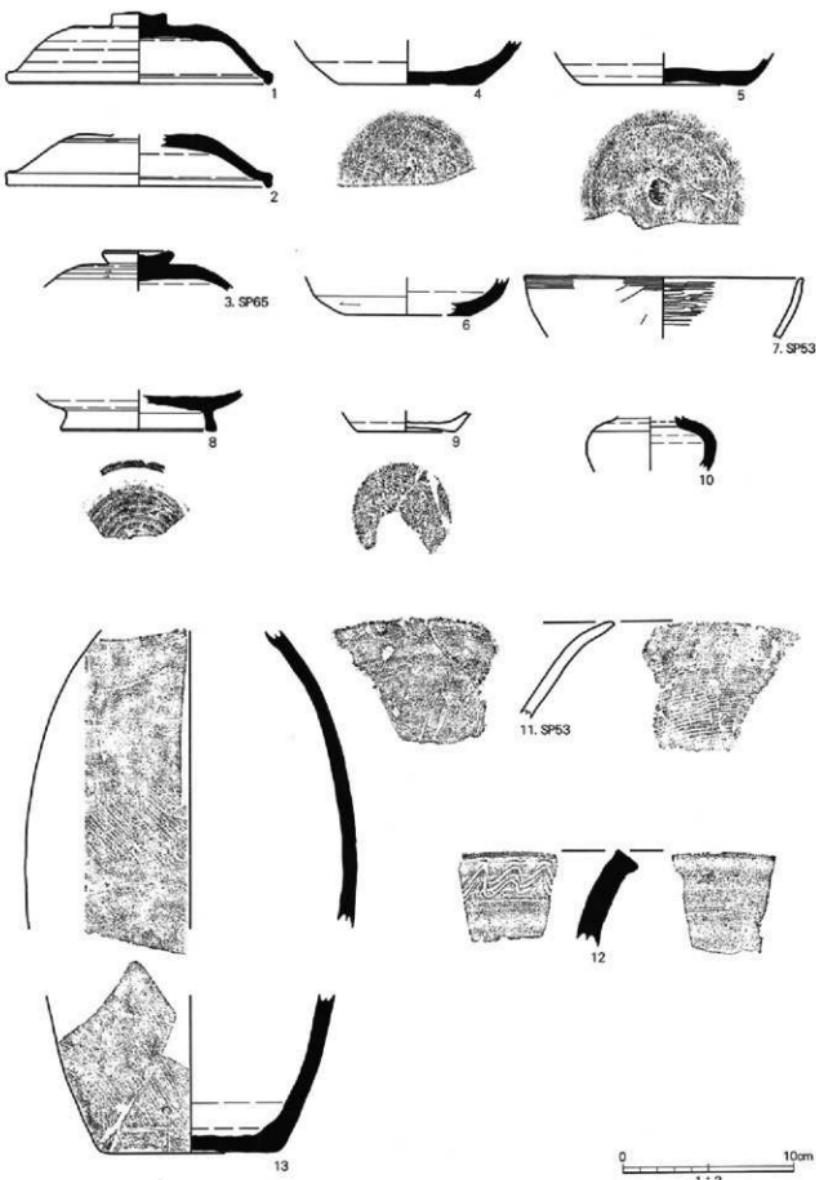
143-1～3は須恵器蓋である。天井部は平坦で、体部が回転ヘラケズリされる。3は内面が磨耗しており、転用硯と考えられる。143-4～6は底部切離しがヘラ切の須恵器杯である。143-7は土師器杯口縁部で、内面が黒色処理される。143-8は須恵器高台壺で底部切離しは調整により不明である。143-9は赤焼土器杯の底部である。143-10は小型の壺、143-13は長頸壺の体部と考えられる。13の体部外面には自然釉が付着し、不鮮明であるが平行タタキが施されている。底部の切離しは釉の付着により不明である。143-11は土師器壺の口縁部で、非ロクロ成形で内外面がハケメ調整される。143-12は須恵器壺の口縁部で、波状櫛描文が施される。



第141図 吉原Ⅲ遺跡SD37溝跡



第142図 吉原Ⅲ遺跡SD37出土遺物



第143図 吉原Ⅲ遺跡その他出土土器





表14 吉原Ⅲ遺跡出土遺物観察表（3）

辨認番号	遺物番号	出土地点・層位	器種	種別	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面特徴	内面特徴	底部特徴	遺物No.
138	83	SD24 F1	环	土師器	14.4	8.0	3.85	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	ミガキ、黒色	丸底	
	84	SD24 F1	环	土師器	15.5	(9.4)	3.2	ヘラケズリ	ミガキ、黒色	ヘラケズリ	
	85	SD24 F1	环	土師器	14.8			口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	ミガキ、黒色		
	86	SD24 F1	环	土師器	13.8	8.2	3.75	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	ミガキ、黒色	ヘラケズリ 調整	
	87	SD24 F	环	土師器	16.7		3.6	ナデ、マメツ	ミガキ、黒色		20-14, 15
	88	SD24	环	土師器	15.0						
	89	SD24 F1	环	土師器		7.2		ヘラケズリ	ミガキ、黒色	ヘラケズリ	
	90	SD24 F1	环	土師器		8.4		マメツ	ミガキ、黒色	ヘラケズリ?	
	91	SD24 F1	环	土師器		17.2		ヘラケズリ、ナデ	ミガキ、黒色	丸底・ケズリ? 有段段は鉄化	
	92	SD24 F1	环	土師器							
140	93	SD24 F1	环	土師器				口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	ミガキ、黒色		
	94	SD24 F1	环	土師器				ヘラケズリ	ミガキ、黒色		
	95	SD24 F1	环	土師器				ヘラケズリ	ミガキ、黒色		
	96	SD24 F1	环	土師器				ヘラケズリ	ミガキ、黒色		
	97	SD24 F1	环	土師器				ヘラケズリ	ミガキ、黒色		
	98	SD24 F1	鉢	土師器	16.0			口:ヨコナデ	ミガキ、黒色		
	99	SD24 F1	鉢	土師器	(11.9)			マメツ	ヘラナデ		
	100	SD24 F5	鉢	土師器	(14.4)			ハケメ	口:ヨコナデ		
	101	SD24	鉢	土師器	(10.4)			マメツ	マメツ		22-20G
	102	SD24 F1	鉢	土師器				口:ヨコナデ	口:ヨコナデ		
142	103	SD24 F5	鉢	土師器	8.9			ハケメ		木製瓶	
	104	SD24 F1	鉢	土師器	7.0					木製瓶?	
	105	SD24	鉢	土師器	8.1			ハケメ		木製瓶	
	106	SD24 F1	鉢	土師器	8.2			マメツ		木製瓶	
	107	SD24 F1	鉢	土師器				ハケメ			
	108	SD24 F1	鉢	赤燒土器	24.9			ロクロ			
	109	SD24	鉢	赤燒土器				ロクロ			
	127	1 SA30	高台付环	須根器	6.7			ロクロ	ロクロ	糸切	
	1	SD37	色	須根器				ケズリ⇒ハケ目?	ハケメ		
	2	SD37	青	須根器	(14.6)				ナデ		25-12G
143	3	SD37	青	須根器							
	4	SD37	青	土師器	(11.0)			ハケメ	マメツ	木製瓶	
	5	SD37	青	須根器	(12.8)						
	6	SD37	青	須根器							
	7	SD37	皿	陶器	(5.4)			砂目		糸切施設する 削り出し高台	25-12G標準・ 1600~1630年
	8	SD37	皿	磁器					五弁花		25-10G~17G末 ~18C初・肥前
	9	SD37	皿	磁器	6.2						25-10G系總積・ 16C末~17C初
	10	SD37	碗	磁器	(10.0)			草花文			25-12G
	11	SD37	皿	磁器	(7.6)			草花文			25-12G~18C 前半・肥前
	12	SD37	碗	磁器				二重網目文			磁器・18C前半 肥前
143	13	SD37	平瓦	瓦							25-12G
	14	SD37	平瓦	瓦					ハケメ		25-10G
	15	SD37	瓶	陶器	(15.3)						九州系・御賀成 形
	16	SD37		不明?							
	17	SD37	瓶	磁器	(6.2)						25-10G・肥前・ 17C
	18	SD37	石	石製品	4.7	4.3	1.3				
	1	TP6	糞	須根器	(15.3)	4.2		ロクロ	ロクロ	ヘラ切	
	2	包装屨	糞	須根器	(14.8)			ロクロ、ケズリ	ロクロ		
	3	SP65	糞	須根器				ロクロ、ケズリ	ロクロ		内画平滑
	4	23-10G	环	須根器	8.2			ロクロ	ロクロ	ヘラ切	
143	5	T-T56	环	須根器	9.0			ロクロ	ロクロ	ヘラ切	
	6	24-11G	环	須根器	7.2			ロクロ、ケズリ	ロクロ		
	7	SP33	环	土師器	(15.4)			ナデ、ケズリ	ミガキ、黒色		
	8	19-15G	高台付环	須根器	(9.0)			ロクロ	ロクロ	ヘラ切	
	9	24-11G	环	赤燒土器	5.7			ロクロ	ロクロ	糸切	
	10	T-T59	糞	須根器				ロクロ			
	11	SP33	糞	土師器				ハケメ			
	12	24-11G	糞	須根器				波状模造文	ロクロ		
	13	T-T56	糞	須根器	9.0						不明

### 3 まとめ

今回の調査で検出された遺構は、掘立柱建物跡11棟、杭列跡1基、土坑、溝跡などである。遺構分布からは遺跡の主体がA区を中心に広がり、南にかけて希薄になる様相を示している。

遺物は土坑、溝跡などでまとまつた土器が出土した。以下に遺構と遺物について整理してまとめる。

本遺跡では、掘立柱建物跡を中心とした集落構成がなされており、竪穴住居跡は未検出である。掘立柱建物跡の規模は、2×3間の建物が主体的で、柱穴の掘り方は平面形が隅丸方形を呈し、径0.8~1mを測る大型のものと、掘り方がやや小型で略円形を呈するものに大別される。

主軸方向では、座標北を向くもの（SB8~11）、座標北から西に振れるもの（SB1・2・4・5・6・7）と、座標北から東に振れるもの（SB3）の大きく三つに分けられる。また、建物どうしの切り合いは、SB10→SB8で認められる。主軸方向が同じ建物の中でも、時期差が認められる。

以上のことから、建物群は少なくとも3時期以上の変遷が考えられ、年代は出土遺物から、8世紀後葉～9世紀前半頃があてられる。

SA30杭列跡は上記の掘立柱建物跡を区画する施設と考えられる。主軸方向は座標北からやや西に振れる。調査区の制約により杭列が区画する範囲は明確ではないが、少なくとも南北25m以上の方形状の区画であろうと考えられる。

SD24溝跡は北東から南西に伸びる溝跡で、奈良～平安時代の遺物が多く出土した。本遺構はB区においても検出されており、遺跡の縁辺まで続いている。平面形状や覆土の状況から、自然の小河川であると考えられる。また焼けた礫や土器などが多量に出土する状況から、日常的に廃棄などの行為が行われたと思われる。

一方、出土遺物は供膳具では、須恵器蓋・壺・高台壺、土師器壺、赤焼土器壺が出土している。須恵器壺類の底部切離しはヘラ切と糸切が混在し、糸切がやや多い傾向を示す。土師器壺は非ロクロ成形のものが大半であるが、ロクロ成形のものも若干確認される。無段の丸底風平底や平底で、体部外面にケズリ、内面にミガキ、黒色処理される壺を主体に構成され、いわゆる有段丸底の壺も僅少ながら確認される。また内面が黒色処理されない壺も一定量認められる。

貯蔵具では須恵器壺・甕が出土している。壺は小型のものと長頸壺になるものなどが認められる。須恵器壺は大型のものが大半である。

煮炊具では土師器甕や赤焼土器甕が出土している。土師器甕は非ロクロ成形で、体部が長胴形になる大型のものと小型のものが確認され、両者ともハケメ調整が施される。赤焼土器甕は量的に僅少である。その他、特徴的な遺物として、墨書き土器や漆状の樹液が内面に付着した土器片、漆が付着した布片（2次調査）も出土した。これらの遺物は形態や組成などから、概ね8世紀後葉～9世紀前半の時期に収まるものと考えられる。

以上のことから、吉原Ⅲ遺跡は奈良～平安時代の集落跡で、掘立柱建物跡が当該期の一般的な掘立柱建物跡と比較しても大型であること、墨書き土器や漆付着の布片（2次調査時出土）など、一般集落とは異なる遺物が出土することから、官衙に関連した集落と考えられる。

## VI 吉原IV遺跡

### 1 遺跡の概観

#### (1) 調査区と層序

吉原IV遺跡は、吉原II遺跡の南西約100mの地点に位置し、平成9年度7月に吉原II遺跡の範囲確認調査を実施した際に、新規に発見された遺跡である。遺跡発見後、本遺跡内に計画された街区道路工事が緊急であることから、街区道路部分の面積280m<sup>2</sup>について発掘調査を平成9年7月22日～8月7日までの期間で実施した。

本遺跡の範囲は南北100m、東西130mの範囲に広がる。地目は水田、宅地で、付近の標高は122mを測る。

調査区を覆う座標は、磁北を南北の基準とし、それと直交する線を東西とした、任意の5m四方の方眼（グリッド）を設定した。南北軸は1～10まで、東西軸はA～Dまで付番して「A-2」のように表記した。

基本層序は概ね3層に分けられた。具体的には、I層が暗褐色土（表土、耕作土）、II層が黒褐色粘質土（遺物包含層）、III層が褐色粘質土（地山）である。I層は現況の水田耕作土である。II層は部分的に見られる層で、耕地整理などの際に既に削平されていた。III層が地山である。II層下部から遺物の包蔵が認められ、遺構の検出面はIII層直上面であった。

#### (2) 遺構と遺物の分布

調査で検出された主な遺構は、平安時代の竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟、土坑、柱穴などである。

遺構は調査区全域に分布するが、南に向かって遺構・遺物ともに密度が希薄になる。

具体的には、竪穴住居跡や掘立柱建物跡は調査区北側で検出され、南側は、土坑や柱穴などの遺構が検出されており、居住域は北側にあったものと考えられる。

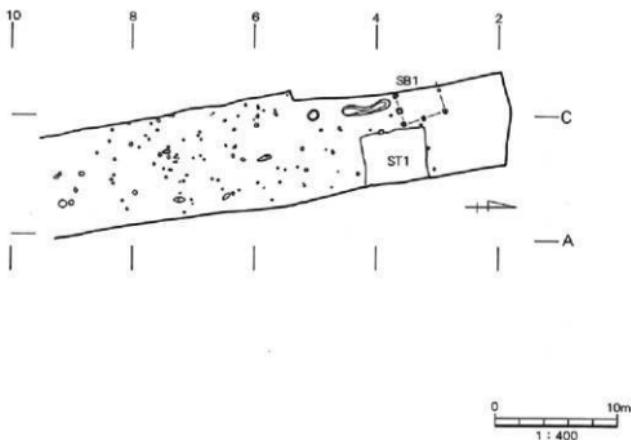
竪穴住居跡は5m四方の方形で、南壁や東寄りにカマドが設置されている。残存状況はあまりよくないが、カマド周辺から遺物が出土している。

掘立柱建物跡は調査区外に広がるため、全体の規模は明らかではないが2×2間以上の建物である。柱穴の掘り方は一辺40～50cmと小型である。

遺物はおもに竪穴住居跡や土坑から出土した。土器が大半で、須恵器壺、非口クロ成形の土師器壺や甕などが出土している。

時期的には、吉原II遺跡とほぼ同時期で、平安時代前半の9世紀前半があてられる。

以上のことから、本遺跡は平安時代の集落跡で、遺跡の主体は調査区の北側にかけて広がるものと考えられる。南側は遺跡の縁辺にあたり、遺構と遺物の分布は希薄となる様相が窺える。



第144図 吉原IV遺跡遺構配置図

## 2 検出された遺構と遺物

### (1) 竪穴住居跡

調査では竪穴住居跡が1棟検出された。以下に概述する。

#### S T 1 (第145図)

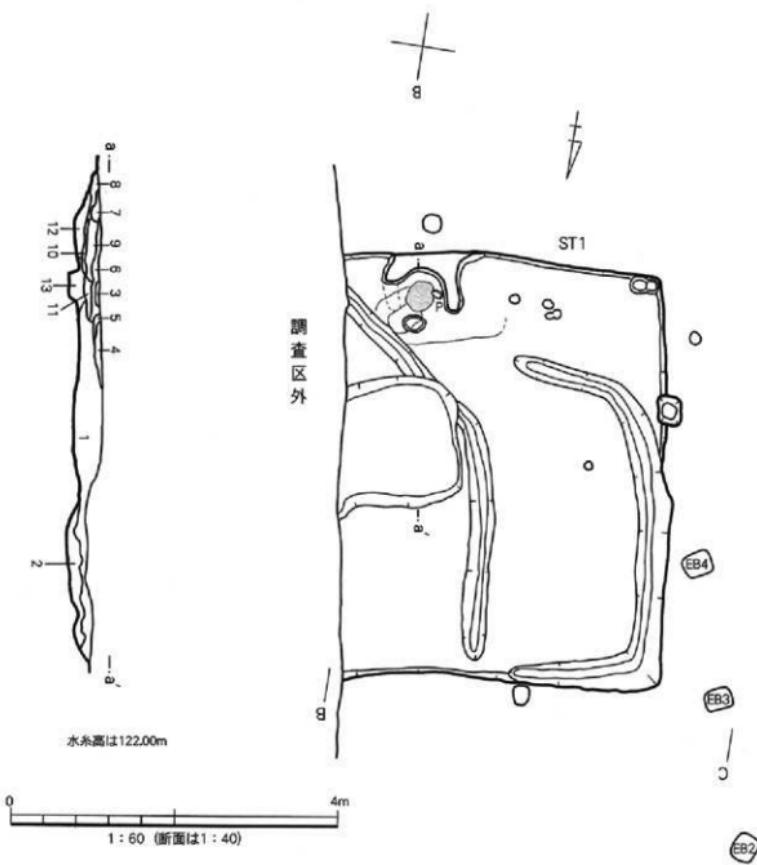
**規模** 調査区北側、SB1の南東に位置する。東側が調査区外となり、全体の規模は不明であるが、平面形は方形で、南北5.2m、東西は検出長で4.0mを測る。遺構検出段階で既に床面が露出する部分もみられ、壁の立ち上がりは不明瞭であった。確認面からの深さは約25cmを測る。

カマドは南壁中央部より東寄りに設置される。袖部は黒褐色土と地山で構築されており、幅20cm前後を測る。煙道部は未検出で、径35cm前後の焼土が検出された。

周溝は北西壁際にL字状に検出され、床面中央にも南北に伸びる溝状の遺構が検出される。また、床面中央に、長さ1.5m、幅1.3mの浅い落ち込み状の遺構が検出されたが、貯蔵穴などの施設ではないと判断される。また、主柱穴と考えられる柱穴も未検出である。

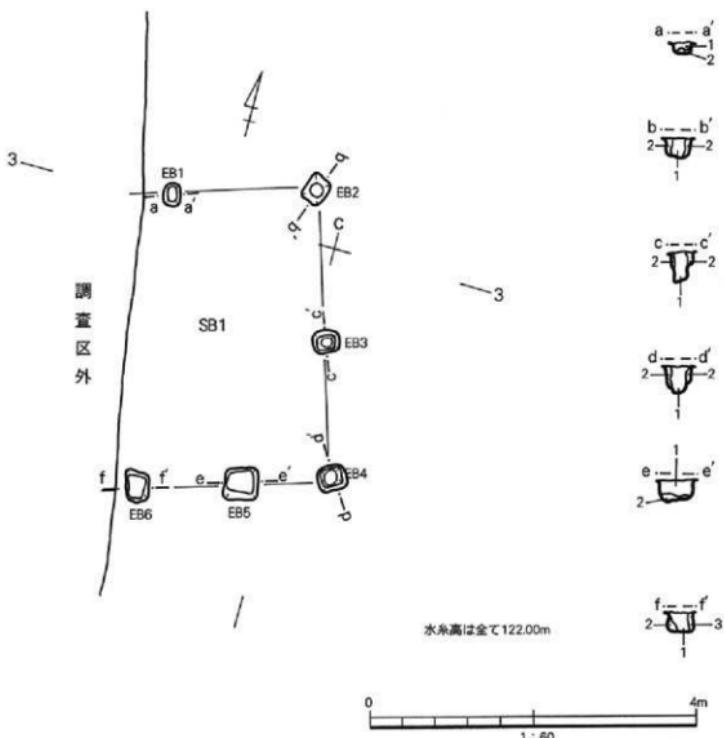
**主軸方向** N-9°-W (方位は磁北)

**出土遺物** カマド周辺から遺物が出土した。底部切離しが糸切の須恵器壺や、非口クロ成形でハケメ調整される土師器壺などが出土地している。



第145図 吉原IV遺跡ST1堅穴住居跡

造構番号	層位	土色	土質	備考
ST1	1	10YR2/1 黒色	シルト質土	
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質粘土	粘土ブロックを含む。
	3	7.5YR5/3 にぶい褐色	粘土	
	4	10YR3/1 黒褐色	土	
	5		炭	
	6	5YR3/2 暗赤褐色	土	燒土がブロック状に混じる。
	7	10YR4/2 灰褐色	土	燒土、炭のブロックを多く含む。
	8	10YR5/2 灰黃褐色	土	純土、炭のブロックを含む。
	9	7.5YR5/4 にぶい褐色	土	燒土、炭を含む。
	10		炭	
	11	10YR5/4 にぶい褐色	土	燒土、炭を含む。
	12	2.5YR4/6 赤褐色	土	純土。
	13	10YR4/2 灰褐色	砂質土	炭を含む。



第146図 吉原IV遺跡SB1掘立柱建物跡

遺構番号	層位	土色	土質	備考
EB1	1	10YR5/1 黒褐色	シルト	
	2	10YR5/4 に少し黄褐色	粘土	
EB2	1	10YR5/2 黒褐色	粘土	
	2	10YR4/3 に少し黄褐色	砂粒を含む。	
EB3	1	10YR2/1 黒色	粘土	
	2	10YR5/4 に少し黄褐色	シルト	

遺構番号	層位	土色	土質	備考
EB4	1	10YR2/1 黒色	粘土	
	2	10YR5/4 に少し黄褐色	土	砂粒を含む。
EB5	1	10YR3/2 黒褐色	土	
	2	10YR4/4 棕色	土	高色粘土ブロックを含む。
EB6	1	10YR2/1 黒色	シルト	
	2	10YR4/4 黄色	粘土	
	3	10YR5/4 に少し黄褐色	粘土	

## (2) 掘立柱建物跡

調査では掘立柱建物跡が1棟検出された。以下に概述する。

### S B 1 (第146図)

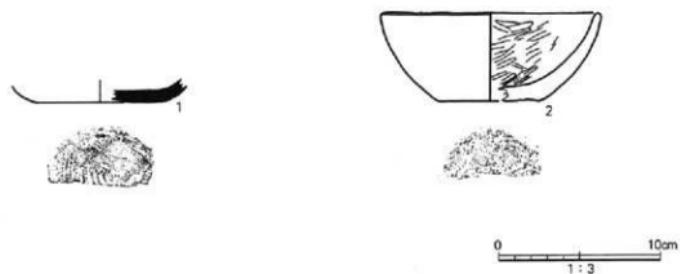
規模 S T 1の北西に位置し、西側は調査区外となる。南北3.6m、東西2.6m以上を測る2×2間以上の建物跡である。柱間は梁行が南面で1.1~1.2m、桁行が1.7~1.9mを測る。

主軸方向 N-17°-W (方位は磁北)

柱穴 掘り方は平面形が方形で、一辺40~50cmを測る。確認面からの深さは20~35cmを測る。

土層断面から確認できる柱痕跡は15cm前後である。

出土遺物 遺物は出土していない。



第147図 吉原IV遺跡出土土器

### (3) 出土遺物（第147図）

147-1・2は範囲確認調査時出土の遺物である。

1は須恵器壺の底部でヘラ記号「×」が確認される。2は非口クロ成形の土師器壺で、平底の、体部から口縁部にかけて内湾する器形である。磨滅により体部外面の調整は不鮮明であるが、内面はミガキ調整のみで、黒色処理されない。その他、図化していないが、土師器甕などが出土している。非口クロ成形で、内外面にハケメ調整が施される。

### 3まとめ

今回の調査で検出された遺構は、平安時代の竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟、土坑、柱穴などである。遺構分布からは遺跡の主体が北側を中心に広がり、南にかけて希薄になる様相を示している。

遺物は竪穴住居跡や土坑から、須恵器・土師器などの土器類が出土した。全体的に、遺構数や出土遺物も少なく、本調査区は吉原IV遺跡の縁辺にあたるものと考えられる。以下に遺構と遺物について整理してまとめる。

竪穴住居跡や掘立柱建物跡は調査区の北側に検出されており、主軸方向や位置的関係から、時期差があったものと考えられる。掘立柱建物跡からの出土遺物が未検出のため、詳細な時期は不明であるが、竪穴住居跡は出土遺物から、9世紀前半があてられる。

一方、出土遺物では、須恵器壺、土師器壺・甕などが出土している。須恵器壺類の底部切離しは糸切である。土師器壺は非口クロ成形で、平底の、内面にミガキ調整されるものである。これらの遺物は出土量が少なく、時期判断の根拠に乏しいが、形態や組成などから概ね9世紀前半の時期に収まるものと考えられる。

本遺跡で検出された竪穴住居跡や掘立柱建物跡は、周辺の吉原II遺跡、同III遺跡などに比べ、小規模である。また周辺の試掘調査においても大型の建物などは確認されていない。遺跡の主体は北側に広がっているため、遺跡内容の詳細は判然としないが、出土遺物の特徴から、吉原II・同III遺跡と同時期に存在したと考えられ、掘立柱建物跡などの柱穴が小規模であることから、より一般的な集落であったと判断される。

## VII 吉原VI遺跡

### 1 遺跡の概観

#### (1) 調査区と層序

吉原VI遺跡は、平成11年度吉原土地区画整理事業地内に計画された、特別養護老人ホーム建設に伴い新規に発見、発掘調査された。本遺跡の範囲は南北60m、東西50mの範囲に広がる。地目は水田で、付近の標高は約116mを測る。遺跡は犬川左岸の微高地上に立地する。発掘調査は平成11年7月13日～8月27日まで面積1,800m<sup>2</sup>について実施した。

調査区を覆う座標は報告書作成にあたり、公共座標をもとに改めて設定しなおした。国土座標平面直角座標系第X系： $X = -196,590.00$ 、 $Y = -45,760.00$ を原点とし、南をS、西をWと表記し、そこから1mを最小単位とするグリッドの設定を行った。

基本層序は概ね3層に分けられた。具体的には、I層が黒褐色土（表土、耕作土）、II層が暗褐色土（旧耕作土）、III層が黒色土（遺物包含層）、IV層が黄褐色粘土（地山）である。I・II層は現況の耕作土である。III層は部分的にみられる層で、後世の搅乱や耕地整理などにより削平されている。IV層が地山である。III層下部から遺物の包蔵が認められ、遺構の検出面はIV層直上面であった。また、耕作土直下に地山が検出される地区もあり、特に南半部が、後世の削平や搅乱などの影響を強く受けている。

#### (2) 遺構と遺物の分布

調査で検出された主な遺構は、奈良～平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡、柱穴、近世の溝跡などで、登録した数は30を超える。調査区の北半に竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの遺構、南半部には、落ち込みまたは湿地状の遺構と考えられるSX6が位置している。南半部は居住域として利用されなかったものと考えられる。

竪穴住居跡は調査区北西部に2棟確認され、平面形は方形を呈し、規模は4m四方である。そのうち1棟は南壁にカマドを有する。

掘立柱建物跡は調査区中央部に2棟検出された。建物跡はいずれも南北方向で、建物の長軸も全て南北方向にもつ。主軸方向から少なくとも2時期以上の変遷が認められる。

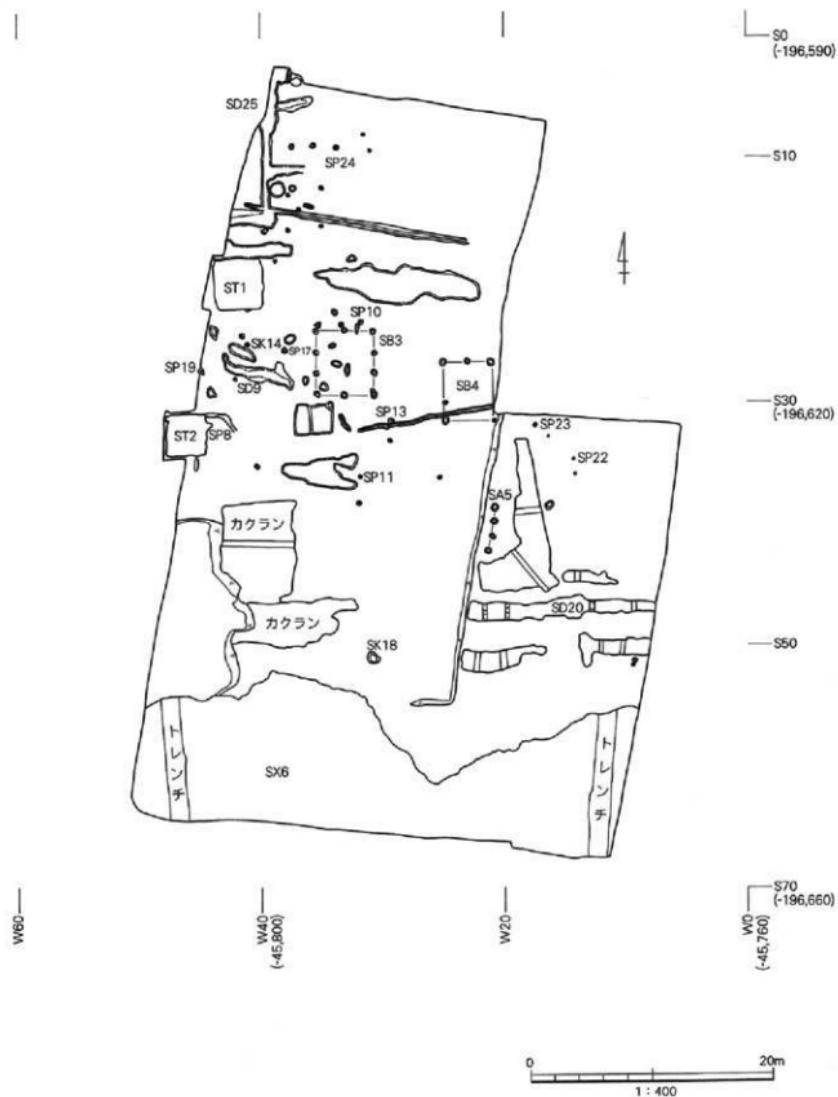
S A 5はS B 4の南東に検出された柱列である。西側が削平されており、掘立柱建物跡であった可能性も考えられる。主軸方向は座標北から東に振れている。

以上のような建物跡の周辺に土坑や溝跡、柱穴などが検出されている。

遺物はおもに竪穴住居跡や土坑から出土した。須恵器蓋・坏や土師器甕などが出土している。時期的には、奈良時代末～平安時代前半の8世紀末～9世紀前半があてられる。

また、近世の溝跡が調査区南部に検出されている。東西に伸びる溝跡で、覆土から寛永通寶が出土した。

その他、表土から、縄文土器や弥生土器片も出土している。その多くは細片で、磨滅しているため、周辺遺跡からの流れ込みと判断される。



第148図 吉原VI遺跡遺構配置図

## 2 検出された遺構と遺物

### (1) 積穴住居跡

本調査区では平安時代の積穴住居跡が2棟検出された。以下に概述する。

#### S T 1 (第149図)

**規模** 調査区北西部に位置する。北側が現代の溝跡に切られている。平面形が南北4.2m、東西4.1mの方形を呈する。上部削平などにより遺存状態はあまりよくない。確認面から床面までの深さが約10cmを測り、壁の立ち上がりは緩やかである。

床は、地山と黒褐色土とを混ぜて貼床としており、壁際では厚いところで10cmを測る。床面中央にはあまり貼床がなされず、地山を直接使用している部分も見受けられる。

周溝は南西壁際にL字状に検出された。幅10~20cm、床面からの深さ5cm前後を測る。

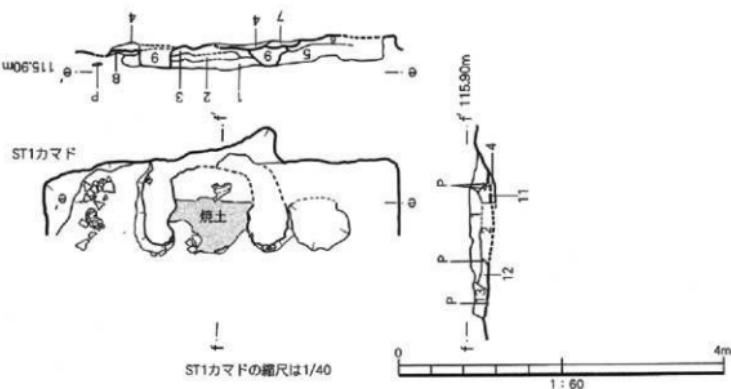
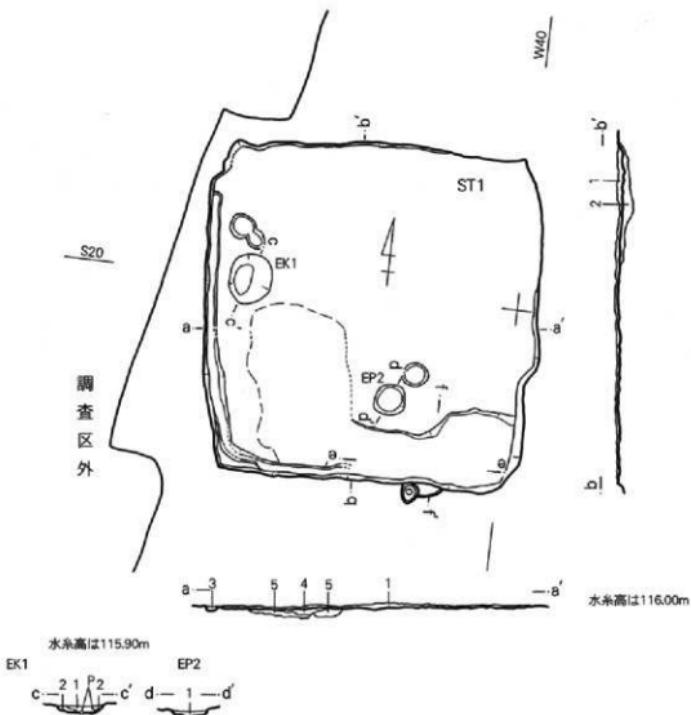
カマドは、南壁東寄りに設置される。径40cm弱の焼土が検出された。袖部は黒褐色土と地山で構築され、幅は30cm前後を測る。また袖部付近から、被熱した土器片が出土しており、補強などのためカマドの構築材として使用されたものと考えられる。

貯蔵穴(E K 1)は東壁中央部に確認され、径50cm弱の円形である。床面からの深さは10cmで、壁の立ち上がりは緩やかである。覆土は焼土や炭、土器片などを含む黒褐色土である。

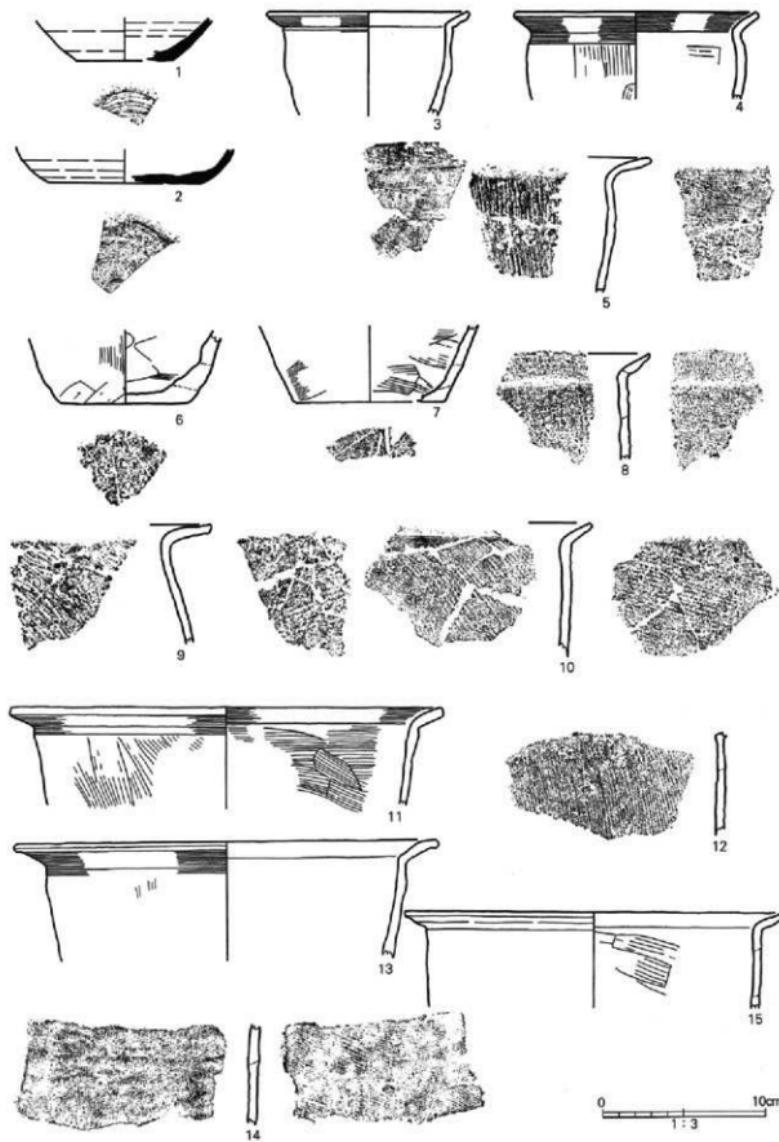
**主軸方向** N - 3° - W

**出土遺物** 遺物はカマド周辺、及び土坑から多く出土した。器種は、須恵器壺(150-1、2)や土器片(150-3~15、151-16~18)などである。1は底部切離しが糸切、2はヘラ切のものである。土器片は非口クロ成形、ハケメ調整が施されるもので、長胴形の大型の甕(9~11、13、15など)と小型の甕(3、4など)が認められる。口縁部付近はナデ、体部外側は縱方向、体部内面は横方向のハケメ調整が施されている。底部は木葉痕が確認された。

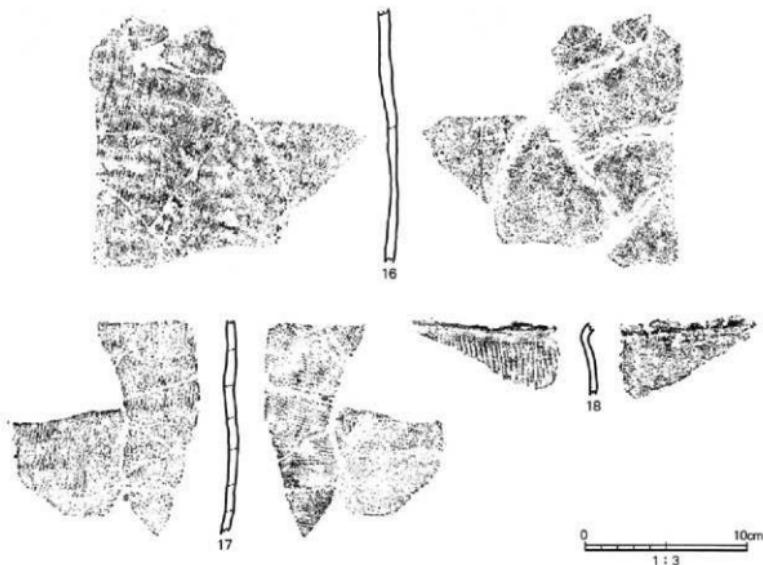
遺構番号	層位	土色	土質	備考
ST1	1	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロックをやや多く含む。土器片を含む。焼土粒を少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	土	10YR4/3にぶい黄褐色土粒・同ブロック、10YR2/2黒褐色土粒・同ブロックを多く含む。(貼床)
	3	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロックを中程度含む。土器片を含む。
	4	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロックをよりやや少く含む。
	5	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロックをやや多く含む。土器片を含む。
ST1EKI	1	10YR2/3 黒褐色	土	土器片・焼土粒・同ブロック・炭化粒を多く含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	土	10YR2/2黒褐色土粒・同ブロック、焼土粒を少量含む。
ST1カマド	1	7.5YR3/4 暗褐色	土	焼土粒・同ブロック・炭化粒を多く含む。地山粒・同ブロックを多く含む。
	2	10YR2/2 黑褐色	土	燒土粒(1~5mm大)・同ブロック・炭化粒を多く含む。
	3	5YR3/4 喧赤褐色	土	7.5YR3/2黒褐色土色を帯びて少量含む。燃焼面。
	4	10YR2/2 黑褐色	土	地山粒・同ブロック・焼土粒・炭化粒(1~5mm大)を中程度含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	土	燒土粒・同ブロック・炭化粒を含む。地山粒(1~4mm大)を少量含む。
	6	10YR2/2 黑褐色	土	地山粒・同ブロックを中程度含む。焼土粒を少量含む。
	7	10YR5/6 黄褐色	土	10YR2/2黒褐色土粒・同ブロックを中程度含む。
	8	10YR5/6 黄褐色	粘質土	10YR2/2黒褐色土粒・同ブロックをやや多く含む。(貼床)
	9	10YR4/6 棕褐色	土	カマド袖。焼土粒(1~4mm大)炭化粒を含む。10YR3/4 暗褐色土を斑状に中程度含む。
	10	10YR2/2 黑褐色	土	地山粒・同ブロック・焼土粒・同ブロックをやや多く含む。
	11	10YR2/2 黑褐色	土	地山粒(1~2mm大) 焼土粒を中程度含む。土器片を含む。
	12	10YR2/2 黑褐色	土	地山粒(1~3mm大)をやや多く含む。
	13			ST1F1



第149図 吉原VI遺跡ST1竪穴住居跡



第150図 吉原VI遺跡ST1出土土器（1）



第151図 吉原VI遺跡ST1出土土器（2）

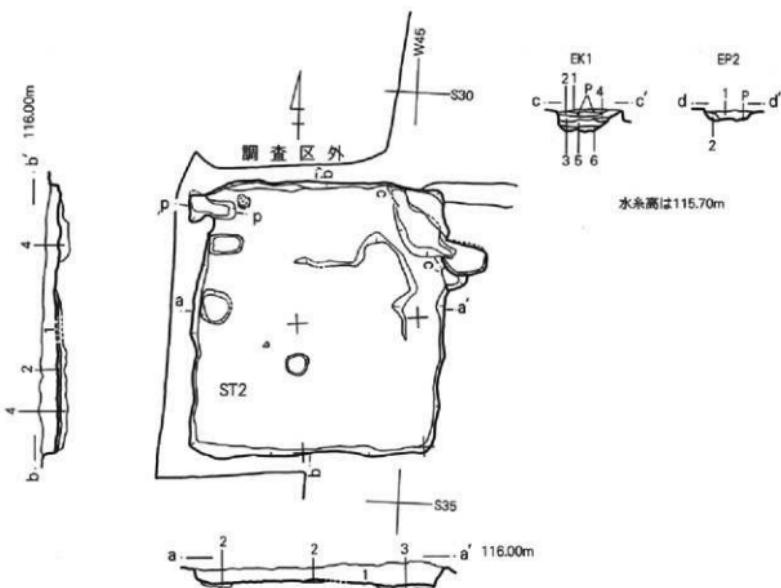
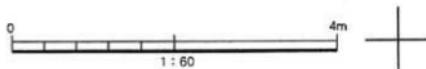
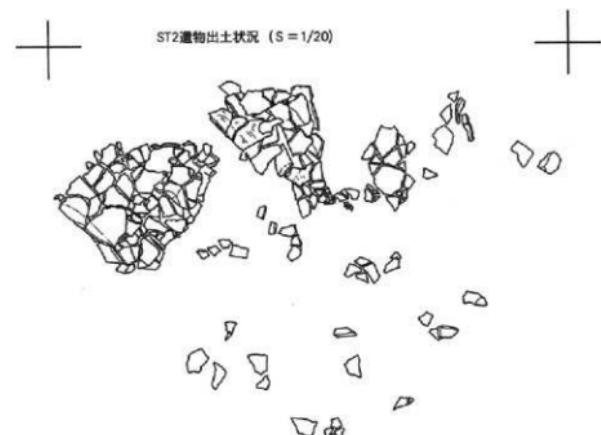
## S T 2 (第152図)

**規模** 調査区北西部、S T 1 の南約10mに位置する。平面形が南北3.3m、東西3.1mの方形を呈する。確認面から床面までの深さが約25cmを測り、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。床は平坦で、地山と黒褐色土とを混ぜて貼床としている。貼床は壁際では厚く、約10cmを測る。床面中央にはあまり貼床がなされず、地山を直接床として使用している部分も見受けられる。周溝やカマドは未検出である。

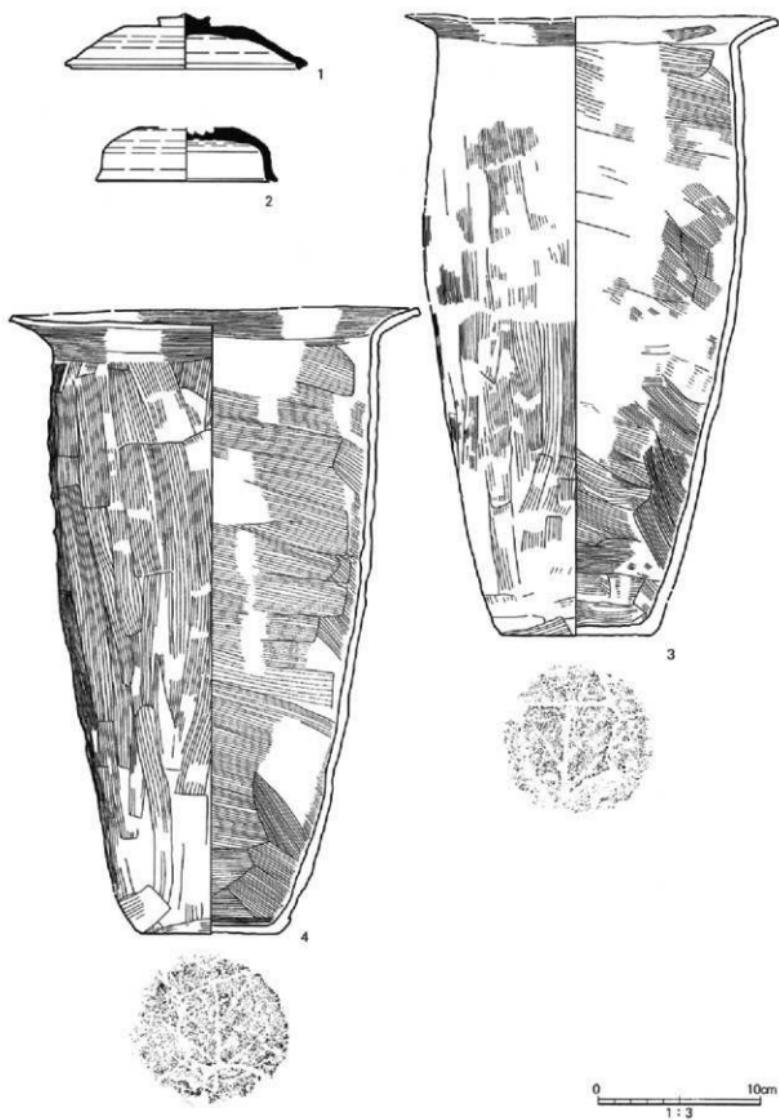
貯蔵穴 (E K 1) は北東隅に確認され、平面形は楕円形で、長径120cm、短径40cmを測る。床面からの深さは25cmで、壁の立ち上がりは緩やかである。覆土は地山粒、土器片などを含む黒褐色土である。

**主軸方向** N - 0°

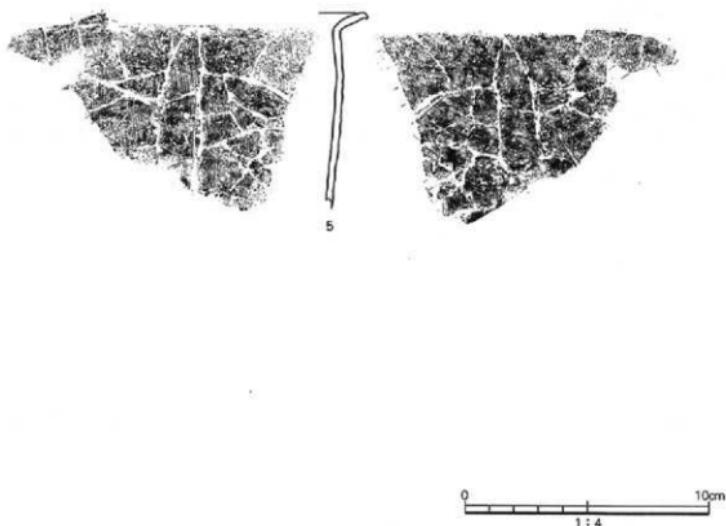
**出土遺物** 遺物は覆土及び土坑から出土した。器種は須恵器蓋 (153-1、2) や土師器壺 (153-3、4、154-1) が出土している。1は天井部が平坦になる形態の蓋で、ヘラケズリ調整はされていない。2はつまみ部を欠損しているが、短頸壺などの蓋になるものと考えられる。3、4は床面に横位に押しつぶれた状態で出土したもので、ほぼ完形である。非クロコ成形、平底の長胴壺で、口縁部はナデ、体部外表面は縦方向、内面は横方向のハケメ調整が施される。底部には木葉痕が確認される。

ST2遺物出土状況 ( $S = 1/20$ )

第152図 吉原VI遺跡ST2竪穴住跡



第153図 吉原VI遺跡ST2竪穴住居跡



第154図 吉原VI遺跡ST2出土土器（2）

遺構番号	層位	土色	土質	備考
ST2	1	10YR2/2 黒褐色	土	10YR3/2黒褐色土粒・同ブロック、地山粒・同ブロックをやや多く含む。上器片を少量含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	土	やや暗い色調。地山粒を少量含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	土	10YR3/3黒褐色土粒・同ブロック、地山粒・同ブロックを多く含む。1に比べブロックが大きい。ST2に伴う土坑か貼床。
	4	10YR2/2 黒褐色	土	10YR3/3土粒・同ブロック、地山粒・同ブロックを多量に含む。貼床部分と考えられる。
ST2EK1	1	10YR2/3 黒褐色	土	地山粒・同ブロックをやや多く含む。土器片を含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	土	10YR2/3黒褐色土粒・同ブロックをやや多く含む。土器片を含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロック、10YR2/3黒褐色土粒・同ブロックを多く含む。
	4	10YR6/6 明黄褐色	粘質土	10YR3/2黒褐色土粒・同ブロックを中程度含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質土	地山粒・同ブロックを中程度含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	土	地山粒・同ブロックを5よりやや少なく含む。
ST2EP2	1	10YR3/4 暗褐色	土	地山粒・同ブロック、10YR2/2黒褐色土粒をやや多く含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	土	10YR3/4暗褐色土粒・同ブロック、10YR2/2黒褐色土粒・同ブロックを中程度含む。

## (2) 挖立柱建物跡

掘立柱建物跡として確認できたものは2棟である。この他にも多くの小ピットを検出したが、積極的に建物跡とするまでに至らなかった。以下に各建物跡について概述する。

## S B 3 (第155図)

規模 調査区中央部に位置する。梁行4.7m、桁行5.4mを測る2×3間の南北棟の建物跡である。

柱間は梁行が2.3~2.4m、桁行が1.6~1.9mを測る。

主軸方向 N-0°

柱穴 挖り方は平面形が円形や橢円形で、径30~45cmを測る。確認面からの深さは17~25cmを測る。断面形は側壁が一部オーバーハングする。土層断面から確認できる柱痕跡は約10cmを測る。

出土遺物 柱穴覆土より、非口クロ成形の土師器甕の底部(155-1)が出土した。

## S B 4 (第156図)

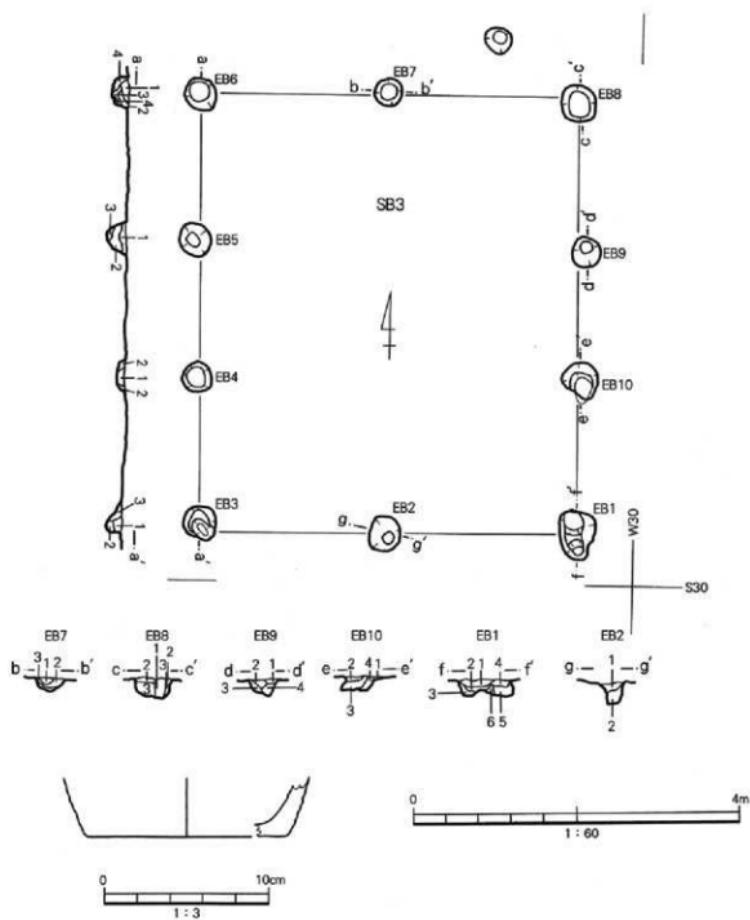
規模 S B 3 の南東に位置し、梁行4.1m、桁行5.0mを測る2(南1間)×2間(東1間)の南北棟の建物跡である。柱間は梁行が北面で西から2.0・2.1m、桁行が西面で北から3.4・1.6mを測る。

主軸方向 N-4° -W

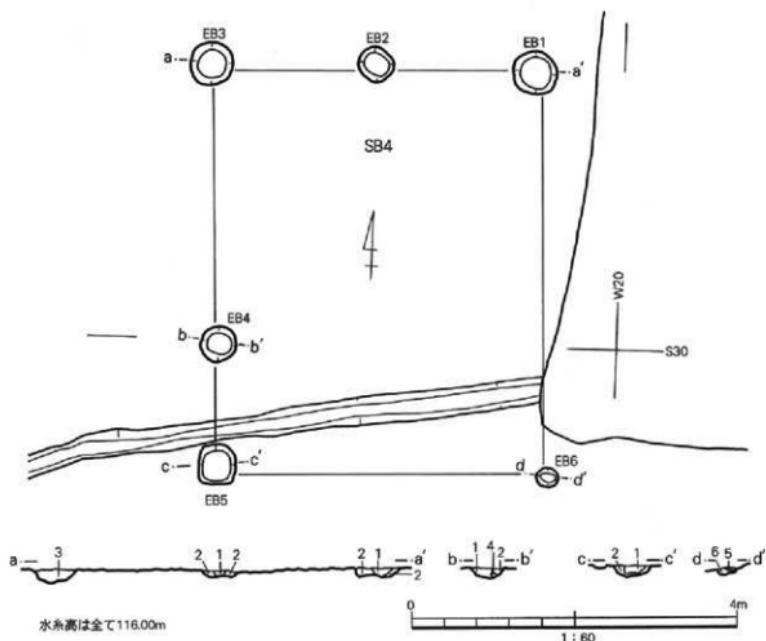
柱穴 挖り方は平面形が円形で、径40~50cmを測る。確認面からの深さは8~19cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 遺物は出土していない。

遺構番号	層位	土色	土質	備考
S B 3				
EB6	1	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロックを中程度含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	土	10YR2/2 黑褐色土粒・同ブロックを中程度含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒を少數含む。
	4	10YR5/6 黄褐色	土	10YR2/2 黑褐色土粒・同ブロックを多く含む。
EB5	1	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒(1~5mm大)を少量含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロックを多量含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロックを2よりやや少なく含む。
EB4	1	10YR2/2 黑褐色	土	地山粒・同ブロックを中程度含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	土	10YR2/2 黑褐色・同ブロックを少數含む。
EB3	1	10YR2/2 黒褐色	粘質土	地山粒・同ブロックをやや多く含む。柱抜き取り直し。
	2	10YR3/2 黑褐色	粘質土	地山粒(1~5mm大)を中程度含む。柱抜き取り直し。
	3	10YR2/3 黑褐色	土	EBAF2と同一。
EB7	1	10YR5/6 黄褐色	土	地山粒(1~4mm大)を少數含む。
	2	10YR2/3 黑褐色	土	10YR2/3 黑褐色土粒・同ブロックを中程度含む。
	3	10YR2/3 黑褐色	土	地山粒(1~2mm大)を1より少なく含む。1よりやや暗い色調。
EB8	1	10YR2/3 黑褐色	土	柱痕跡。
	2	10YR5/6 黄褐色	粘質土	地山粒・同ブロックを多く含む。
	3	10YR2/2 黑褐色	土	10YR2/3 黑褐色土粒・同ブロックをやや多く含む。
EB9	1	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロックを中程度含む。
	2	10YR2/2 黑褐色	土	地山粒・同ブロックを多く含む。
	3	10YR2/2 黑褐色	土	地山粒(1~2mm大)を少數含む。
	4		土	地山粒・同ブロックを3よりやや多く含む。
EB10	1			現代の被乱。
	2	10YR2/2 黑褐色	土	EB9F2と同一。
	3	10YR2/2 黑褐色	土	地山粒・同ブロックを中程度含む。
	4	10YR2/3 黑褐色	土	地山粒・同ブロックを少數含む。
EB1	1	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒(1~2mm大)を少量含む。
	2	10YR2/2 黑褐色	土	地山粒・同ブロックをやや多く含む。F1~F3はEB1を切る。
	3	10YR5/6 黄褐色	土	地山粒(1~5mm大)を中程度含む。
	4	10YR2/2 黑褐色	土	10YR2/2 黑褐色土粒・同ブロックを少數含む。
	5	10YR2/2 黑褐色	土	地山粒・同ブロックをやや中程度含む。
	6	10YR2/2 黑褐色	土	地山粒を少數含む。
EB2	1	10YR4/2 灰青褐色	粘質土	地山粒・同ブロックを少數含む。炭化粧を少數含む。
	2		土	地山粒(1~3mm大)を少數含む。



第155図 吉原VI遺跡SB3櫛立柱建物跡・出土土器



第156図 吉原VI遺跡SB4櫛立柱建物跡

遺構番号	層位	土色	土質	備考
SB4	1	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒(1~5mm大)を少量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	粘質土	10YR2/2黒褐色土粒・同ブロックをやや多く含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	土	10YR2/2黒褐色土粒・同ブロック、10YR4/6褐色土粒・同ブロックを多く含む。土器片を含む。
	4	10YR5/6 黄褐色	粘質土	10YR2/2黒褐色土粒・同ブロックを少量含む。
	5	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロックを多量に含む。
	6	10YR2/2 黒褐色	土	地山粒(1~2mm大)を少量含む。

## (3) 柱列

## S A 5 (第157図)

規模 調査区中央部 S B 4 の南西に柱穴が4基検出された。西側が削平されており、掘立柱建物跡の可能性もあるが、柱列として登録した。全長3.8mを測る、3間規模の南北方向の柱列である。

主軸方向 N - 7° 30' - E

柱穴 堀り方は平面形が円形を呈し、径25~30cmを測る。確認面からの深さは10~17cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる。土層断面で確認される柱痕跡は約10cmである。

出土遺物 遺物は出土していない。

## (4) 土坑

調査で検出された土坑は2基である。主なものについて概述する。

## S K 18 (第157図)

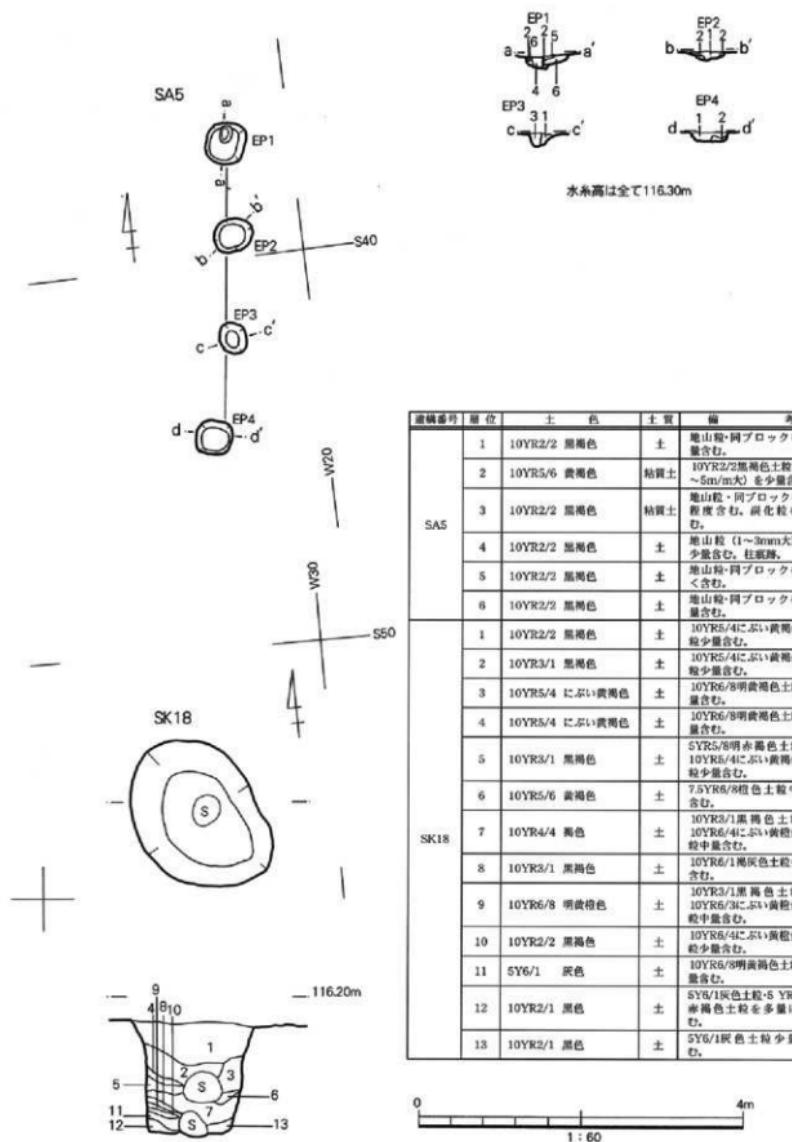
規模 調査区南半部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径2.0m、短径1.5mを測る。確認面からの深さは約1.3mである。円筒状に堀り込まれ、底面は平坦である。覆土は黒褐色土を基調とし、人頭大の河原石が混入する。

出土遺物 遺物は出土していない。

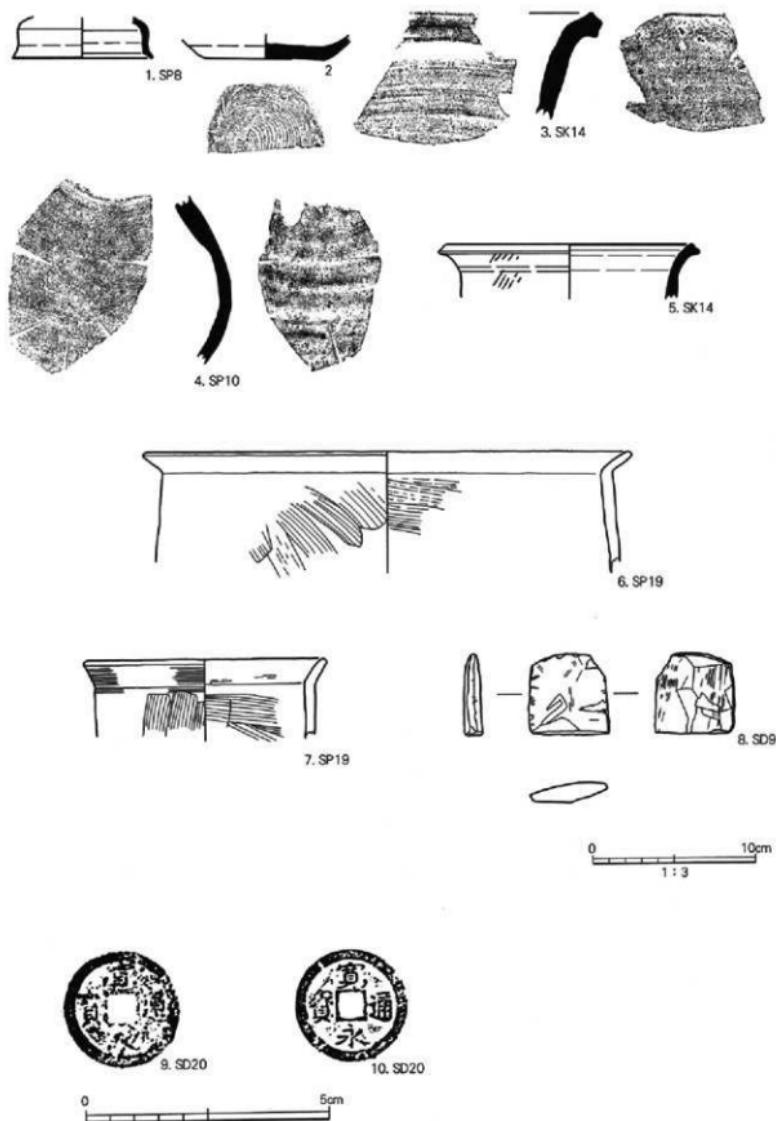
## (5) その他出土遺物 (第158図)

調査で出土した遺物のうち、平面図の掲載していない遺構、またはグリッド、表土から出土し、図化した遺物について以下に概述する。

158-1は須恵器蓋で、短頸壺の蓋になるものと思われる。S T 2より出土した須恵器蓋(153-2)と同一個体の可能性がある。158-2は底部の切離しが糸切の須恵器坏である。158-3は須恵器鉢の口縁部、158-4は須恵器壺の体部である。158-5は赤褐色を呈するが、須恵器壺の口縁部と考えられる。外面に平行タタキの痕跡が残る。158-6、7は非口クロ成形で、内外面がハケメ調整される土師器甕である。6はやや短い口縁が付く、体部が長胴形になる大型の甕、7は小型の甕である。158-8は砥石で下部を欠損するが、全面砥面として使用されている。158-9、10は寛永通寶である。



第157図 吉原VI遺跡SA5柱列・SK18土坑



第158図 吉原VI遺跡その他出土遺物

表15 吉原VI遺跡出土遺物観察表

探査番号	遺物番号	出土地点・部位	器種	種別	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	外面特徴	内面特徴	底部特徴	備考
150	1 ST1 Y	坪	須恵器	—	(5.6)	—	ロクロ	ロクロ	系切	—	
	2 ST1	坪	須恵器	—	(9.2)	—	ロクロ	ロクロ	ヘラ切	—	
	3 ST1 EK1	甌	土師器	(12.2)	—	—	ナギ、ハケメ	ハゲメ	—	—	
	4 ST1 カド	甌	土師器	—	—	—	ナギ、ハケメ	ハゲメ	—	—	
	5 ST1 EP1上	甌	土師器	—	—	—	ハゲメ	ハゲメ	本垂轄	—	
	6 ST1 EP1下	甌	土師器	—	—	(6.6)	—	ハゲメ	ハゲメ	本垂轄	—
	7 ST1 カド	甌	土師器	—	—	—	ハゲメ	ハゲメ	本垂轄	—	
	8 ST1 EP2	甌	土師器	—	—	—	マヌツ	ハゲメ	ハゲメ	—	
	9 ST1 EK1	甌	土師器	—	—	—	—	マヌツ	ハゲメ	—	—
	10 ST1 カドソリ	甌	土師器	—	—	—	ハゲメ	ハゲメ	ハゲメ	—	—
	11 ST1 カド	甌	土師器	—	(6.0)	—	ナギ、ハケメ	ナギ、ハケメ	—	—	—
	12 ST1 EP2	甌	土師器	—	—	—	ハゲメ	マヌツ	—	—	—
	13 ST1 EK1	甌	土師器	(26.0)	—	—	マヌツ	マヌツ	—	—	—
	14 ST1 EK1	甌	土師器	—	—	—	ハゲメ	ハゲメ	—	—	—
	15 ST1 Y	甌	土師器	(23.2)	—	—	マヌツ	ハゲメ	—	—	—
	16 ST1 カドソリ	甌	土師器	—	—	—	ハゲメ	ハゲメ	—	—	—
	17 ST1	甌	土師器	—	—	—	ハゲメ	ハゲメ	—	—	—
	18 ST1 EP2	甌	土師器	—	—	—	ハゲメ	ハゲメ	—	—	—
151	1 ST2 F1	盃	須恵器	14.0	—	3.4	ロクロ	ロクロ	ヘラ切	内面見込み平滑	—
	2 ST2 F1	盃	須恵器	(10.1)	—	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—
	3 ST2 Y	甌	土師器	24.8	8.5	38.9	—	—	—	本垂轄	—
	4 ST2 Y	甌	土師器	22.8	9.2	37.9	—	—	—	本垂轄	—
152	5 ST2 Y	甌	土師器	—	—	—	ハゲメ	ハゲメ	—	—	—
	1 SB3 EB6	甌	土師器	—	(12.0)	—	マヌツ	マヌツ	マヌツ	—	—
153	1 SP8	盃	須恵器	(8.0)	—	—	—	—	—	—	152-2と同一個体の可能性あり
	2 SP8	盃	須恵器	—	—	—	ロクロ	ロクロ	系切	—	—
	3 SP14 (庚子)	鉢	須恵器	—	7.2	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—
	4 SP10 F1	盃	須恵器	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—
	5 SP14	甌	須恵器	(15.0)	—	—	ロクロ・タタキ	—	—	—	—
	6 SP19	甌	土師器	(30.0)	—	—	ハゲメ	ハゲメ	—	—	—
	7 SP19	甌	土師器	(14.7)	—	—	ハゲメ	ハゲメ	—	—	—
	8 SD9	甌	土師器	4.95	4.9	1.1	—	—	—	—	—
	9 SD20	甌	土師器	—	—	—	—	—	—	—	—
	10 SD20	甌	土師器	—	—	—	—	—	—	—	—
154	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
155	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
156	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

### 3まとめ

調査では奈良～平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡、柱穴、近世以降の溝跡などを検出した。遺構分布からは、遺跡の主体が調査区北半を中心とする様相が窺えた。遺物は竪穴住居跡や土坑などからまとまった土器類が出土した。以下に遺構と遺物について整理してまとめる。

本遺跡では、竪穴住居跡、掘立柱建物跡が検出されており、平面形や掘り方などの規模は周辺の吉原I～同III遺跡に比し、小規模である。年代は出土遺物から、9世紀前半があてられる。

竪穴住居跡は2棟検出され、一辺が3～4m四方の方形を呈する。主軸方向は座標北を向くもの(ST2)と、座標北から西に振れるもの(ST1)に分けられる。

掘立柱建物跡の規模は、2×3間や2×2間の南北棟の建物で、柱穴の掘り方は円形を呈し、径30～40cmを測る。主軸方向は座標北を向くもの(SB3)と座標北から西に振れるもの(SB4)に分けられる。建物跡の年代は出土遺物が少なく、根拠に乏しいが、竪穴住居跡と主軸方向を同じくすることながら、同時期の構築と考えられる。

遺物では須恵器・土師器などが出土している。須恵器では、壺類の底部切離しがヘラ切と糸切が混在する。また土師器では、非口クロ成形で、平底の甌が多く出土している。甌は体部が長胴形になる大型の甌と小型の甌が確認される。

以上のことから、建物は少なくとも2時期以上の変遷が考えられ、主軸方向からはST1とSB4、ST2とSB3が同時期に存在したものと推測される。両者の先後関係については、遺構の直接的な切り合いがないため、不明である。しかし、出土遺物からは両者間に時期差はあまり認められないため、より近接した時期と判断される。

## VIII 若宮の橋跡

### 1 遺跡の概観

#### (1) 調査区と層序

若宮の橋跡は、以前より館跡として周知されていた遺跡で、『山形県中世城館遺跡調査報告書』にも若宮館（戦国期）として登録されている。館跡内部の範囲は南北最大幅約70m、東西約110mに広がる。地目は畠地・果樹で、付近の標高は約115～116.5mを測る。遺跡は須川右岸の微高地上に立地する。

平成10・11・12年度の3次にわたり発掘調査が行われ、1次調査は都市計画道路部分、2・3次調査は大型店舗建設に伴う敷地造成に伴うものである。第1次調査区をA区（面積約2,200m<sup>2</sup>）、2次調査区をB区（面積約1,300m<sup>2</sup>）、3次調査区をC区（面積約140m<sup>2</sup>）と呼称する。

調査区のグリッドは現場調査段階でその都度、各調査区にあわせた任意のグリッドを設定したが、報告書作成にあたり、公共座標をもとに改めて設定しなおした。国土座標平面直角座標系第X系：X=−196,890.00、Y=−45,920.00を原点とし、南をS、西をWと表記し、そこから1mを最小単位とするグリッドの設定を行った。

基本層序は概ね3層に分けられた。具体的には、I層が褐色土（表土、耕作土）、II層が黒色土（遺物包含層）、III層がにぶい黄褐色土（地山）である。I層は現況の耕作土である。II層は部分的に見られる層で、後世の搅乱などにより削平されている。III層が地山である。II層下部から遺物の包蔵が認められ、遺構の検出面はIII層直上面であった。全体的に酸化鉄粒を多く含んでいる。

#### (2) 遺構と遺物の分布

調査で検出された主な遺構は、堀跡、掘立柱建物跡、土坑、井戸跡、溝跡、柱穴などで、登録した数は150を超える。A区は館跡の堀跡部分及び館跡の外部、B・C区は館跡の内部にあたっており、A区では堀跡・柱列・土坑などの遺構、B・C区では掘立柱建物跡・土坑・溝跡・柱穴などが検出されている。堀跡はA区で確認され、館跡の北および西側で検出されている。調査区の制約上、トレンチによる部分的な調査であるが、幅約7～9m、深さ約2.0mを測る規模で確認された。出土遺物は、漆器片の他は未検出のため、詳細な時期は不明である。

掘立柱建物跡は、館跡内部にあたるB区に検出された。建物跡はいずれも南北方向で、建物の長軸も南北方向にもつ。主軸方向から少なくとも2時期以上の変遷が認められる。

溝跡は同じく館跡内部のB・C区に検出され、上記の建物跡と方向を同じくすることから、区画などを目的としたものと考えられる。また、建物跡の周辺に柱列や土坑、柱穴が検出されている。

遺物は土坑や溝跡から出土しているが、遺構からの出土は散発的で、多くは表土や包含層からの出土である。須恵器系陶器や瓷器系陶器の鉢・甕片、土師質土器、青磁などが出土した。出土遺物はその多くが細片で、時期決定の根拠となる資料に乏しいが、同安窯及び龍泉窯系の青磁碗や須恵器系陶器などから、13～15世紀の年代が想定される。

その他、表土から、古墳時代の土師器、奈良・平安時代の須恵器片が出土している。その多くは細片で、磨滅しているため、周辺遺跡からの流れ込みと考えられる。

## 2 検出された遺構と遺物

A区（第1次調査）で検出された遺構について報告する。A区では堀跡が調査区を南北に縦断して検出され、堀跡の東西に、土坑や柱穴などの遺構が検出された。柱穴は多数検出されたが、積極的に建物跡とするまでには至らなかった。遺物は遺構からの出土は散発的で、表土や包含層から、青磁や須恵器系陶器などが出土した。

### （1） 堀跡（第159・160図）

A区、館跡の北辺及び西辺の堀跡が検出された。明治21年調整の本遺跡周辺の字限図では、南を除く三辺に堀跡と考えられる地割が確認される。北側の堀跡については、現況の東西に走る農道に沿って僅かな段差として堀跡の痕跡が残っていた。また、西側については周囲より一段低い堀跡と考えられる部分が現況の道路となっており、道路以前は水田として利用されたようである。

A区は工事の都合上、東西15mずつに分割しての調査で、堀跡についてはトレンチによる調査にとどまっている。また西側堀跡から東へ約5mの間は遺構が希薄で、土塁の可能性も考えられたが、その痕跡などは確認できなかった。

堀跡は幅7～9m、確認面からの深さ約2～2.3mを測る。長さは検出長で、南北約40mを測る。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。断面形状は逆台形状を呈する。覆土上層は道路敷設時の盛土などで構成され、下層は黒褐色土を基調とする覆土で、粘性を帯び、一部グライ化する。出土遺物は漆器の細片が出土しているのみである。年代は出土遺物が少なく不明である。

### （2） S A 1（第161図）

**規模** 西側堀跡の西に位置する。本遺構周辺にも柱穴と考えられる遺構が分布するが、建物跡とするには至らず、柱列として登録した。全長約5mを測る、3間規模の東西方向の柱列である。柱間は1.6～1.9mを測る。

**主軸方向** N-72° - W（方位は磁北）

**柱穴** 平面形は円形で、径20cm前後、確認面からの深さは15～20cmである。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

### （3） S K01（第161図）

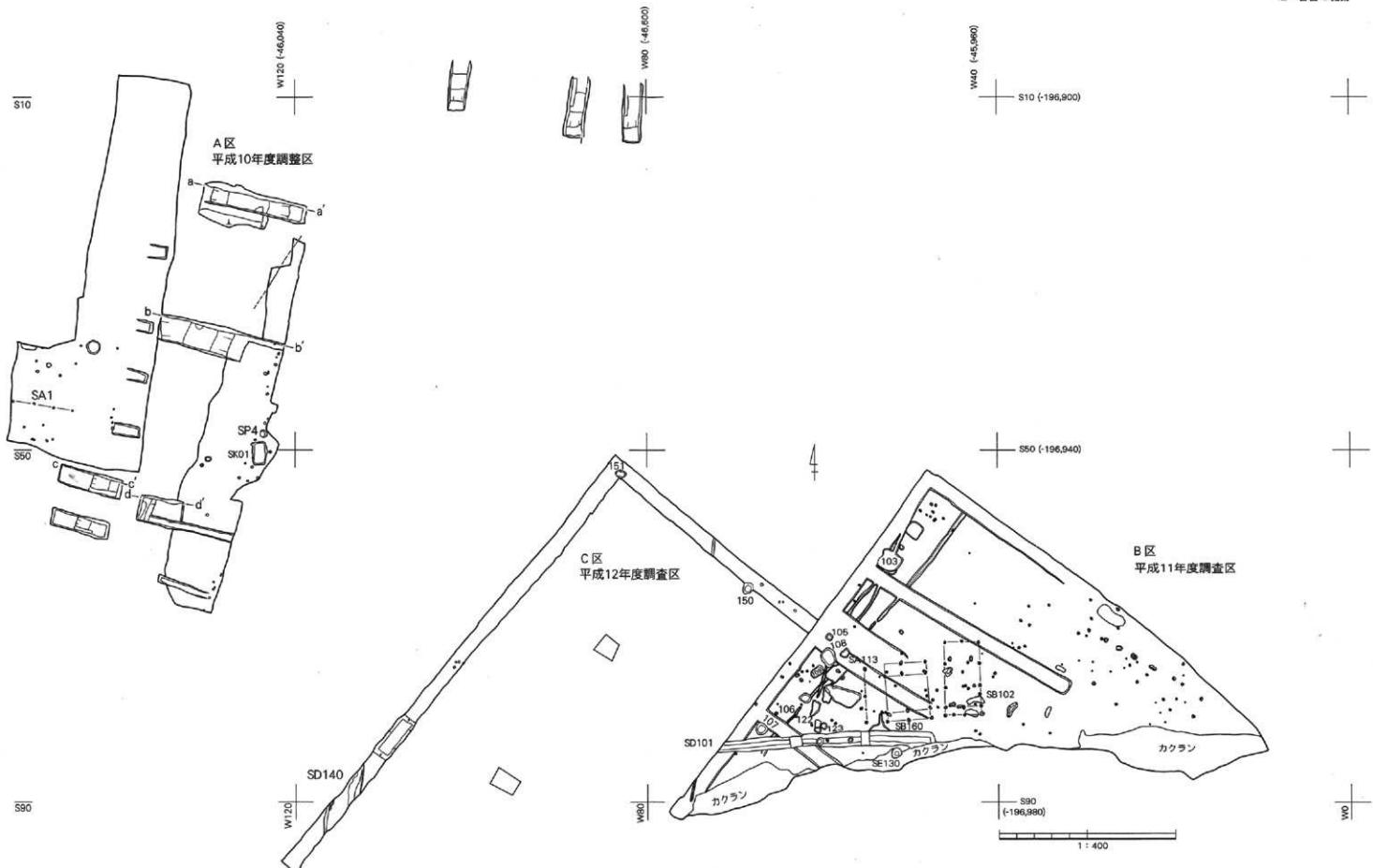
**規模** 西側堀跡の東に位置する。平面形が長軸1.9m、短軸1.2mの方形を呈する。確認面からの深さが約25cmを測り、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。底面は平坦で、覆土は黒褐色土を基調とし、酸化鉄粒を多く含んでいる。東辺中央、北西隅、西辺中央南寄りに径10cm前後の円形のピットが位置し、本土坑との関連も想定されるが、用途不明である。

**主軸方向** N-0°（方位は磁北）

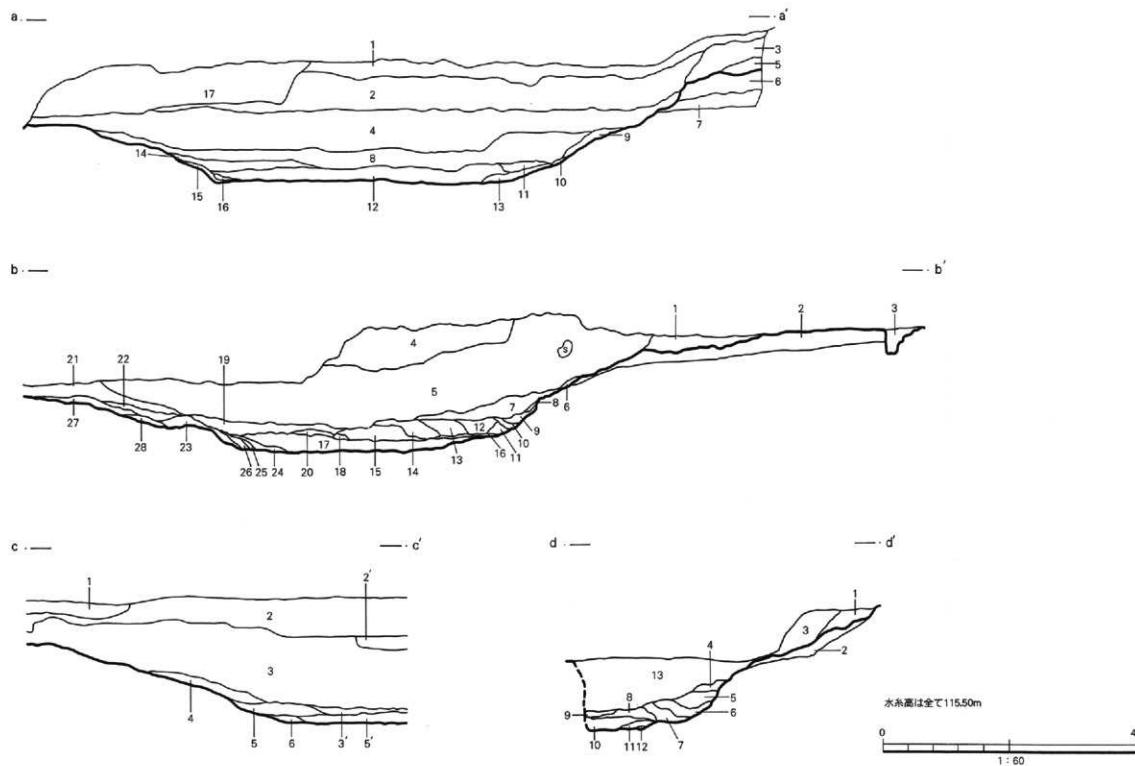
**出土遺物** 遺物は出土していない。

### （4）その他出土遺物（第162図）

A区で出土した遺物のうち、平面図の掲載していない遺構、またはグリッド、表土から出土し、図化した遺物について以下に概述する。



第159図 若宮の構跡遺構配置図

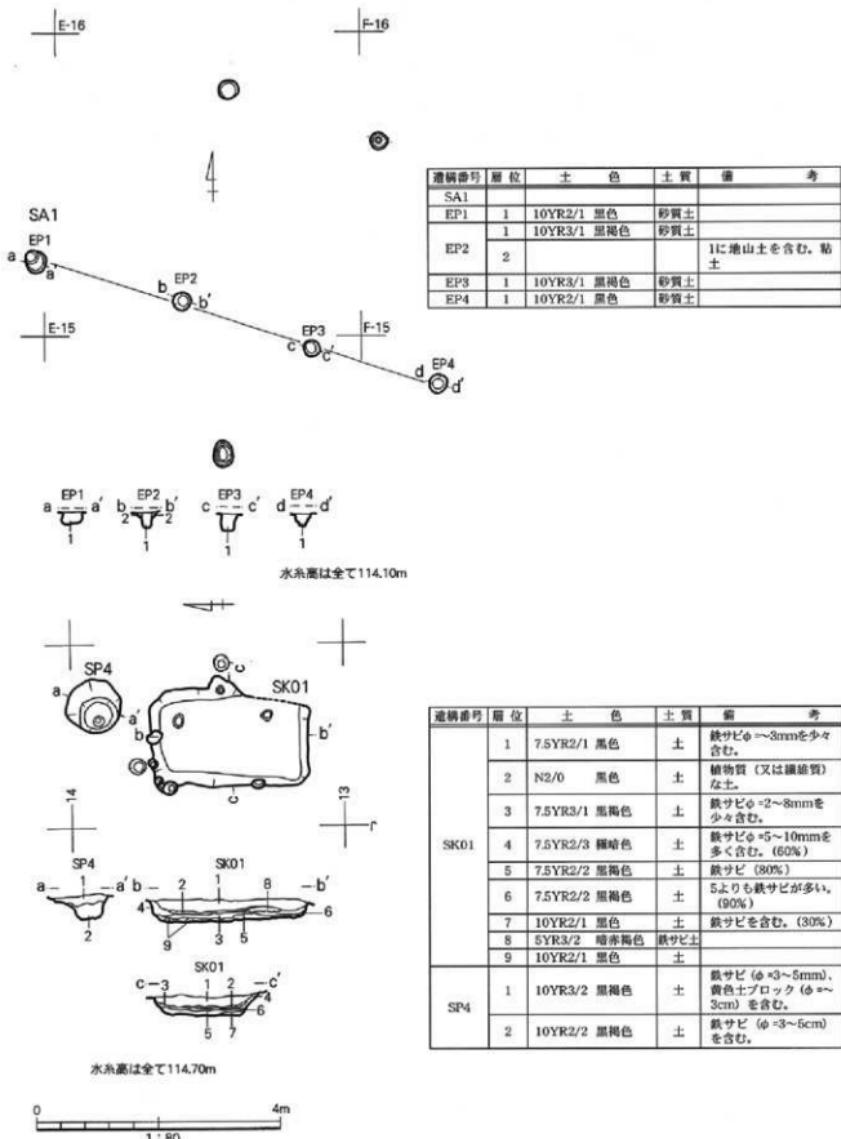


第160図 若宮の橋跡場跡土層断面図

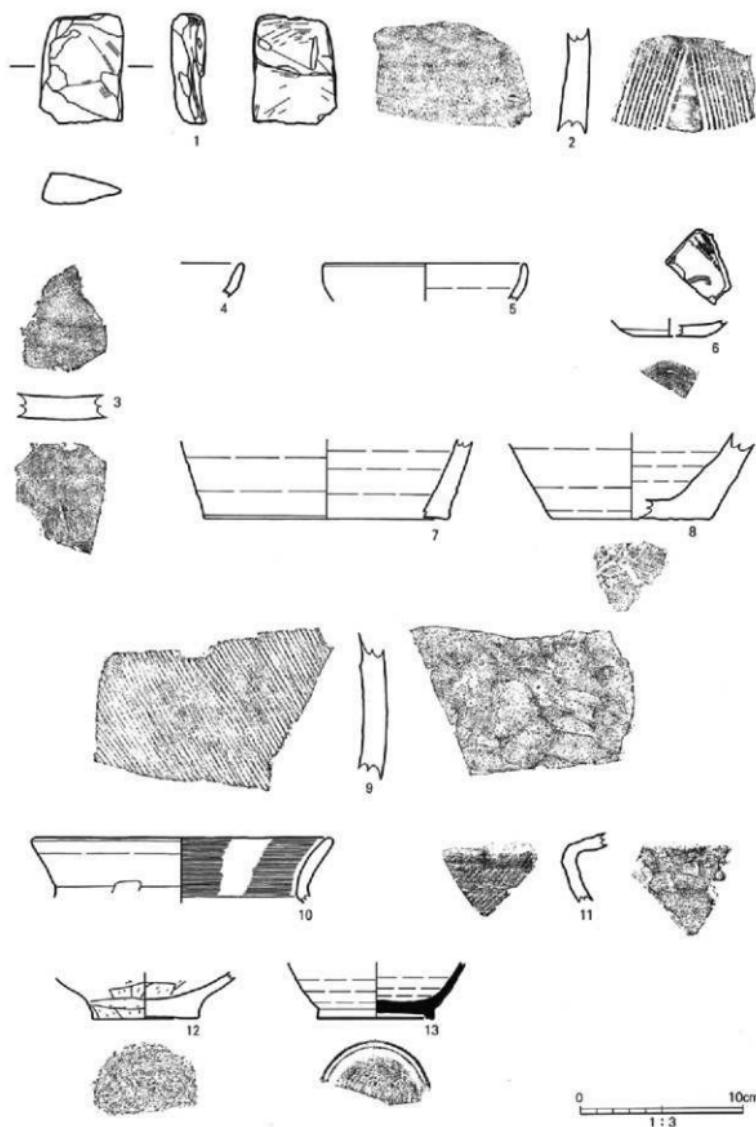
162-1は砥石である。下部を欠損するが、全面砥面として利用されている。162-2、8は須恵器系陶器の擂鉢片で、内面に32mm幅に12本の卸し目が施される。162-3は黒瓦片である。162-4、5は土師質土器皿の口縁部である。いずれも小破片で、全形は知り得ないが、4は手づくね成形、5はロクロ成形によるものと思われる。162-6は同安窯系の青磁皿で、内面に雷光文、底部はヘラケズリ調整される。162-7は壺器系陶器の鉢の底部片である。162-8は須恵器系陶器鉢で、内外面はロクロ痕、底部に糸切痕が認められる。162-9は須恵器系陶器壺の体部片である。外面は3cmあたり12条のタタキが施される。内面は径約3.5cmの円形の浅い押圧痕をとどめ、カキナラシが認められる。162-10、12は古墳時代の土器である。10は壺の口縁部で、ナデ調整が施される。12は壺の底部で、体部及び底部外面にケズリ調整が施される。162-11、13は奈良・平安時代の須恵器である。11は壺頭部で、外面に平行タタキが施される。13は底部切離しが糸切の高台坏である。本遺跡で古墳～平安時代の遺構は未検出であるため、10～13は周辺の遺跡からの流れ込みであると考えられる。

遺跡番号	層位	土 色	土 质	備考
1	10YRA/1	褐灰土	砂質土	
2				焼風。(水田耕作による埋め立てる)
3	7SYR4/2	褐灰土	表土土質	
4				粘土質土(一部グライ化)
5	7SYR4/3	褐色	砂質土	盛土(?)、礫物約1~3mmを含む。
6	10YRL1/1	黑色	土	地山(?)、均一な細粒。
7	10YRL1/2	黑色	中砂質土	中砂質土
8	7SYR2/1	黑色	砂質土	砂礫土(?)、粒約3~5mm)、やや砂質。
9	10YR2/2	黑褐色	黄質土	△×2~3cmの礫を含む。
10	10YR2/2	黑褐色	砂質土	均一。
11	7SYR2/1	黑色	粘土質土	砂質、礫約1~2cm、~5mmを含む。
12	10YR2/1	黑色		やや砂質、礫を含む。(△×3~5mm)
13	10YR2/1	黑色	砂質土	砂礫質(やや粘土質)、△×5~10cm。
14	10YR2/1	黑褐色		均質。
15	10YR2/1	黑色	土質土	砂礫質(△×1~2cm)
16	10YRL1/1	黑色	砂質粘土	やや砂質、しまる。
17				圓底(進み土)、糸切を含む。
1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	ややなりまなし(盛土か?)
2	10YR1/2	黑色		黒(山砂?)、均質。
3	10YR1/1	褐灰色		柱穴六箇所。
4				砂質土。
5	7SYR4/1	褐灰色	砂質土	砂(△×5cm)を含む。)
6	10YR3/1	黑褐色	砂質土	礫を含まない。
7	10YR4/1	褐灰色	砂質土	砂(△×10cm)を含む。やや粘土質。
8	10YR3/1	黑褐色	砂質土	均質(やや拘泥)。
9	10YR2/1	黑褐色	粘土	均質。
10	10YR2/1	黑褐色	粘土	均質。
11	10YR2/1	黑色	粘土	やや砂質。
12	10YR1/2	黑色	粘土	やや砂質。
13	10YR1/2	黑色	粘土	均質、粒あり。
14				7との互離。
15	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質粘土	
16				粘土、△×5cmを含む。
17	10YR2/1	黑色	砂質粘土	均質、粘性あり。
18	10YRS/3	にぶい黄褐色		砂質を含む。
19	10YR3/1	黑褐色	粘土	均質、しまる。
20				16に同じ。
21	2SY4/1	褐灰色	粘土	
22	10YR2/1	黑色	粘土	やや砂質。
23	10YR2/1	黑色	砂質土	
24	10YR2/1	黑色	砂質土	地山ブロックを斑状に含む。粘性あり。
25	10YR1/2	黑色	砂質粘土	均質。
26	10YR1/1	黑色	砂質粘土	地山ブロックを斑状に含む。粘性あり。
27	10YR3/1	黑褐色		地山ブロックを斑状に含む。粘性あり。
28	10YR3/1	黑褐色		

遺跡番号	層位	土 色	土 质	備考
1				細粒土。
2				砂利層。
3'				砂利層(固くしまる)。
3	7SYR2/1	黑色	砂質土	質土、しまる。
3'	5YR2/1	黑褐色	砂質土	やや粘性あり。
4	7SYR2/2	黑褐色	砂質土	やや粘性あり。
5	10YR2/2	黑褐色	砂質土	やや粘性あり。
5'	10YR2/2	黑褐色	砂質土	
6	10YR2/1	黑褐色	砂質土	
1	10YR4/1	褐灰土	砂質粘土	ややしまりなし。(盛土か?)
2	10YR1/2	黑色		底土(地山か?)、均質。
3				砂利。
4	10YR2/1	黑色	粘土	
5	10YR2/1	黑色	粘土	やや粘性を帯びる。
6	10YR1/2	黑色	粘土	均質、粒りあり。
7				6との互離。
8	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土	
9	2SY2/1	黑色	粘土(砂質)	10YR5/3にぶい黄褐色粘土がはじまる。
10	2SY2/1	黑色	粘土(砂質)	均質、粒りあり。
11	2SY3/1	黑褐色	粘土	10より砂質。
12	7SYR4/1	褐灰土	砂質粘土	穂(△×3~5cm)を含む。)



第161図 若宮の柵跡SA1柱列・SK01土坑



第162図 若宮の橋跡出土遺物

B・C区で検出された遺構と遺物について以下に報告する。B・C区は本遺跡の範囲でいえば、館跡内部にあたり、掘立柱建物跡や土坑、溝跡などが検出された。上部削平や後世の搅乱による影響を受けており、遺存状況はあまり良好ではない。

#### (5) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡として確認できたものは2棟である。いずれも南北棟の建物跡で、主軸方向は座標北からやや西に振れる。この他にも多くの小ビットを検出したが、積極的に建物跡とするまでに至らなかつた。以下に各建物跡について概述する。

##### S B 160 (第163図)

**規模** B区中央部に位置する。梁行5.0m、桁行6.4mを測る2×1間の母屋に南北両面に廂が付く南北棟の建物跡である。柱間は梁行が2.3~2.7m、桁行が4.0mを測る。

**主軸方向** N-6° 30' -W

**柱穴** 掘り方は平面形が円形や楕円形で、径20~40cmを測る。確認面からの深さは20~56cmを測る。土層断面から確認できる柱痕跡は約10cmである。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

##### S B 102 (第164図)

**規模** S B 160の東に位置し、梁行4.0m、桁行8.2mを測る2×3間の母屋に、南面に廂が付く南北棟の建物跡である。柱間は梁行が1.9~2.1m、桁行が2.2~2.6mを測る。

**主軸方向** N-2° -W

**柱穴** 掘り方は平面形が円形で、径20~30cmを測る。確認面からの深さは20~68cmを測り、土層断面から確認できる柱痕跡は約10cmである。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

#### (6) 柱列

掘立柱建物跡に近接して柱列が1基検出された。掘立柱建物跡と主軸方向をほぼ同じくすることから、建物跡に伴う目隠し塀などの機能が想定される。以下に概述する。

##### S A 113 (第163図)

**規模** S B 160の西に位置する。全長6.0mを測る、4間規模の南北方向の柱列である。柱間は北から1.8・1.3・1.5・1.4mを測る。

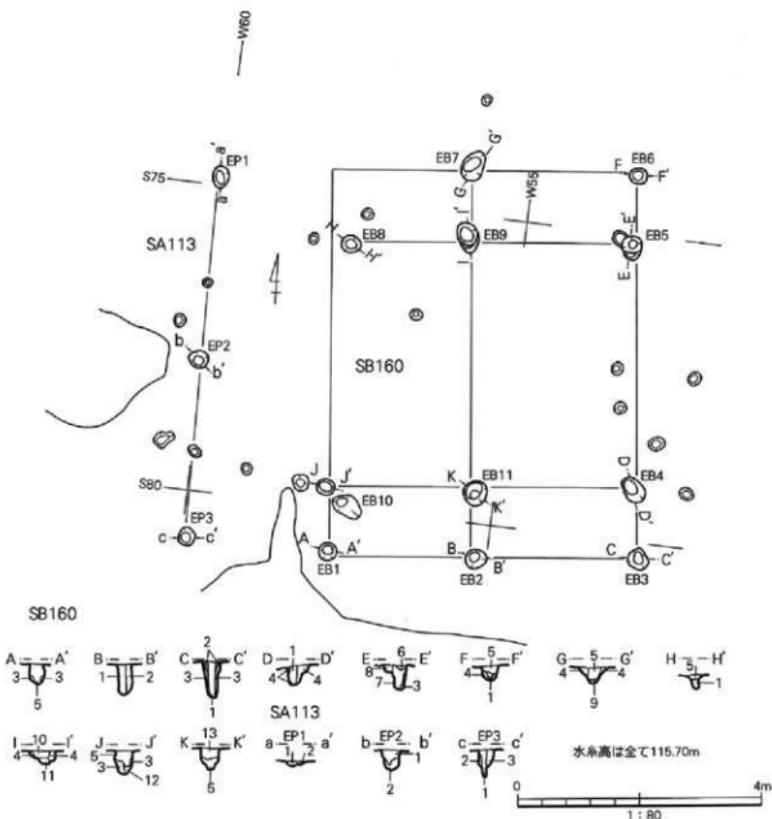
**主軸方向** N-1° 30' -W

**柱穴** 掘り方は平面形が円形で、径10~20cmを測る。確認面からの深さは8~44cmを測り、土層断面から確認できる柱痕跡は約8cmである。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

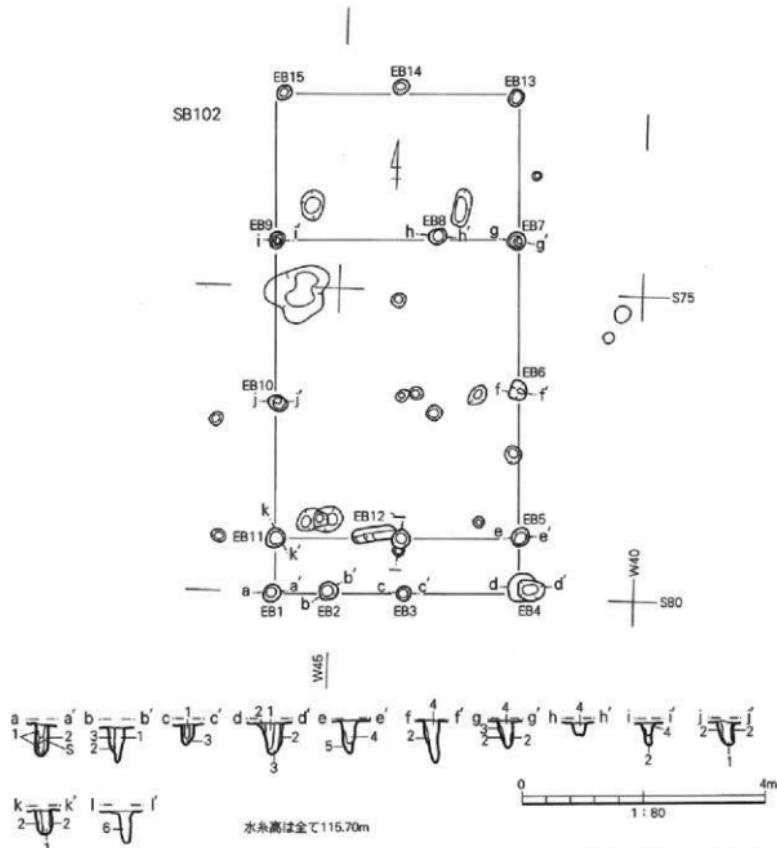
#### (7) 溝跡

B・C区で検出された溝跡は大小含めて7条が検出された。そのほとんどは区画などを目的としたものと考えられるが、調査区が限定されており、全体の規模などは不明である。以下、主なものについて個別に概述する。



第163図 若宮の橋跡SB160掘立柱建物跡・SA113柱列

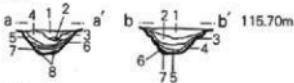
番号	概要	土	土質	備考
SB160	1 7.5YR1.7/1 黒色	土	黒山砂 (2~3mm大) 少量含む。(同鉄筋)	
	2 7.5YR1.7/8 明褐色	土	7.5YR1.7/2明褐色土石・同ブロックを中心程度含む。	
	3 7.5YR1.7/8 黒色	土	7.5YR1.7/2明褐色土石・同ブロックを中心程度含む。	
	4 7.5YR2.1/1 黑色	土	黒山砂・同ブロックをやや多く含む。	
	5 7.5YR2.1/1 黑色	土	黒山砂・同ブロックをやや多く含む。	
	6 7.5YR2.2/2 黑色	土	黒山砂を多量含む。	
	7 7.5YR2.2/1 黑色	土	黒山砂・同ブロックをやや多く含む。	
	8 7.5YR2/8 明褐色	土	7.5YR2/1明褐色土石・同ブロックを中心程度含む。	
	9 7.5YR2/1 黑色	土	黒山砂を多量含む。	
	10 7.5YR2/1 黑色	粘質土	黒山砂・同ブロックをやや多く含む。	
	11 7.5YR2/1 黑色	粘質土	黒山砂 (2~4mm大) 少量含む。	
	12 7.5YR2/2 黑色	土	7.5YR2/1明褐色土石・同程度含む。	
	13 7.5YR2/2 黑色	粘質土		
SA113 EP1・EP2	1 7.5YR2/2 黑色	土	黒山砂・同ブロックを少含む。	
	2 7.5YR4/3 黑色	土	黒山砂・同ブロック・7.5YR2/2明褐色土石・同ブロックを中心程度含む。	
SA113EP3	1 7.5YR2/2 黑色	粘質土	黒山砂を少量含む。(同鉄筋)	
	2 7.5YR3/4 明褐色	土	7.5YR2/1明褐色土石・同ブロックを中心程度含む。	
	3 7.5YR2/1 黑色	粘質土	黒山砂をよりやや多く含む。	



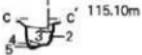
第164図 若宮の桶跡SB102掘立柱建物跡

遺構番号	層位	土色	土質	備考
SB102	1	7.5YR1.7/1 黒色	土	地山粒(2~3mm大)を少量含む。(柱痕跡)
	2	7.5YR5/8 明褐色	土	7.5YR2/2 黒褐色土粒・同ブロックを中程度含む。
	3	7.5YR2/1 黒色	土	地山粒・同ブロックを中程度含む。
	4	7.5YR2/1 黒色	土	地山粒を少量含む。
	5	7.5YR2/1 黒色	土	地山粒・同ブロックをやや多く含む。
	6	7.5YR2/1 黒色	土	地山粒・同ブロックをやや多く含む。

SD101



SK131



断面番号	層	土	質	性
SD101 a-a'	1	10YR3/2 黒褐色	土	地山側・阿プロック・埴 七ブロックをやや多く 含む。
	2	10YR4/3 にほい黄褐色	礫砂	
	3	7.5YR5/1 黒褐色	土	地山側・阿プロックを多 く含む。
	4	10YR3/3 黑褐色	土	地山側を少許含む。
	5	7.5YR3/1 黑褐色	土	地山側・阿プロックを多 く含む。
	6	7.5YR3/1 黑褐色	礫質土	地山側・阿プロックを5 より多く含む。
	7	7.5YR2/1 黑褐色	粘質土	地山側を少許含む。
	8	10YR3/2 黑褐色	礫質土	地山側 (Guan大) 砂中 程度含む。
SD101 b-b'	1	7.5YR4/6 褐色	土	7.5YR4/6 褐色粘質土・ アプロック・地山側・阿 プロックを多く含む。
	2	7.5YR3/4 黑褐色	土	地山側ごくわずか。灰 化色ごく少許含む。
	3	7.5YR2/2 黑褐色	土	地山側少許含む。
	4	7.5YR3/4 砂質土	土	地山側少許含む。
	5	7.5YR3/2 粘質粘土	土	地山側少許含む。
	6	7.5YR3/4 砂質土	土	地山側少許含む。
	7	7.5YR3/2 黑	粘質土	地山側ごく少許含む。
SK131	1	10YR1/1 黒色	粘質土	7.5YR4/4 黑褐色粘質土・ 阿プロックを多く含む。
	2	7.5YR4/3 褐色	粘質土	10YR6/4 にほい黄褐色 粘質土・灰・阿プロック・ 10YR1/7/1 褐色粘質土・ 灰・阿プロックをやや多 く含む。疊合じり。
	3	10YR1/1 黒色	粘質土	7.5YR4/4 黑褐色粘質土・ アプロックを中程度含む。
	4	7.5YR4/3 褐色	沙	10YR6/4 にほい黄褐色 粘質土・灰を少許含む。
	5	10YR6/6 明黄色	粘土	7.5YR4/3 黄褐色アプロッ クを中程度含む。

W65 +

調査区外

SD101

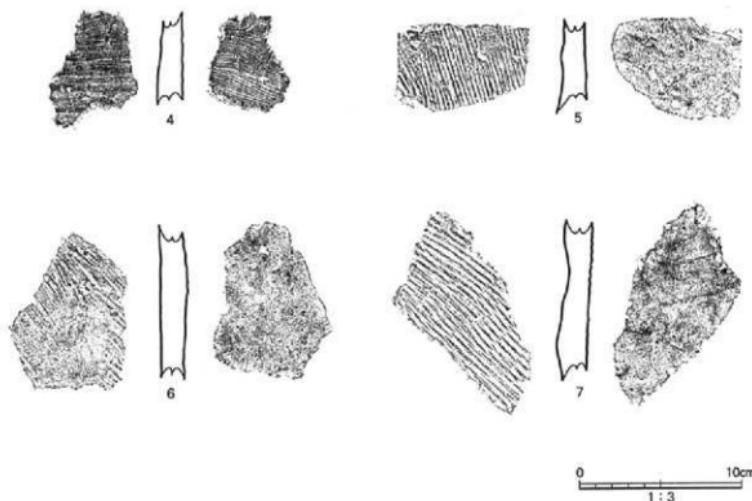
SK131

SSB

0 1:3 10cm

0 1:120 4m

第165図 若宮の柵跡SD101溝跡・出土遺物



第166図 若宮の橋跡SD101出土遺物

## SD 101 (第165図)

**規模** B区南端で検出された、東西に伸びる溝跡である。西側は調査区外に伸び、検出長24mの地点で南に屈曲することが確認されたが、それ以降は搅乱となるため、全体の規模は不明である。幅は0.7~1.0m、確認面からの深さは50~60cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形状を呈する。覆土は黒褐色土を基調とし、地山粒や同ブロックを含んでいる。またこぶし大の礫を特に西側に多く含む。

精査を進めたところ、底面に径40cm弱の円形の土坑（SK131）が検出された。溝跡に伴うものではなく、本遺構が形成される以前の土坑と推測される。底面からの深さは約50cmを測る。

**主軸方向** N-2°-W

**出土遺物** 覆土から、瀬戸美濃系の陶器（165-1）、龍泉窯系の青磁碗（165-2）、須恵器系陶器（166-4~7）などが出土している。1は皿の口縁部で、釉は淡緑色を呈す。2は飛雲文の碗で、内面に片彫りの文様が描かれる。高台内部は齧胎である。3は用途不明の石製品である。4は外面に2次火熱による火ハネ痕が認められ、内面はハケメ状の痕跡が確認される。5は外面に3cmあたり12条のタタキが施される。内面は径約3cmの円形押圧痕が確認される。6、7は外面に3cmあたり8条のやや粗いタタキが施される。6は内面の押圧痕が不明瞭で、7は内面に径3.5cmの円形押圧痕、カキナラシが認められる。

## S D 140 (第170図)

規模 C区南西部で検出された、南北に伸びる溝跡である。南北が調査区外になるため、全体の規模は不明であるが、幅約2m、確認面からの深さが約40cmを測る。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、断面形状はU字形を呈する。

主軸方向 N-5°-E

出土遺物 小破片であるが、土師質土器皿が出土した。

## (8) 土坑・井戸跡

B・C区で検出された土坑は16基、井戸跡は1基である。以下、主なものについて概述する。

## S K 106 (第167図)

規模 B区南西部に位置する。平面形が不整な円形を呈し、長径1.4m、短径1.1mを測り、確認面からの深さは約20cmである。覆土は黒褐色土を基調とし、こぶし大の礫が混入する。

出土遺物 火熱した凹石状の石製品(167-1)が出土した。

## S K 109 (第167図)

規模 B区南西部、SK106の北に位置する。平面形が梢円形を呈し、長径1.6m、短径1.0mを測り、確認面からの深さは約30cmである。覆土は黒褐色土を基調とし、焼土粒を含む。こぶし大の火熱した礫が混入する。

出土遺物 産地不明の陶器(167-2)、土師質土器皿の底部(167-3)出土した。3はてづくね成形によるものと判断される。

## S K 103 (第168図)

規模 B区西北部に位置し、SD104に切られる。平面形が方形に近い円形を呈し、長径1.8m、短径1.6mを測り、確認面からの深さ約15cmである。覆土は黒褐色土を基調とする。

出土遺物 遺物は出土していない。

## S K 108 (第168図)

規模 B区南西部、SK109の北に位置する。平面形が梢円形を呈し、長径1.8m、短径1.6mを測り、確認面からの深さは約35cmである。覆土は黒褐色土を基調とし、炭化粒が混入する。

出土遺物 遺物は出土していない。

## S K 107 (第168図)

規模 B区南西部に位置する。平面形が円形を呈し、径1.4mを測る。確認面からの深さは約20cmである。覆土は黒褐色土を基調とし、地山、炭化粒が混入する。

出土遺物 遺物は出土していない。

## S K 105 (第168図)

規模 B区南西部、SK108の北西に位置する。平面形が円形を呈し、径0.8mを測る。確認面からの深さは約15cmである。覆土は黒褐色土を基調とし、こぶし大の礫が混入する。

出土遺物 遺物は出土していない。

## S K 122 (第169図)

規模 B区南西部に位置する。平面形が長梢円形を呈し、長径1.4m、短径0.6mを測る。確認面からの深さは約15cmである。北側に径60cm弱の焼土の広がりが認められ、固く焼けていた。

出土遺物 図化していないが、土師質の土器片が出土した。

S K 123 (第169図)

規模 B区南西部、S K 122の東に位置する。平面形が円形を呈し、径0.7mを測る。確認面からの深さは約20cmである。覆土は暗褐色を基調とし、炭、焼土を含む。

出土遺物 遺物は出土していない。

S E 130 (第169図)

規模 B区南中央部、S D 101の南に位置し、東側が搅乱を受けている。平面形が不整な円形を呈し、径1.1mを測る。確認面からの深さは約1.2mである。覆土は黒褐色土を基調とし、地山粒・ブロックを含む。断面形状は円筒状を呈し、上部にかけて広がる。形状から井戸跡と推測される。

出土遺物 遺物は出土していない。

S K 150 (第169図)

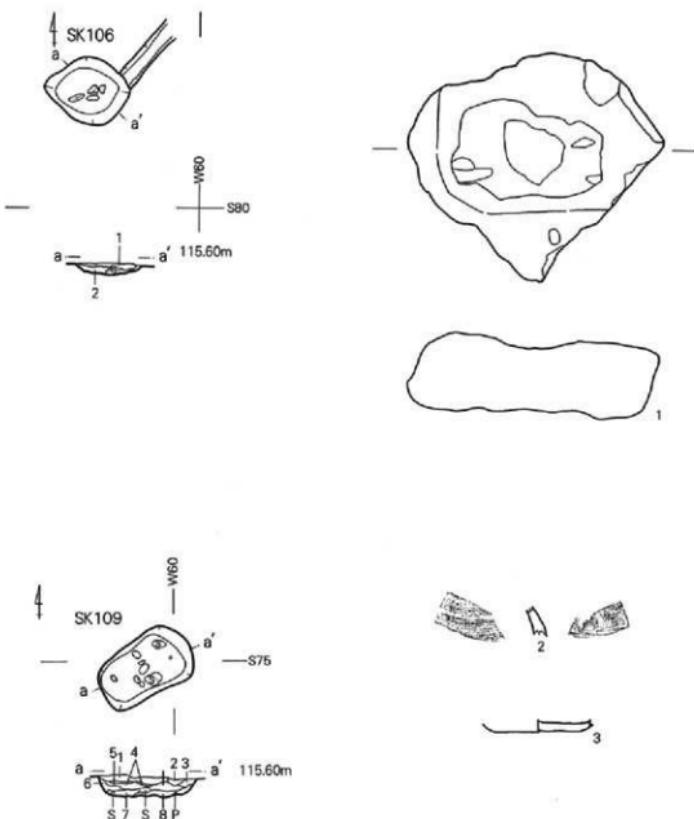
規模 C区東部に位置する。平面形が円形を呈し、径1.1mを測る。確認面からの深さは約50cmである。底面は平坦で、断面形状は逆台形状を呈する。覆土は黒褐色土を基調とし、地山粒・ブロックを含む。

出土遺物 遺物は出土していない。

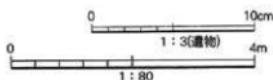
S K 151 (第169図)

規模 C区中央部に位置する。平面形が梢円形を呈し、長径1.1m、短径0.9mを測る。確認面からの深さは約60cmである。底面は平坦で、断面形状は逆台形状を呈する。覆土は黒褐色土を基調とし、地山粒・ブロックを含む。

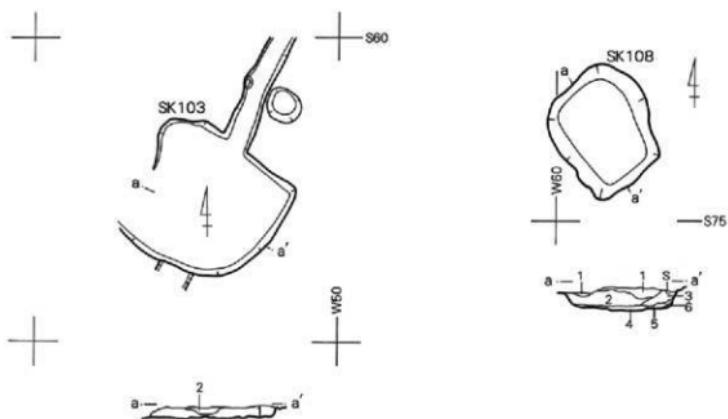
出土遺物 遺物は出土していない。



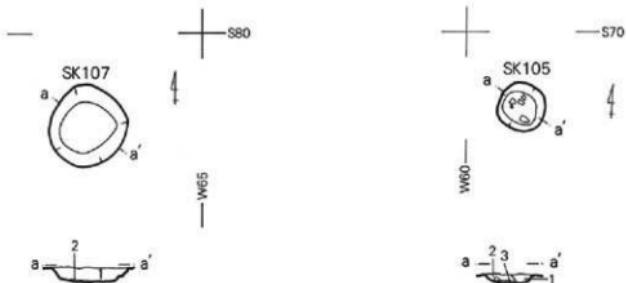
遺構番号	層 位	土 色	土 質	備 考
SK106	1	10YR2/3 黒褐色	土	地山粒・同ブロックをやや多く含む。炭化粒を含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	土	1よりやや暗い色調。地山粒 (2~5mm大) を少量含む。炭化粒を含む。織入る。
SK109	1	7.5YR2/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロックを少量含む。施土ブロックを少量含む。
	2	7.5YR3/2 黒褐色	土	地山粒を多く含む。施土粒を少量含む。
	3	7.5YR2/1 黒色	土	地山粒・同ブロック・施土ブロック(大) を中程度含む。
	4	7.5YR3/1 黒色	粘質土	地山粒・同ブロックを少度含む。施土ブロックを多く含む。
	5	7.5YR4/3 黑色	粘質土	施土ブロックを多く含む。土器片出土。地山粒、2.5YR3/1暗赤色粘質土粒を少度含む。
	6	7.5YR2/1 黑色	粘質土	地山粒・同ブロックを少度含む。
	7	10YR6/6 明黄褐色	土	7.5YR2/1黑色土ブロックを少度含む。
	8	7.5YR2/3 極暗褐色	土	土器片を含む。地山粒・同ブロックを少度含む。



第167図 若宮の植跡SK106・109土坑・出土遺物

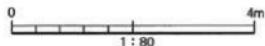


遺構番号	層位	土色	土質	備考
SK103	1	10YR2/3 黒褐色	土	7.5YR3/3暗褐色土粒・同ブロックをやや多く含む。地山粒・同ブロックを少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	土	SD104壤土
SK108	1	7.5YR2/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロックを少量含む。炭化粒を少量含む。
	2	7.5YR2/2 黒褐色	土	地山粒・同ブロックを多量含む。炭化粒を含む。
	3	7.5YR2/1 黒褐色	土	地山粒・同ブロックを中程度含む。
	4	7.5YR2/1 黒褐色	土	地山粒を少量含む。埴土粒を含む。
	5	7.5YR4/3 褐色	粘質土	7.5YR2/1黒色土ブロックを中程度含む。
	6	7.5YR2/1 黒褐色	土	比較的均一。

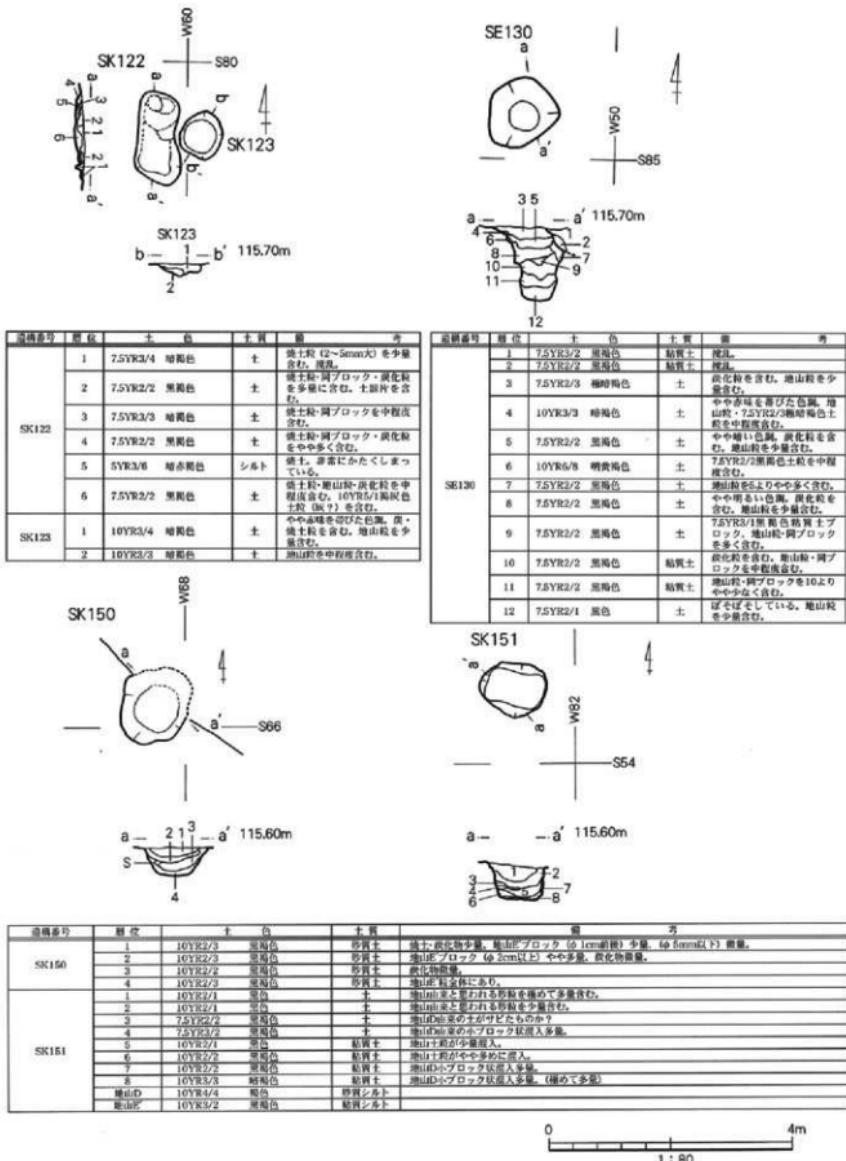


遺構番号	層位	土色	土質	備考
SK107	1	10YR2/3 黒褐色	土	地山粒・同ブロックを中程度含む。炭化粒を含む。
	2	10YR3/3 單褐色	土	地山粒・同ブロックを多く含む。
SK105	1	10YR2/3 黒褐色	土	地山粒 (2~3mm大) をわずかに含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	土	地山粒・同ブロックを中程度含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	粘質土	地山粒をわずかに含む。炭化粒を含む。

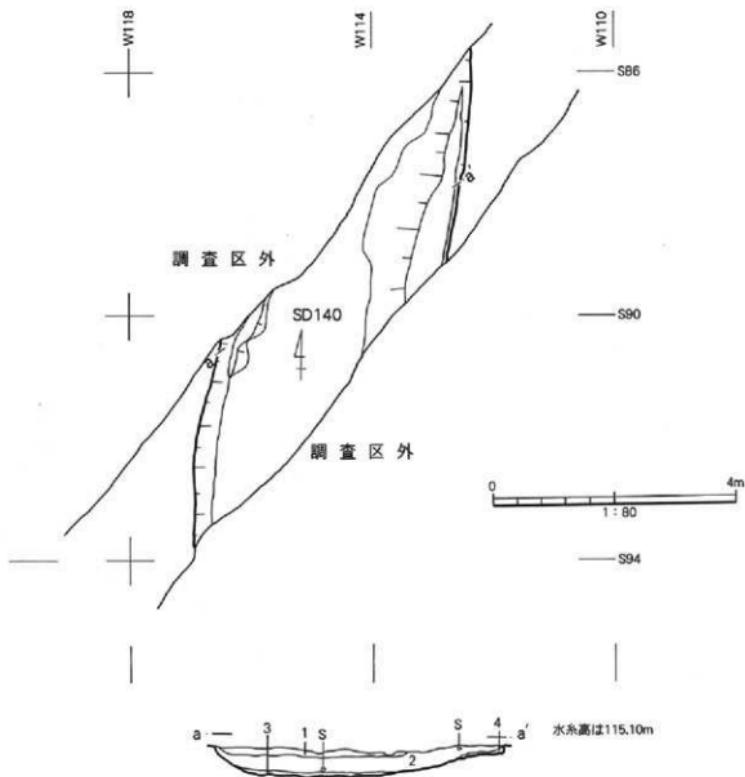
水系高は全て115.60m



第168図 若宮の橋跡SK103・105・107・108土坑



第169図 若宮の植跡SK122・123・150・151土坑・SE130井戸跡



第170図 若宮の橋跡SD140溝跡

達構番号	層位	土 色	土質	備 考
SD140	1	10YR2/1 黒色	土	地山G (D) のブロック状混入少量あり。非常にブロック状の粒子が多くぼそぼそする。
	2	10YR2/2 黒褐色	土	地山G (D) のブロック状混入多量あり。非常にブロック状の粒子が多くぼそぼそする。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質土	地山Hの細砂粒を多量に含み、かつ、地山Eの粘土質シルトブロックも少量混じる。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質土	地山Dの土粒を多量に混じる。
	地山D	10YR4/4 黄色	砂質シルト	
	地山E	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	
	地山G	7.5YR4/4 橙色	土	地山Dが変色し、赤味を帯びたもの。
	地山H	10YR3/2 黑褐色	土質砂	

表16 若宮の縄跡出土遺物観察表

地図 番号	遺物 番号	出土地点・層位	器種	種別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	外面特徴	内面特徴	底部特徴	備考
	1 SK02	砾石	石製品	—	6.6	5.2	2.0				
	2 SK02	漆鉢	須恵器系陶器	—	—	—	—	ロクロ	鉢し目		鉢し目 32mm/m に12本
	3 Tr北	平瓦	瓦(黒瓦)	—	—	—	1.5				
	4 表土	土	土師質土器	—	—	—	—				
162	5 表土	土	土師質土器	(12.8)	—	—	—				
	6 表土	土	青磁	—	—	(4.2)	—	ロクロ	ロクロ		
	7 表土	土	須恵器系陶器	—	—	(15.0)	—		雷光文		同安窯系
	8 表土	土	須恵器系陶器	—	—	(10.0)	—	ロクロ	ロクロ	糸切	
	9 表土	土	須恵器系陶器	—	—	—	—				
	10 表土	土	土師器	(18.2)	—	—	—		ナデ		
	11 表土	土	須恵器	—	—	—	—				
	12 表土	土	土師器	—	6.6	—	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	
	13 確認画	高台付环	須恵器	—	(7.0)	—	—	ロクロ	ロクロ	糸切	
165	1 SD101 F1	漆	漆器(漆戸・美濃)	—	—	—	—	灰輪(淡黄緑色)			
	2 SD101 F1	陶	青磁	—	—	—	—		飛毫文	高台内部施加	龍泉窯系
	3 SD101 F1	土	石製品	4.0	2.6	2.9	—				
166	4 SD101 F中	土	—	—	—	—	—		ハケヌ		
	5 SD101	漆	須恵器系陶器	—	—	—	—				
	6 SD101	漆	須恵器系陶器	—	—	—	—				
	7 SD101	漆	須恵器系陶器	—	—	—	—				
	1 SK106	凹石	石製品	15.8	13.8	4.9	—				
167	2 SK109 F1	陶器	—	—	—	—	—				
	3 SK109 F1	土	土師質土器	—	(5.2)	—	—				手づくね

### 3 まとめ

調査では堀跡、掘立柱建物跡、柱列、溝跡、土坑、柱穴などの遺構を検出した。遺物は、遺構からの出土は散発的で、主に表土や包含層から出土した。以下に遺構と遺物について整理してまとめる。

本遺跡では、堀跡、掘立柱建物跡、溝跡などが検出されており、館跡外部及び内部の様相が調査により明らかになった。

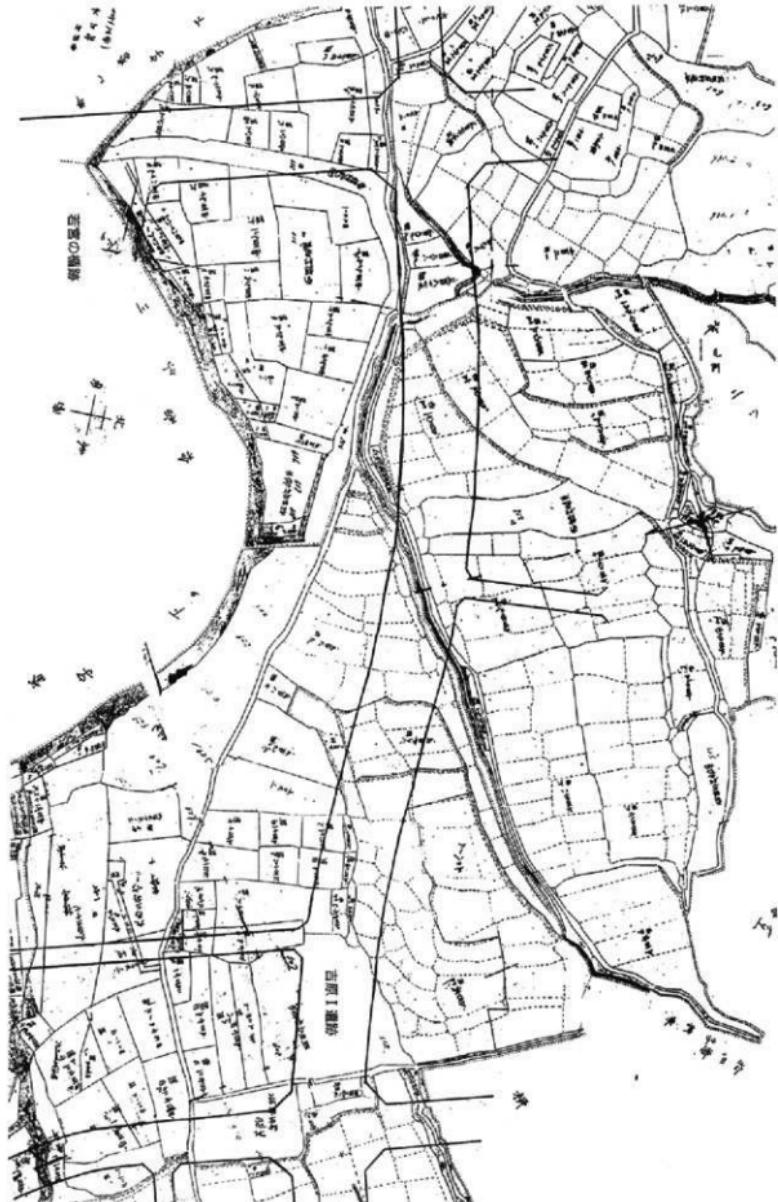
堀跡は館跡の西堀、北堀の一部が検出され、トレーナによる調査であるが、幅7~9m、深さ約2mの規模の堀跡であることが確認された。下層より漆器碗が出土している他は出土遺物がなく、詳細な時期は不明である。

掘立柱建物跡は、2×3間や2×1間の母屋に廊が付く南北棟の建物である。主軸方向はいずれも座標北から西に振れる。建物跡の年代はSD101と主軸方向を同じくすることなどから、同時期の構築と推測される。

SD101溝跡は検出長24mの地点で南に屈曲することが確認され、区画などを目的としたものと考えられる。しかし搅乱及び調査区の制約上、区画する範囲は明確でなく、その位置的状況からは上記の建物跡とは別の建物跡などを区画したものと想定される。

遺物では青磁、須恵器系陶器、土師質土器などが出土している。青磁は同安窯系や龍泉窯系の皿・碗、須恵器系陶器は甕が大半で、外面にやや細いタタキが施されるものである。土師質土器は小破片のため、全形を知りえるものはないが、ロクロ成形によるものと、手づくね成形によるものが認められる。年代は青磁、須恵器系陶器などから13~15世紀があてられる。

以上のようなことから、部分的ではあるが、館跡の実際の堀幅や深さを確認することができ、また館跡内・外部には掘立柱建物跡や土坑が構築されるなど、館跡の様相が調査により明らかになった。本遺跡は一説には、長谷堂合戦時の「最上義光公後詰出張の所なり」と伝えられ、戦国期の館跡として登録されるが、調査により鎌倉・室町時代にもこの地が利用されたことが明らかになった。東隣接する吉原I遺跡でも同時期の遺構が検出されており、何らかの関連が想定され、今後検討を要する。



第171図 吉原I遺跡・若宮の橋跡周辺字限図

# IX 総括

## (1) 調査の成果

吉原 I～IV・VI遺跡、若宮の橋跡は山形市の吉原地区に位置し、馬見ヶ崎川扇状地扇端部、須川右岸の微高地上に立地する。吉原土地区画整理事業に係り、平成9～12年度に発掘調査を実施した。調査面積は合計で24,435m<sup>2</sup>である。調査では吉原 I～IV・VI遺跡で奈良～平安時代、吉原 I 遺跡・若宮の橋跡で中世の、大きく二つの時代の遺構と遺物が検出された。以下に主な調査成果を概括し、まとめとする。

## (2) 奈良～平安時代の遺構について

吉原 I～IV・VI遺跡で検出された奈良～平安時代の主な遺構は、掘立柱建物跡40棟、竪穴住居跡4棟、土坑5基、区画溝1条などである。本地区内では、当地域で一般的な竪穴住居跡は少なく、特に掘立柱建物跡は集落を構成する主体を示している。

建物規模の内訳は2×4間が2棟（内廂付1棟）、2×3間が13棟（内廂付1棟）、2×2間が10棟（内廂付3棟、純柱4棟）、2×1間が4棟などで、2×3間の建物が主体を占める。

建物跡の柱穴掘り方は、方形で一辺0.8～1m以上を測る大型のものと、円形で小型の二つに大別され、大型の掘り方は主に2×3間以上の建物跡に認められる。中でも吉原 I～III遺跡では、建物の柱穴掘り方が一辺0.8～1m以上を測る建物が遺跡の主体である。

建物の主軸方向は、座標北を向くもの9棟、座標北から西に振れるもの23棟、座標北から東に振れるものの8棟の大きく三つに分けられる。各方向間での遺構の切り合いは、吉原 I 遺跡において、SB90→SB91の先後関係が確認されたため、東に振れる一群から西へ振れる一群への変遷が想定される。座標北を向く一群、座標北から西に振れる一群の中でも、重複関係や切り合いが認められるため、各遺跡においてそれぞれ少なくとも2ないしは3時期以上の変遷が考えられる。

今調査で特記されるものに、吉原 I 遺跡で検出された東西約70m、南北約77mの方形の区画溝があげられ、内部には2×2間の純柱建物が直列して配置される。市内における本遺跡と同様の遺跡としては、境田B遺跡（一辺約25m以上）、石田遺跡（一辺約55m）などがあり、溝跡などの区画施設の内部に倉庫と考えられる、ほぼ同規格の純柱建物や側柱建物が直列やL字形に配置されている。本遺跡の性格などの詳細は、今後検討をするものの、官衙に関連した可能性もあり、年代は奈良時代後半～平安時代前半の、8世紀後葉～9世紀後半頃が比定されよう。

## (3) 奈良～平安時代の遺物について

吉原 I～IV・VI遺跡出土の奈良～平安時代の土器は、須恵器・土師器・赤焼土器である。以下、土器の種別をI～須恵器、II～土師器、III～赤焼土器、器種についてA～蓋、B～壺、C～高台壺、D～双耳壺、E～耳皿、F～甕、G～鉢、H～壺、I～塙と分類した。各々の器種は器形、調整技法などにより、さらに細分化され、以下、全体量が多く、細分可能な主な分類について概述する。

須恵器（I）の蓋（A）は形態により、1～3類に分類される。1類は天井部が平坦になるもの、2類は天井部が丸みを持つもの、3類は壺類の蓋になると思われるものである。壺（B）は底部切離しがヘラ切による1類、糸切の2類、静止糸切の3類に分けられ、形態や法量によりさらに細分される。高台壺（C）は底部切離しがヘラ切による1類、糸切による2類、切離し後、ヘラケズリ調整される3類に分けられ、形態や法量によりさらに細分される。甕（F）は、口径及び形態により、1～3類に分けられる。壺（H）は完形品がないが、頸部の長い壺（長頸壺）1類と、頸部の短い（短頸壺）2類、小型壺の3類に分けられる。

土器（II）の坏（B）は、ロクロ不使用のもので有段丸底の1類、無段平底で身の浅い2類、無段平底で身の深い3類、ロクロ使用の4類に分けられ、さらに内面が黒色処理されるa類、黒色処理されないb類に細分される。甕（F）は口径、法量により小型の1類、大型の2類に分けられる。鉢（G）は口縁形態により、体部から口縁部にかけて内傾する1類、口縁部が外反する2類に分けられる。

赤焼土器（III）の坏（B）はロクロ痕が明瞭な1類とあまり明瞭でない2類に分けられるようである。甕（F）は口径により小型の1類、大型の2類に分けられる。

以上の分類に基づき、各遺跡で出土した遺物のうち、主に供膳具の構成は、吉原I遺跡ではIA1～2、IB1～2、IC1、IB1～3、同II遺跡ではIA1～3、IB1～2、IC1～2、ID、IB3、III B、III C、同III遺跡ではIA1～2、IB1～3、IC1～2、IB1～4、III B、同IV遺跡ではIB2、IB3、同VI遺跡ではIA1、IA3、IB1～2である。各遺跡の年代は、以上の構成などから、吉原I遺跡が8世紀後葉～9世紀前半、同II遺跡は8世紀末～9世紀後半、同III遺跡は8世紀後葉～9世紀前半、同IV～VI遺跡は9世紀前半があてられる。

また、底部にヘラ記号「×」をもつ須恵器が計9点出土した。内訳は吉原I遺跡2点、同II遺跡1点、同III遺跡5点、同IV遺跡1点を数える。底部切離しはその内、糸切が8点で、1点のみヘラ切である。各遺跡で主体となる時期は少しずつずれるものの、共通した生産地からの供給が窺え、遺跡相互の関連性があったことを示す資料と思われる。なお、底部にヘラ記号「×」をもつ須恵器は、上山市久保手窯跡で出土しており、生産地と消費地の関係が想定される。

#### （4）中世の遺構と遺物について

調査の結果、吉原I遺跡における中世の集落の様相が明らかになった。検出された主な遺構は、掘立柱建物跡、竪穴状遺構、堀跡、井戸跡、土坑、溝跡などである。

掘立柱建物跡は、一辺約50m四方の方形に廻る幅2.5～6mの堀跡の内部に主に検出され、母屋と思われる大型の掘立柱建物跡やそれに付随する小型の建物が配置されており、いわゆる「方形居館」の形態をなしている。建物跡の年代は、建物群を区画する堀跡と建物主軸が平行しており、同時期であるとすれば、堀跡出土の須恵器系・瓷器系陶器などの年代から14～16世紀に比定される。

方形区画する堀跡の外部には、井戸跡などの土坑群が分布する。井戸跡は径1m前後を測る、素掘りのもので、深さは深いもので3mを測る。井戸跡や土坑から、須恵器系・瓷器系陶器、瀬戸美濃系陶器や古錢、短刀などの金属製品が出土している。

井戸跡や土坑群の外側には竪穴状遺構が検出され、方形に区画された幅1～1.5mの溝跡内部に構築されている。規模や形態から、長軸が2～3mを測る小型のものと、長軸4～6mを測る大型の二つに分けられる。竪穴状遺構の年代は、瓷器系陶器や北宋銭などの遺物、竪穴状遺構を区画する溝跡からも、瓷器系陶器などが出土することから、堀跡と同じ14～16世紀にあてられる。

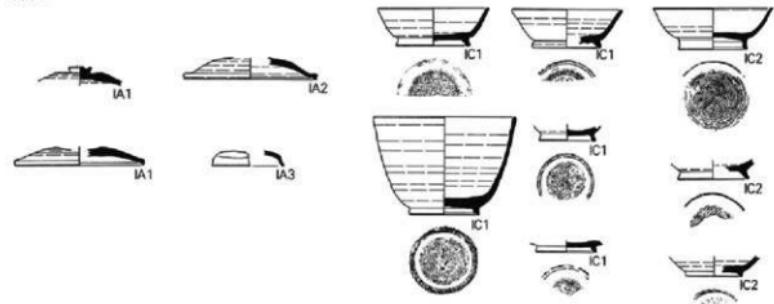
以上のことから、掘立柱建物跡及び堀跡は、中世に一般的ないわゆる「方形居館」と考えられ、堀跡の規模が半町四方と小規模であることから、在地の有力層が居住したものと推測される。また、「方形居館」外部には、井戸跡などの土坑群が検出されており、その外側に竪穴状遺構が分布する。これらは貯蔵施設や作業場的な空間として利用されたものと考えられる。

吉原I遺跡の西に隣接する若宮の櫛跡でも、中世の堀跡や掘立柱建物跡が検出されている。堀跡の詳細な時期は不明ながら、溝跡や表土から13世紀代の青磁や須恵器系陶器が出土し、吉原I遺跡とも時期が一部重なるため、何らかの関連があったものと想定される。本地区内は下谷柏から須川を渡河してすぐの地点で、旧羽州街道が通るなど水・陸上交通上の要衝の地である。このような地において、古代から中世にかけて、街道や水運などを掌握すべく当地域に集落が断続的に営まれたものと考えられる。

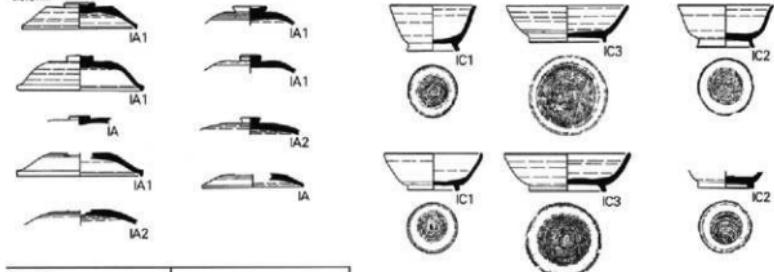
## 吉原 I



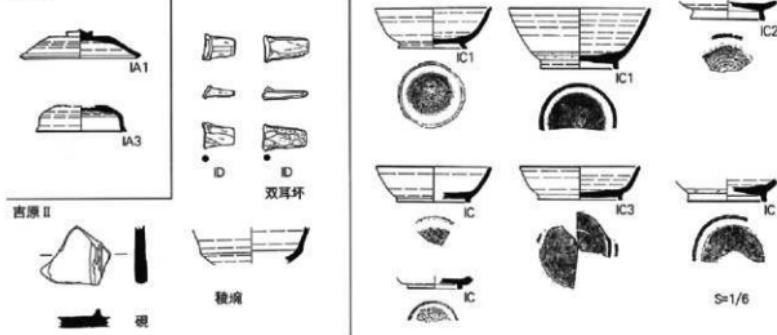
## 吉原 II



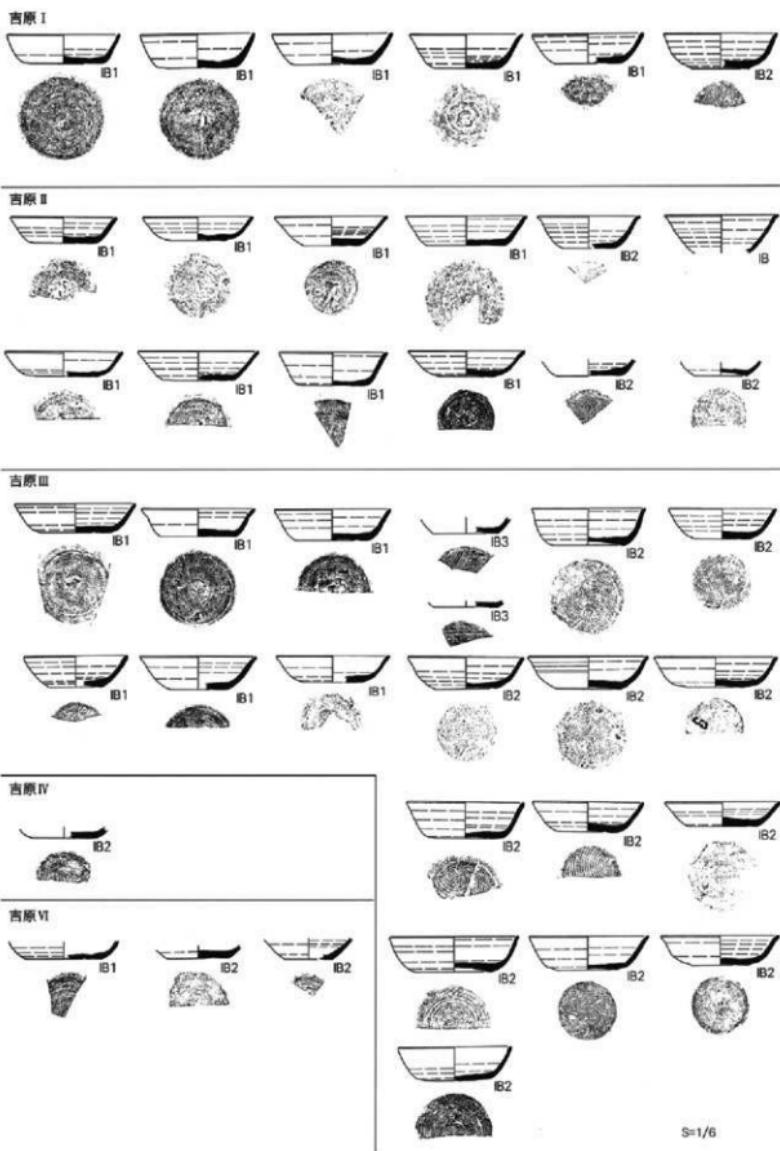
## 吉原 III



## 吉原 VI



第172図 吉原 I～IV・VI遺跡奈良～平安時代土器分類集成図（1）



第173図 吉原 I ~ IV・VI遺跡奈良～平安時代土器分類集成図（2）